

令和元年度(平成31)指定
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
(地域魅力化型)

研究開発実施報告書

第1年次



令和2年3月
島根県立松江東高等学校

松江東高等学校グランドデザイン

教育方針!

高い知性と、すぐれた人格を備え、心身ともに健全で、人間性豊かな人材の育成をめざす

目指す学校像

生徒の持つ可能性の拡充に、師弟同行で挑戦する学校!

育てたい生徒像

【教員の思い】

～東高生につけさせたい力～

学 力：学ぶ力・学んだ力、意欲・たくましさ
社会力：社会性、コミュニケーション力、国際性
人間力：自尊心・思いやり、人権意識・生命の尊重、
進路実現

【地域・保護者の思い】

生徒の目指す進路希望の実現
郷土・地域・人を愛する生徒の育成
地域社会の活性化

・自分らしいライフデザインの実現をめざす生徒
・持続可能な社会を創造する地域共創人

教職員研修、授業評価、公開授業週間

広報活動
ホームページ
EAST NEWS

魅力化コンソーシアム
学校評議員
学校評価

令和元年度教育目標 (3つの力)

人とつながって
生きる力
(高まっていく人間力)

自己の未来を
切り拓いていく力
(向っていく学力)

地域社会の今と
未来に関わる力
(広がっていく社会力)

自分を知る、伸ばす
カリキュラム

社会で自分を
生かす

社会を知る
カリキュラム

「3つの力」を育てる豊かな学び(重点目標・具体策)

自他の人権を尊重し、互いが
高め合う切磋琢磨の推奨

生徒に柔らかく丁寧に向き合い
生徒が安心して学べる集団づくり
人権・同和教育の推進
あいさつの励行
ふるまいの向上

様々な活動で主体的に活動
生徒会の活動の充実
部活動で全国レベルの実績を目指す

自ら学びを取りに行く
生徒を育てる

主体的・対話的で深い学び
全教職員で授業改善
地域課題解決学習
ETC・学力テスト・模擬試験・
土曜講座

キャリア教育の推進
島根大学などとの連携
東京研修旅行
企業との連携
社会人講話

地域社会への貢献意識を向上させ、
地域に信頼される学校づくり

地域社会に貢献
「地域との協働による高等学校教育改革
推進事業」により地域共創人の育成
魅力化コンソーシアムの設立、運営
島根大学、地域などとの連携

積極的な情報発信
ホームページ
学校だより「EAST NEWS」
進路ジャーナルなど

「師弟同行」

教職員と生徒がいっしょになって新たな伝統を創っていきます

「自立への道程」

「地域共創人」を育成します。

文部科学省
「地域との協働による高等学校
教育改革推進事業(地域魅力型)」

島根大学と島根県教委との
高大連携に関する協定による
パイロットモデル校

島根県教委
高校魅力化コンソーシアム
先導モデル創出事業(都市型)

H29~H30
島根県教委
教育課程実践モデル事業

4つの事業を掛け合わせて、魅力化・特色化を図っていきます。

東高特色化のアウトライン

- ・「主体的・対話的で深い学び」を全教科・科目で実践
- ・島根大学や地域との連携を強化
 - 島根大学や各商工団体と探究プログラム開発
 - 留學生や松江市の国際交流員との交流活動プログラムの開発
- ・地域課題解決型学習による実践的な学びを実施
 - 「地域共創人育成Project」始動
- ・多様な選択教科を開設
(Society5.0で生き抜く力を養成する教育を展開)
 - 文理融合型科目「EASTプログラミング基礎」、「データサイエンス」と地域共創コースの設置

東高では「地域共創人」とは「松江市をフィールドとした学びや経験を活かして、地域社会の未来に向けて挑戦し、他者と協働して新たな価値を創造しながら、自己実現を図る人」、このように決めました。

「地域共創人育成Project」をとおして生徒につけたい力

①主体的学習者
としての力

②探究的
学習力

③社会的自立力
(キャリア形成力)

④地域共創力
(価値創造力)

⑤多文化
協働力

研究開発構想名

中核市発 持続可能な地域社会を創造する「地域共創人」の育成

松江東高等学校のめざす学校像と教育目標

目指す学校像 生徒の持つ可能性の拡充に、師弟同行で挑戦する学校
 育てたい生徒像 「自分らしいライフデザインの実現をめざす生徒」「持続可能な社会を創造する地域共創人」
 教育目標 ①人とつながって生きる力 ②自己の未来を切り拓いていく力 ③地域社会の今と未来に関わる力

「地域共創人」とは？

①中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら、地域社会の未来に向けて挑戦する人
 ②地域のなかで生成された多様な価値くひと・こと(歴史・文化・自然)を探究するなかで、知的好奇心を高め、新たな価値を協働して創造しながら、自己実現を図る人

地域共創人育成を通じた期待効果

大学や地域との連携強化 → 地域の企業や保護者の意識改革 / しまね(まっえ)マインドの形成 → 人材の定着や環流、関係人口の増加

「地域共創人」育成に必要な力(育成目標や観点)と実現のための教育プログラム (★で示しているものが教育プログラム)

- ①主体的学習者としての力 → 学力、思考力、語学力、主体性
★「教育課程実践モデル事業」の継承
- ②探究的学習力 → 探究心、課題解決能力、分析力、情報処理力、サイエンス活用力
★総合的な探究の時間の「地域共創人育成Project」
- ③社会的自立力 (キャリア形成力) → コミュニケーション能力、人間関係構築力
★東京研修、社会人講話、企業訪問
- ④地域共創力 (価値想像力) → 地域への好奇心、価値を見つけ出す感性と力、創造力、起業家精神
★課題解決型学習、ボランティア活動
- ⑤多文化協働力 → 自他文化の受容力、語学力
★設定科目「EAST国際交流」等の検討、近隣の学校・施設との交流

研究開発のしかけ

- 1年次 地域に関心を持つ、地域の価値を知る
- 2年次 地域とつながり探究する、地域とともに挑戦する
- 3年次 地域の中から新しい価値を創造する

評価方法 アンケート / EASTポートフォリオの活用 / ルーブリック評価

新たな取組

- ・カリキュラム開発 → 文系選択者への理系的資質・能力の育成
「地域共創コース」の検討
設定科目「データサイエンス」、Ruby講座
- ・クラウドファンディング → 学校魅力化財源の確保の研究
- ・松江市とタイアップした「中核市高校魅力化シンポジウム」の開催
- ・キャリアパスポートの導入
- ・課外活動の強化 → ボランティア活動等

管理機関の支援

- (島根県教育委員会)
- ・高校魅力化コンソーシアム
- 先導モデル創出事業
- ・島根大学との高大連携協定

松江東高校魅力化コンソーシアム

- ・魅力化戦略ワーキンググループ
- ・教育プログラム開発ワーキンググループ
- ・カリキュラム開発等専門家
- ・地域協働学習実地支援員

共創する人々

- ・島根大学等との連携
- ・企業や自治体関係者との連携
- ・地域住民との連携
- ・卒業生(会)との連携
- ・近隣の学校や施設との連携
- ・保護者(PTA)との連携

巻 頭 言

島根県立松江東高等学校

校 長 野 々 村 卓

本校は、島根県で中核市となった県庁所在地でもある松江市に立地しています。創立は昭和 58 年であり、今年で 37 年目の全日制普通科 6 クラス（1 年生からは 5 クラス）の学校です。これまでの本校の学習においては、①「主体的・対話的で深い学び」がまだ十分に展開されていない、②総合的な学習（探究）の時間の活動が調べ学習にとどまっている面がある、③都市部の学校であり、地域社会との関わりが少ない、④体系的なキャリア教育が実施されていない、⑤Society5.0 の到来を意識した学習が不足している、といった点に課題がありました。

これらの課題を克服し、学校の魅力化・特色化のために昨年度、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）」に申請し、昨年度末にその申請が採択され、今年度から 3 年間この事業を進めています。今回の報告書は、その 1 年目の成果を記したものです。

島根県教育委員会は、地域と連携・協働しながら「教育の魅力化」に取り組み、島根の子どもたち一人一人に自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育むため、学校と地域社会がその目標を共有し、協働を図りながら、島根の教育をよりよいものに高めていくことを全ての県立高校に求めています。

本校では、地域とともに目指す地域人材像を「松江市をフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら、地域社会の未来に向けて挑戦し、他者と協働して新たな価値創造しながら、自己実現を図る人」としました。本校ではこれを「地域共創人」と定義しました。この 3 年間の本校の目標は、「地域共創人」に必要な力であると考え「主体的学習者としての力」「探究的学習力」「社会的自立力(キャリア形成力)」「地域共創力(価値創造力)」「多文化協働力」を身につける社会に開かれた教育課程（カリキュラム）を、地域にある大学や企業と連携しながら 3 年間で構築することです。

また、この事業を推進することで生徒たちが確かな「しまね（まつえ）マインド」を持つことにもつながり、高校卒業者の多くが就職や進学で県外に転出するなど若者の県外流出が進んでいる島根県にあって、人材の定着、人材の環流及び関係人口の増加にもつながると考えています。

この事業を支える組織として、島根大学、松江市、島根県中小企業家同友会、松江商工会議所と連携して今年度「松江東高等学校魅力化コンソーシアム」を立ち上げました。この組織のワーキンググループにより、総合的な学習（探究）の時間で実施する課題解決型学習である「地域共創人育成プロジェクト」の「MATSUE 探究」のプログラム開発を行い、授業実践してきました。今年度の実践を活かして来年度以降もこの取組を、より進化させていきたいと考えています。

最後になりましたが、本事業に多大なご支援をいただいています島根大学、松江市役所、島根県中小企業家同友会、松江商工会議所の皆様、さらにはご支援いただいた文部科学省、島根県教育委員会の方々に心よりお礼申し上げます。

今後ともよろしく申し上げます。

目 次

第1章 研究開発の概要	
1 目的・目標	1
2 現状分析と研究開発の仮説及び期待される効果	2
(1) 現状分析	
(2) 研究開発の仮説及び期待される効果	
3 具体的内容	3
(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画	
(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制	
(3) 必要となる教育課程の特例等	
(4) その他特記事項	
4 具体的指標	4
(1) 地域人材を育成する高校としての活動指標	
(2) 普及活動	
(3) その他本構想における取組の具体的指標	
第2章 研究開発の内容	
1 実施体制	5
(1) 管理機関の取組・支援について	
ア 「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」の実施	
イ 「明日のしまねを担うキャリア教育推進事業」及び「普通科高校における資質・能力育成支援事業」の実施	
ウ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結	
(2) コンソーシアム構築について	7
ア 構成団体、概念・体制図	
イ 構成員	
ウ 活動日程・活動内容	
エ 令和2年度事業計画等（案）	
(3) カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員について	12
ア 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け	
イ 活動日程・活動内容	
(4) 校内組織について	15
ア 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制	
イ 学校全体の研究開発体制、進捗管理及び成果の検証・評価等	
ウ カリキュラム開発に対するコンソーシアムの取組	
(5) 運営指導委員会について	
ア 構成員	
イ 活動日程・活動内容	

2 研究開発の実績	18
(1) 「地域共創人育成 Project」カリキュラム開発	
ア 科目「総合的な探究の時間（1年生）」における探究学習	
イ 科目「総合的な学習の時間（2年生）」における探究学習	
ウ 科目「総合的な学習（探究）の時間」教員アンケート	
(2) 文理融合型の教育を目指す「地域共創コース」のカリキュラム研究	38
ア 学校設定科目「データサイエンス」の研究開発	
イ 学校設定科目「EAST プログラミング基礎」の研究開発	
(3) 単位制普通高校移行や新学習指導要領を見据えた学校魅力化研究	39
(4) 教育を核とした多文化協働・地域共創研究	
(5) 類型毎の趣旨に応じた取組	

第3章 普及活動

1 島根県教育委員会による研修会	42
(1) 高校魅力化コンソーシアム構築事業第1回研修会	
(2) 高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業等成果報告会	
2 総合的な学習（探究）の時間「MATSUE 探究Ⅰ、Ⅱ」の公開	46
(1) 1年生総合的な探究の時間「MATSUE 探究Ⅰ」の公開	
(2) 2年生総合的な学習の時間「MATSUE 探究Ⅱ」の公開	
3 その他広報活動	47
(1) 島根大学「教育・入試懇談会」	
(2) 教職員研修会の公開	
(3) その他	

第4章 研究開発の効果と評価及び事業終了後を見据えた取組

1 目標の進捗状況、成果、評価	48
2 教職員の資質向上	49
(1) 授業改善のための公開授業・研修	
(2) 魅力化に関する教職員研修会	
(3) 魅力化に関する教職員アンケート	
3 持続可能な学校魅力化研究及び今後の課題	59
(1) 令和3年度以降の持続可能なコンソーシアムの構築について	
(2) 本事業終了後の財源確保	
(3) 指導上の課題	

【関係資料】

- ・コンソーシアム規約
- ・教育課程表
- ・課題研究テーマ一覧
- ・高校魅力化評価システム診断結果チェックシート
(三菱UFJコンサルティング&リサーチ)

第1章 研究開発の概要

対象 学科 生徒 数	普通科								学校全体の規模(R元.5.1現在)						
	1年		2年		3年		計		1年5クラス(186名) 2年6クラス(226名) 3年6クラス(220名)計632名						
	186名		226名				412名								
教職 員数	校長	教頭	事務 長	主幹 教諭	教諭	養護 教諭	常勤 講師	非常 勤講 師	実習 助手	ALT	事務 職員	学校 司書	その 他職 員	計	
	1	1	1	1	40	2	3	11	1	1	3	1	7	73	
研究開発 構想名	中核市発 持続可能な地域社会を創造する「地域共創人」の育成														
研究開発 の概要	<p>大学や地域の企業等との連携強化に取り組みながら、地域の未来を共に創っていく「地域共創人」を育成する。確かな「しまね(まつえ)マインド」を持たせることで松江地域の人材の定着、人材の環流につなげる。</p> <p>高校魅力化の先進県である島根県が培ってきたノウハウを活かし、全国の中核市のモデルケースとなることを目指す。</p>														

1 目的・目標

本校が核となる「松江東高等学校魅力化コンソーシアム」が目指す地域人材像は、「中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら地域社会の未来に向けて挑戦する人」であり、同時に「地域のなかで生成された多様な価値くひと・しごと・こと(歴史・文化・自然)を探究するなかで、知的好奇心を高め、新たな価値を協働して創造しながら自己実現を図る人」である。

これを「地域共創人」と定義した本校は、次の6点を目標に、それに必要な力と位置づけている「主体的学習者としての力」、「探究的学習力」、「社会的自立力(キャリア形成力)」、「地域共創力(価値創造力)」、「多文化協働力」を身につける教育環境を3年間で構築する。

- 1 卒業時に、入学時と比べて地域への興味・関心や愛着を持つ生徒が増加するとともに、実際の地域課題を自ら設定して取り組む生徒が増え、課題が解決された事例や解決策の事例が複数存在する。
- 2 卒業時に、入学時と比べて自分や地域社会の未来のビジョンを具体的に創造し、それを周囲に伝達できる生徒が増加する。
- 3 事業終了時に、高大連携をすすめている島根大学との協働の機会が増大し、あわせて入学希望者も増加する。
- 4 事業終了時に、島根大学以外の共創する人々との協働の機会が増大し、あわせて卒業時の地元就職率・進学率が増加する。
- 5 事業終了時に持続可能な事業モデルとして、校内・地域に浸透し、事業が継続される。
- 6 事業終了時に魅力的な事業モデルとして紹介され、中核市をはじめとした中規模都市に事例が導入される。

2 現状分析と研究開発の仮説及び期待される効果

(1) 現状分析

本校は島根県で中核市となった県庁所在地でもある松江市に立地する。中核市である松江市の利点は、都市の機能が身近に感じられるスケールの中でまとまっていることである。松江市の経済は伝統産業から地元資本の中小企業、さらには都市資本の大企業の支社・工場まで活動しており、第一次産業から第三次産業までのあらゆる産業で成り立っている。つまり地方であるものの、社会という生態系を構成する要素が過不足なくバランスよく存在するのが松江市という中核市のスケールメリットである。松江市という地域のなかで生成された多様な価値を探求しつつ、地域課題の解決に挑み、知的好奇心を高めていくことは新たな価値を協働して、創造していこうとする素養を養うことにつながると考える。

現在の社会においては、モノ・カネを有効に活用するための知識や情報が各分野において共有されず分野横断的な連携が不十分であり、その活用はヒト、つまり各個人の資質・能力に任されてきた面が大きい。また、各分野の主体（企業等）が定めた目標にしたがって与えられたことを各個人がこなす中で、各個人は他者評価（社会や企業等による評価）により自己実現の尺度を求めてきた部分も大きい。他者評価であるがゆえに、価値が高いものが多く集中する都会地を地方出身者はめざしてきた。しかし、Society 5.0 で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全てのヒトとモノがつながり様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで今ある課題や困難、例えば少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差、人材不足が克服されていく社会である。人工知能（AI）により必要な情報が必要な時に提供されるようになり、課題や困難が克服されていく社会である。その社会において大事なことは、各個人が主体的に様々な分野の物事にに関わりながら、分野を超えて様々な知識や情報を横断的に共有する人々がチームとして協働し、新たな価値を創造していくことである。そしてその中で各個人が見出した価値に基づいて自己実現の判断ができるようになることである。

人口減少問題が課題となる中、地域の将来を担う人材の育成は重要な課題となっており、教育に寄せられる期待はとて大きなものとなっている。島根県教育委員会は、生徒一人一人に地域社会の未来を切り拓く資質・能力を育むために本校を含めたすべての県立高等学校に対して「高校魅力化コンソーシアム」の設立等、高校魅力化を求めている。

本校は島根県教育委員会の「教育課程実践モデル事業（H29～30）」の指定を受け、2年間授業改善等を進めてきた。しかし、

- ①「主体的・対話的で深い学び」がまだ不足している。
- ②総合的な学習の時間の活動が調べ学習にとどまっている面がある。
- ③地域社会との関わりが少ない。
- ④体系的なキャリア教育が実施されていない。
- ⑤Society5.0の到来を意識した学習が不足している。

といった点にまだ課題が残っている。

(2) 研究開発の仮説及び期待される効果

本校は島根県教育委員会より、「島根大学や地域との連携を強化して地域課題解決型学習による実践的な学びを実施するとともに、多様な選択教科を開設できる単位制普通高校として、Society5.0で生き抜く力を養成する教育を展開する」学校となることを求められている（島根県教育委員会『県立高校魅力化ビジョン』平成31年2月）。

一方、人口減少問題を抱える島根県（松江市）では、地域の将来を担う人材の育成は重要な課題となっており、教育に寄せられる期待はとて大きい。

本校が抱える課題や地域が抱える課題を克服するためには、地域課題解決型学習等の探究的な学びを行う「社会に開かれた教育課程」の編成が不可欠である。これを実現するために、産官学の連携をこれまで以上に強化し、松江市、島根大学、松江商工会議所や島根県中小企業家同友会等とともに「松江東高等学校魅力化コンソーシアム」を構築する。そして、中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら、地域社会の未来（Society 5.0）に向けて挑戦する人材を育成するため、カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施支援員の協力を得て、次の6つの研究開発を行う。

- | |
|---|
| I 「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム研究（地域共創人育成 Project） |
| II 文理融合型の教育を目指す2年次からの「地域共創コース」のカリキュラム研究 |
| III 県指定で2年間実施した教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究 |
| IV 教育を核とした多文化協働・地域共創研究 |
| V 持続可能な学校魅力化事業研究 |
| VI 単位制普通高校移行や新学習指導要領の内容を見据えた学校の魅力化研究 |

地方都市であるものの、社会という生態系を構成する要素が過不足なくバランスよく存在するスケールメリットがある松江市をフィールドとした探究的な学びを進めていくことは、「地域共創人」育成の核となる取組である。

また、本校が目指す「地域共創人」の育成により、生徒に「しまね（まつえ）マインド」が形成されれば、松江市への人材の定着や環流、関係人口の増加につながると考える。また、大学や地域との連携が強化される中で本校と協働した企業や保護者の意識が変われば、持続可能な地域社会の実現につながっていくと考える。さらに、県庁所在地でもある松江市が活性化することで、島根県全体の活性化にもつながると考える。

松江市が抱える課題や問題は全国各地の同規模の都市が抱えており、本事業構想が成功すればそのノウハウを全国に提供することもできる。

3 具体的内容

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

総合的な探究の時間に「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム「地域共創人育成 Project」を開発する。

1年次には「地域に関心を持つ、地域の価値を知る」、2年次には「地域とつながり探究する、地域とともに挑戦する」、3年次には「地域の中から新しい価値を創造する」をテーマに掲げて実施する。成果発表等を通して保護者や地域の関係機関の意識改革を目指す。

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

本事業構想の企画・運営を行う「教育プログラム開発ワーキンググループ」と、校内組織として新設する「魅力化推進部」を中心にカリキュラム・マネジメントを推進する。

(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし。

(4) その他特記事項

2017年度から2018年度にかけて島根県教育委員会から「教育課程実践モデル事業」の指定を受けた。大学教授等で構成された運営指導委員会の指導・助言を活かしながら、2年間授業、評価、カリキュラム設計の改善に取り組んだ成果として、全教員がアクティブ・ラーニング型の授業に取り組むような風土が醸成されるとともに、学習成績評価の改善、授業評価アンケートの改善、教育課程の改善等が実現した。

4 具体的指標

(1) 地域人材を育成する高校としての活動指標

総合的な探究の時間「地域共創人育成 Project」の研究授業を年間に1年生は2回、2年生は1回、3年生は1回実施する。また、研究開発Ⅲに係る公開研究授業を年2回実施する。

事業実施の3年間の成果目標

N0	内容	2019年度目標	2020年度目標	2021年度目標
1	県内外の教育機関等に公開する授業研究等の回数	5	6	7

(2) 普及活動

年に1回「研究発表会」を実施する。また、ホームページをリニューアルして取組の成果を広く発信する。

事業実施の3年間の成果目標

N0	内容	2019年度目標	2020年度目標	2021年度目標
1	県内外の教育機関等に取り組みを紹介するための研究発表の回数	1	1	2
2	県内外の教育機関等に取り組みを紹介するために学校のホームページを更新する回数	25	30	35

第2章 研究開発の内容

1 実施体制

(1) 管理機関の取組・支援について

ア 「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」の実施

(ア) 高校魅力化コンソーシアムの設計・設立・運營業務の支援や、普及活動及び成果の取りまとめを行う「高校魅力化コンソーシアムマネージャー」を配置

(株) エブリプラン 福井 香衣 氏
柏井 加那子 氏

(イ) 「県立高校魅力化ビジョン」に掲げられている、学校と地域の協働を推進するための「高校魅力化コンソーシアム」構築し、地域協働スクールの実現を図るための研修会を全県立高校対象に実施

高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業 第1回研修会 (R1. 7/22)
1 全体会 2 先導モデル別分科会 (松江東高校、津和野高校、隠岐島前高校、雲南市教育委員会) 3 自校・自地域別分科会 (市部、離島・中山間地域、雲南市) 4 全体会
高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業等成果報告会 (第2回研修会) (R2. 2/7)
1 全体会 (1) 島根県教委 佐藤教育監 「県立高校魅力化ビジョンの実現に向けて」 (2) 次年度以降に向けた取組 (学校ビジョン実現に係る行程表の作成) (3) 先導モデル校パネルディスカッション (松江東高校、津和野高校、隠岐島前高校、雲南市教委、島根県教委) (4) 先導モデル校発表 (プロフェッショナル型) 出雲農林高校、(地域魅力型) 平田高校 2 分科会 1 コンソーシアム構築、社会に開かれた教育課程づくりに関する意見交換、質疑応答 (パネリスト 松江東高校、津和野高校、隠岐島前高校、雲南市教委) 3 全体会 2 A しまね留学、B 模擬探究学習、C 学びの土壌を育む交流の場づくり、D 加配主幹教諭

(ウ) コンソーシアムを支援する県教育庁のスタッフを「伴走者」として配置
コンソーシアムの設置や運営にあたる県側の窓口となり、県の有する権限・予算・施策や人的リソースの活用が有効である場合は担当部署等につなぐなど課題解決を支援する。

島根県教育庁教育指導課 地域教育推進室 後藤 康太郎 社会教育指導主事

イ 「明日のしまねを担うキャリア教育推進事業」及び「普通科高校における資質・能力育成支援事業」の実施

(7) 「明日のしまねを担うキャリア教育推進事業」

1 事業の趣旨	県立の高等学校及び特別支援学校高等部において、県内の働く大人から学ぶ機会を設ける「働くことを学ぼう事業」、課題解決型学習を通して島根の将来を担う人材の育成を図る「学びを活かそう事業」を実施し、キャリア教育を推進する。
2 事業の目的	変化の著しい社会環境の中で、生徒が「生きる力」を身に付け、将来の夢や目標を持ち、自ら考え、発達の段階に応じて働くことへの意欲を高めることにより、適切に進路を選択する力を育成し、社会人・職業人としてたくましく自立した島根に貢献する人材を育てる。
3 事業の構成及び内容	<p>(A) 働くことを学ぼう事業</p> <p>①企業見学事業 県内企業等を見学することを通じて、生徒が企業の活動や働き方の実態を知る取組</p> <p>②職業意識啓発セミナー事業 職業人や卒業生の講話及び実演や体験等を通じて、生徒が働くことの意義や産業への理解を深める取組</p> <p>③インターンシップ事業 県内企業での就業体験や社会体験を通じて、生徒が企業の実態や働くことの意義を理解する取組</p> <p>(B) 学びを活かそう事業</p> <p>①課題解決型学習推進事業 産学官と連携して課題解決型学習を行い、その成果を地域での発表や小中学校への出前授業を通じて、生徒のコミュニケーション力の向上と学びの深化を図る取組</p> <p>②課題解決型学習成果発表会 課題解決型学習の全県的な展開を通して、県立学校で取り組んだ課題解決型学習の成果発表会を学校の枠を越えて行うことで、各取組への相互理解と活動の質的向上を図る。</p> <p>③全国大会での研究成果披露 顕著な研究成果について、県代表として全国大会の場で披露すること等により、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上等、学びの深化を図る。</p>

(イ) 「普通科高校における資質・能力育成支援事業」

実施事業の内容	<p>学習指導要領の改訂をふまえ、教科指導等の教育活動を通して、各校で目指す生徒像の実現、生徒の身につけさせたい資質・能力等の育成に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則直接的に生徒の教育活動に資するものとする。 ・生徒一個人に係る経費は原則不可とする。 ・「明日のしまねを担うキャリア教育推進事業」では対応できない事業とする。
---------	---

ウ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結

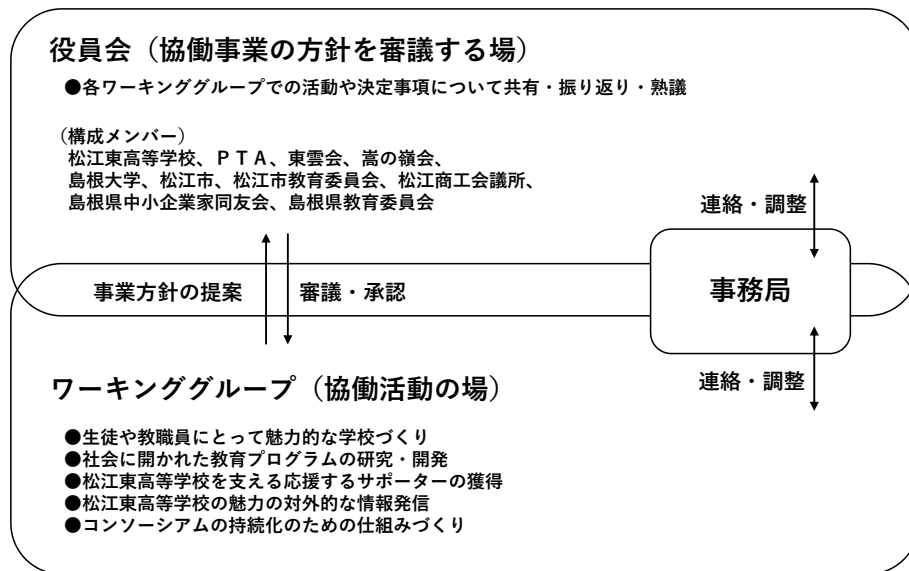
国立大学法人島根大学と島根県教育委員会において、県立高等学校と大学との連携及び協力（高大連携）に関する連携協力協定を平成31年2月28日に締結しており、この協定に基づき本校をパイロットモデル校として設定し、取組を推進した。

(2) コンソーシアム構築について

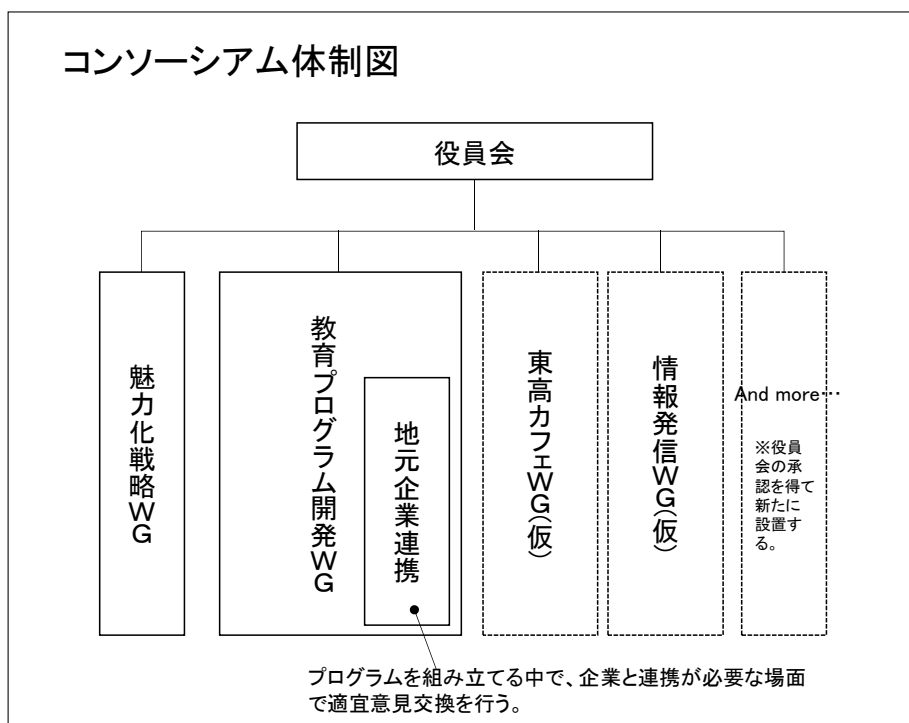
ア 構成団体、概念・体制図

松江東高等学校	松江東高等学校 P T A	東雲会（松江東高等学校同窓会）
一般財団法人嵩の嶺会	国立大学法人島根大学	松江市、松江市教育委員会
松江商工会議所	島根県中小企業家同友会	島根県教育委員会

コンソーシアム概念図



コンソーシアム体制図



イ 構成員

○役員会

氏名	所属・役職
物部 伸吾	東雲会 会長
野々村 卓	松江東高等学校 校長
杉江 実郎	島根大学教育・学生支援機構 大学教育センター長
矢野 正紀	松江市役所産業経済部 産業連携専門監
三賀森 卓司	松江市教育委員会 学校教育課長
竹下 昌宏	松江商工会議所 事務局次長
野津 積	島根県中小企業家同友会 代表理事
宮脇 健	嵩の嶺会 理事長
福田 英樹	松江東高校PTA 会長
後藤 康太郎	島根県教育委員会教育指導課地域教育推進室 松江東高校伴走担当

○魅力化戦略ワーキンググループ

○教育プログラム開発ワーキンググループ

氏名	所属	部門	氏名	所属
福田 英樹	P T A	1 年部	中村 怜詞	島根大学
物部 伸吾	東雲会		熊丸 真太郎	島根大学
金見 誠司	東雲会		南口 哲也	松江東高校
宮脇 健	嵩の嶺会		田村 高祐	松江東高校
泉 雄二郎	島根大学	2 年部	高須 佳奈	島根大学
中村 怜詞	島根大学		千代西尾 祐司	島根大学
高須 佳奈	島根大学		古藤 昭弘	松江東高校
矢野 正紀	松江市		足立 樹洸	松江東高校
三賀森 卓司	松江市教育委員会	連携 企業	野津 積	中小企業家同友会
岩見 真稔	松江商工会議所		金築 理恵	中小企業家同友会
野津 積	中小企業家同友会		矢野 正紀	松江市
金築 理恵	中小企業家同友会		岩見 真稔	松江商工会議所
後藤 康太郎	島根県教育委員会		物部 伸吾	東雲会会長
野々村 卓	松江東高等学校		金見 誠司	東雲会
			宮脇 健	嵩の嶺会

ウ 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年 7 月 22 日	高校魅力化コンソーシアム構築事業第 1 回研修参加 ・コンソーシアム構築に向けた課題の共有と先導モデル校の取組事例発表
令和元年 7 月 24 日	第 2 回設立準備会 ・「地域共創人」の育成像の共有
令和元年 9 月 24 日	第 3 回設立準備会 ・規約案、組織体制案に関する協議
令和元年 10 月 23, 24 日	「全国高等学校教育改革研究協議会」参加 ・高等学校教育改革の動向他 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット参加 ・高校魅力化評価システムの結果読み取り・共有他
令和元年 10 月 25 日	埼玉県立小川高等学校視察 ・小川地域における教育資源に関する探究活動「おがわ学」の取組等について調査
令和元年 12 月 4 日	コンソーシアムを設立 第 1 回役員会 ・規約について協議し、承認を得た
令和 2 年 1 月 9 日	第 1 回教育プログラム開発ワーキンググループ ・R2 年間計画等について
令和 2 年 1 月 21 日	第 2 回教育プログラム開発ワーキンググループ ・R2 年間計画等について
令和 2 年 2 月 19 日	第 3 回教育プログラム開発ワーキンググループ ・生徒に見つけたい資質・能力について
令和 2 年 2 月 25 日	第 1 回魅力化戦略ワーキンググループ ・R2 計画等について
令和 2 年 3 月 17 日 (中止)	第 2 回役員会 ・R2 計画等について

令和2年度 松江東高校魅力化コンソーシアム年間事業計画(案)

	協働事業	活動内容(案)	ワーキンググループの担当領域	事業内容	主担当(分掌等)	詳細	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	ミリヨクをつくる (生徒や教職員にとって魅力のある学校づくり)	・生徒、保護者の声を反映する仕組みの検討 ・教職員のススキルアップ ・働きやすくなる職場づくり	魅力化戦略	校内連絡会の開催 総合的な探究(学習)の時間に関する拡大学年会の開催 生徒の声を反映する仕組みの検討 教職員アンケートの実施 教職員研修の開催 保護者の声を反映する仕組みの検討	教頭 魅力化・学年会 教頭、魅力化 魅力化(福井M)	高校魅力化評価システム(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)(年1回) ・学校評価アンケート(年1回) ⇒生徒の声を反映する仕組みとなりうるか? アンケートをどうやって反映するかを考えるべきでは。 ・アンケート結果を魅力化戦略WGにて検討 高校魅力化評価システム(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)(年1回) 松江東高校魅力化教職員アンケート(年2回)												
2	マナビをもとめる (社会に開かれた教育プログラムの研究・開発)	・総合的な探究の時間」のプログラム検討 ・企業との連携方策の検討 ・学校設定教科・科目プログラムの検討	教育プログラム開発	1〜2年生の連続性のあるカリキュラムの検討・実施 生徒につけたい力のルーブリック作成 新たな科目(データサイエンス、EAST国際交流基礎)の実施 2021年度実施予定の「EAST地域探究」, 「EASTプログラムミミング基礎」カリキュラム開発	魅力化、学校設定科目担当、教務 手続・古藤、英語科、教務 魅力化、恩田、教務	別紙のとおり(教育プログラム開発WGの検討結果)												
3	ナカマをふやす (松江東高等学校を応援するサポーターの獲得)	・東高カフェ(仮)の定期開催 ・卒業生とのつながり強化 ・地域(川津地区)とのつながり強化	魅力化戦略 東高カフェ(仮)	東高カフェ(仮)の定期開催 サポーターの人材バンク作成 EAST NEWS、魅力化ニュースレターの発行 スクールの作成 HP更新 中学校説明会、オープンスクール デザイン統一 制服変更に向けた動き 資金調達に関する研究 会場の効率化の検討	東雲会、エブリック、事務局長(教頭) 東雲会、エブリック、事務局長(教頭) 魅力化 魅力化 校長 東雲会、総務部、OB・OG教員 生徒部、OB・OG教員 エブリック、事務局、東雲会 エブリック、事務局	1ヶ月に1回 ・生徒が大人と気軽に触れ合える場の運営 ・グッズ制作の検討 ・人材バンクのフォーマット作成 ・OB、サポーター人材等へ登録依頼 ・HP上でサポーター公開 年6〜8回程度 年間100回 年6〜8回程度 年間100回	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
4	ミリヨクをつたえる (松江東高等学校の魅力の対外的な情報発信)	・統一的なPR ・中学生、保護者へのアプローチ	情報発信(仮)	制服変更に向けた動き 資金調達に関する研究 会場の効率化の検討	東雲会、総務部、OB・OG教員 生徒部、OB・OG教員 エブリック、事務局、東雲会 エブリック、事務局	アンケート調査 ・生徒、保護者へのアンケート調査 ・制服を変えるか否かの決定 ・(変える場合)変更までのスケジュール立案 ・(変える場合)制服業者の決定 ・高校の教育活動における資金調達の事例調査 ・文科事業終了後の収支計算 ・東雲会の会報電子化 ・WEB会議システムの導入	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	カッドウをつづげる (コンソーシアムの持続化のための仕組みづくり)	・同窓会費やPTA会費の活用 ・コンソーシアムのあり方の検討	魅力化戦略	役員会の開催	教頭	モバイルWifiの導入 年3回												

令和2年度 総合的な探究の時間「地域共創人育成Project」カリキュラム（案）

目指す生徒像	自分らしいライフデザインを実現を目指す生徒 持続可能な社会を創造する地域共創人
研究開発名	中核市発 持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成

「地域共創人」として生徒に身に付けさせたい力	
①主体的学習者としての力 ②探究的学習力 ③社会的自立力(キャリア形成力) ④地域共創力(価値創造力) ⑤多文化協働力	

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年生	行事	入学式/オリエンテーション等	中間試験/総体	期末試験	終業式	始業式/学園祭		中間試験/遠足		期末試験/終業式	始業式	学年末試験	卒業式/高校入試/終業式
	枠組み	集団づくり	コントロール探究①(スキル練習)			ガイド探究②(スキル活用)							
	生徒に付けたい力	①主体的学習力 ・自分を知り力 ・他者を受け	①主体的学習力 ②探究的学習力 ・主体的に行動する力・思考力 ・諦めず追究する力・表現する力			①主体的学習力 ②探究的学習力 ③地域共創力 ④キャリア形成力 ⑤多文化協働力 ・主体的に行動する力・表現する力・思考力 ・諦めず追究する力・地域と関わる力					・表現する力・思考力 ・諦めず追究する力・地域と関わる力 ・自分の生き方を考える力		
	詳細	・アイスブレイク ・エンカウンター(自分のドリセツ作) 協働的マインドセット	島大高須先生講義(3回) 「東高のプロモーションツールをつくらう」			クラス選考/学園祭発表	クラス発表会		成果発表会(ホスターセッション)	到達度に応じた課題設定 ①ターゲットのプロモーションをつくる ②ビジネスプランのブラッシュアップ	学年発表会(於島大)		
2年生	行事	始業式	中間試験/総体	期末試験	終業式	始業式/学園祭		中間試験		期末試験/終業式	始業式	学年末試験	卒業式/高校入試/終業式
	枠組み	フリー探究③(実践)											
	生徒に付けたい力	①主体的学習者としての力 ②探究的学習力 ③社会的自立力 ④地域共創力 ⑤多文化協働力 ・主体的に行動する力・表現する力 ・思考力 ・地域と関わる力 ・他者を受け入れる力											
	詳細	地域・企業の課題探究(課題発見→探究→検証→成果物作成→発表) 振り返り											
3年生	行事	始業式	中間試験/総体	期末試験	終業式	始業式/学園祭	AO出願	中間試験	推薦出願	期末試験/終業式	センター試験	前期	卒業式/後期
	枠組み	フリー探究④(個人実践)											
	生徒に付けたい力	選択科目「EAST地域探究」											
	詳細	生徒が次の系統から主体的に課題設定 ①企業から提示された課題から選択 ②協力可能な企業から選択(課題は生徒が設定) ③生徒が自由											

(3) カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員について

ア 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け

カリキュラム開発等専門家

島根大学地域未来協創本部 講師 高須 佳奈氏（都度依頼し謝礼支払い）月2回程度来校
島根大学教職大学院 准教授 熊丸 真太郎氏（都度依頼し謝礼支払い）月2回程度来校

地域協働学習実施支援員

島根大学教職大学院 准教授 中村 怜詞（都度依頼し謝礼支払い）月3回程度来校
島根大学教職大学院 教授 千代西尾 祐司氏（都度依頼し謝礼支払い）月1回程度来校

上記4氏ともに「松江東高等学校魅力化コンソーシアム」の下部組織「教育プログラム開発ワーキンググループ」に属し、「地域共創人育成 Project」のカリキュラム開発を行った。

イ 活動日程・活動内容

カリキュラム開発等専門家

活動日程	活動内容
令和元年6月4日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて 2年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和元年6月7日	島根大学の講義を2年生が受講 ・イノベーション創生基礎講座
令和元年6月14日	島根大学の講義を2年生が受講 ・イノベーション創生基礎講座
令和元年7月8日	2年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・ポスターセッション事前打合せ
令和元年7月9日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年7月16日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年7月18日	2年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・2年生と島根大学学生によるポスターセッション事前打合せ
令和元年7月19日	2年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・2年生と島根大学学生によるポスターセッション
令和元年7月22日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年7月23日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、成果発表の発表方法について
令和元年8月16日	2年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・最終の成果イメージについて ・成果発表会までのスケジュールについて
令和元年8月21日	2年生総合的な学習の時間の活動について視察・助言

令和元年 8 月 22 日	2 年生総合的な学習の時間の活動について視察・助言 1 年生総合的な探究の時間に関する協議 ・2 学期の授業内容について ・教職員研修会について
令和元年 9 月 9 日	2 年生総合的な学習の時間の活動について視察・助言
令和元年 9 月 11 日	2 年生総合的な学習の時間の活動について視察・助言
令和元年 9 月 20 日	教職員研修会について事前打合わせ
令和元年 10 月 1 日	教職員研修会講師・視察 ・高校教育を取り巻く現状の把握 ・本校の課題の共有 ・本校で育てたい生徒像の明確化
令和元年 10 月 8 日	1 年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年 11 月 6 日	1 年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年 11 月 26 日	1 年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年 12 月 6 日	2 年生総合的な学習の時間学年発表会の視察・助言
令和元年 12 月 10 日	1 年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年 12 月 17 日	2 年生総合的な学習の時間学年発表会の指導・助言 講演会講師
令和 2 年 1 月 9 日	第 1 回教育プログラム開発 WG R2 年度 1, 2 年生総合的な探究の時間プログラム協議
令和 2 年 1 月 21 日	第 2 回教育プログラム開発 WG R2 年度 1, 2 年生総合的な探究の時間プログラム協議
令和 2 年 2 月 19 日	第 3 回教育プログラム開発 WG R2 年度 1, 2 年生総合的な探究の時間プログラム協議
令和 2 年 2 月 21 日 22 日	教職員研修会企画・コーディネート ・ロジック・ブランチャ&CLR ・Ambitious Target Tree

地域協働学習実施支援員

活動日程	活動内容
令和元年 6 月 4 日	1 年生総合的な探究の時間に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて 2 年生総合的な学習の時間に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和元年 6 月 7 日	2 年生総合的な学習の時間の視察・助言
令和元年 7 月 9 日	1 年生総合的な探究の時間に関する協議 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議

令和元年7月16日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年7月22日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年7月23日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、成果発表の発表方法について
令和元年8月22日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・2学期の授業内容について ・教員研修会について
令和元年9月9日	1年生総合的な探究の時間の講師 ・質問力を高めるには
令和元年9月10日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年9月17日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年10月1日	教職員研修会講師・視察 ・高校教育を取り巻く現状の把握 ・本校の課題の共有 ・本校で育てたい生徒像の明確化
令和元年10月29日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年11月19日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年11月26日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年12月10日	1年生総合的な探究の時間の指導・助言 ・授業の振り返りと教員の関わりについて協議
令和元年12月17日	1年生総合的な探究の時間の視察・助言 2年生総合的な学習の時間学年発表会の指導・助言
令和2年1月9日	第1回教育プログラム開発WG R2年度1,2年生総合的な学習の時間プログラム協議
令和2年1月21日	第2回教育プログラム開発WG R2年度1,2年生総合的な探究の時間プログラム協議
令和2年2月19日	第3回教育プログラム開発WG R2年度1,2年生総合的な探究の時間プログラム協議

(4) 校内組織について

ア 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

探究的な学びを実現し、魅力化を図るために新たな校務分掌「魅力化推進部」を設置

【メンバー】教員 6 名＋学校司書 1 名＋コンソーシアムマネージャー 1 名

①主な業務

- ・文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」関連
- ・総合的な学習（探究）の時間の企画・運営
- ・広報 PR ・ HP 関係
- ・図書関連

②毎週部会を実施

- ・R1 年度実績 31 回

イ 学校全体の研究開発体制、進捗管理及び成果の検証・評価等

本事業の進捗状況管理、コンソーシアムに関わる行事等を協議するために、「魅力化校内連絡会」を設置

【メンバー】校長、教頭、事務長、主幹教諭（総務部長）、魅力化推進部長、教務部長、生徒部長、進路部長、コンソーシアムマネージャー 計 9 名

①主な業務

- ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の進捗管理
- ・総合的な学習（探究）の時間プログラム内容、教職員研修会及び各種関係イベントなど文科省事業に関する事項の協議
- ・単位制移行に向けた準備
- ・広報 PR など魅力化に関すること全般

②毎週会を実施

- ・R1 年度実績 29 回

ウ カリキュラム開発に対するコンソーシアムの取組

- ・魅力化推進部を中心に、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員と協議の上、「地域共創人育成 Project」のプログラムを研究、開発
- ・コンソーシアム設立時に上述の会を「教育プログラム開発ワーキンググループ」として組織に位置付け、体制を整備した。

(5) 運営指導委員会について

ア 構成員

松江市副市長 能海 広明 氏

関西大学教育推進部教育開発支援センター 教授 森 朋子 氏

(有) お茶の三幸園代表取締役 大島 正也 氏

(株) アテナ主席研究員 上田 泰子 氏

地域・教育魅力化プラットフォーム共同代表 岩本 悠 氏

イ 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年 12 月 6 日	第 1 回運営指導委員会 ・ 2 年生総合的な学習の時間の成果発表会視察及びテーマ設定に関する協議
令和 2 年 3 月 17 日 (中止)	第 2 回運営指導委員会 ・ 今年度の活動報告及び R2 年度計画について (※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため会議形式は中止。資料送付し、書面により意見聴取)

【第 1 回運営指導委員会提言】

- ・ 生徒に与えるテーマをもう少し広げれば、生徒の探究もより深まるのではないか。
- ・ 教科とどう連携するのか、地域がどうメリットを受けるのかが課題。
- ・ 「誰が、誰にしているのか」主語を明らかにしてすべき。
- ・ 小さい P D C A を 2 回ぐらい回すようなやり方でリアリティを感じさせることが大事。限られたリソースの中でやると、本当にクオリティが高まり学びに繋がる。
- ・ 発表のフォーマットを決めず手づくり感があるものもあってよい。
- ・ 幅広い課題から自分で選んで、決断するという活動は社会人にとっても大事。そういう人材を若いうちから育てていただくと企業としては嬉しい。
- ・ 生徒たちが松江の魅力を見つけていくような場にしてみたい。地域の側からは子供たちが松江をもう一度好きになる、ここに帰ってきたいと思わせるような事業であってほしい。
- ・ 学力が担保できている形での事前学習にすると、入試にも使え、生徒にとっても動機付けになる。これがうまく回ると、大規模の進学校における探究のモデルになり得るはず。
- ・ 運営指導員とコンソーシアム役員を兼ねるなど学校にとっていい形で開催する方がよい。

【第 2 回運営指導委員会提言】

- ・ この一年の進め方や取組、課題・原因等を深く振り返り、新年度の事業や探究的な授業に活かせる学びを抽出・共有できる機会と時間を設け、次年度の改善につなげられると良い。
- ・ 年間のカリキュラムデザイン、一回一回の授業設計とファシリテーション、フィードバックの仕方等において、改善の余地がまだまだある。生徒が「行動あって意欲なし」「活動あって学びなし」とならないよう、目的や狙いをしっかりと理解・共有して進め、改善していくのが大事。
- ・ 松江東高校の強みとなる教育資源の一つは、多彩な卒業生たちだと思うので、若く意欲のある卒業生たちが、高校生の探究に関わり支援する機会や仕組みをつくってほしい。
- ・ コンソーシアムや事業推進に関しては、教員が教育課程にしっかりと向かえるようにするためにも、事務室・職員のリーダーシップや働きが鍵になる。事務室・職員がコーディネート機能を発揮していけるような、事務室や職員の役割・業務の見直し、機能強化充実が進むと良い。

- ・目的を明確にして多様な関係者と関わりを持ち、体系づけた事業展開ができた。学年毎にレベルを合わせ、生徒を指導された先生方の努力を高く評価する。さらに各学年の成長ぶりを把握できる仕組みの検討が必要。
- ・生徒、教員、地域の協力者等の評価を含め、総合的に見て本事業の改善、効率的な運営を進め、他校に横展開できるような視点を持って実施する必要がある。
- ・生徒に地方創生の必要性を説明し、その視点を持って、地域との協働がなぜ必要なのかを社会人と生徒が対話をしながら理解し合った上で、各事業に取り組むことが必要。
- ・本事業は生徒、学校、地域とともに作り、ともに育てる事業となることを期待している。それぞれにメリットがあるように地域、企業等関わった人の評価の導入を検討してはどうか？
- ・1年目でカリキュラム開発、支援員の協力など島根大学と協働で取り組むスタイルが構築されたことは素晴らしい。各事業の実施回数からみても、熱心な状況が伺え、滑り出しとしては良い。
- ・埼玉県フォーラムでは積極的によい質問をしていたと聞き、実力が備わっているようだ。やり方は今後改善しながらも、実行することの方が大切だと思った。
- ・ビジョンは、みんなの目標とする「理念」。ここがぶれると個々の役割の中で実行することに小さなズレが生じる。ビジョンを共有できていないから「何をしてよいかわからない」という傾向があるのか？校長先生をはじめとする方々のリーダーシップに期待。
- ・計画を立て、実行しながら、柔軟に変えていくスタイルと、島根大学等の協力者の力添えで、東高の魅力化に取り組んでもらいたい。「東高カフェ」には若い感性を加え、活性化を期待する。

2 研究開発の実績

(1) 「地域共創人育成 Project」カリキュラム開発

ア 科目「総合的な探究の時間（1年生）」における探究学習

1年生は、課題解決能力の育成の最初のステップとして、「チームでの協働」と「課題の深掘り」をテーマとしてプログラムをした。

(ア) 「東高のCMをつくる」

課題解決型学習の導入編として活動に取り組んだ。身近な学校の魅力を探し、それをビデオに編集し発表した。



入学したばかりということもあり、「本校を知ってもらおう」「他中学校からの入学生との協働」のために上記のようなテーマとした。

5/17～7/22の2ヶ月間（授業時数は7時間）取り組んだ。

様々なチームが東高の魅力を探る中で、魅力の「深掘り」に非常に苦労しているように感じた。“文武両道”や“通いやすさ”など目に見えるような表面的な魅力で留まってしまい、その魅力が何に起因しているのかという「深掘り」に生徒も教員も苦労した。

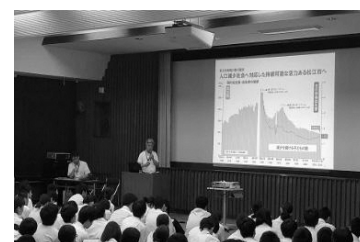
一方で、CM作品の完成度は非常に高いものがあった。情報化社会の発展とともに、映像のセンスや編集スキルなどは、高校1年生の段階である程度できる生徒が複数人いるように感じた。

完成したCM作品は、各クラスで発表したのち、生徒同士の相互評価によって優秀作品を選出し、各クラスの代表作品は8/27に行われた学園祭にて全校生徒に向けて発表をした。右上の画像は、そのときに最優秀賞をとった作品の最終カットである。

取組後の生徒の振り返りでは、チーム内での自身の役割について考え直していたり、チームとしての取組を反省したりするなど、次のステップへ向けた回答を得ることができた。

(イ) 「地域の魅力と課題を知る」ビジネスプラン発表会

松江市、地元商店街、中小企業家同友会より現状と課題を聞き、その中から関心を持ったテーマを選び、その解決方法を提案した。



7/25、9/10および9/17に松江市（政策部など11部局）、学園通り商店街、中小企業家同友会など8社10名の方々に来校していただき、それぞれの事業者における現状と課題を提示して



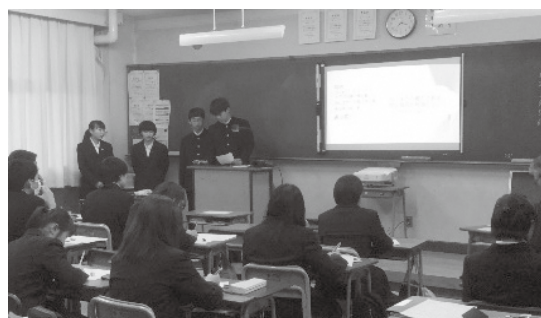
いただいた。

その後、11/26の発表会へ向けて各チームで、「課題の深掘り」や「解決策の検討」、「根拠（エビデンス）の模索」などを中心に活動を行った。

前回の「東高のCMをつくる」の経験を活かし、“表面に見えている問題の根っことなる課題はなにか”についてしっかりと考えている姿も多く見られた。

あるチームでは、「競合店舗に負けている」という事業者からの提案に対して、問題を深掘りした結果、「自分たちが店舗を選ぶときの規準で考えると、値段や特色以前に、衛生環境が良くない」という結論となり、一消費者目線での課題提起を行う方針を打ち立てた。表面的な問題にとらわれず、課題の深掘りをするスキルは少しずつではあるが身につけていると感じた。

11/26には、松江市、学園通り商店街、中小企業家同友会等(計11名)の方々を招いて、これまでの探究活動の成果を発表した。



あるチームの発表資料

1. **みしまや**
～主婦のみしまやから
みんなのみしまやに～

2. **みしまやの課題**
○店舗数が少ない
○値段が高い
○利用客が少ない

3. **利用客を増やすには・・・**
ターゲットを変えるor追加する
現在のみしまやは主婦メイン
学生をプラス
(下校時などによることができる)

4. **道の途中には強敵が...**
『素通りしてでも行きたい!』

5. **ケンタッキーの実績**
客数が前年比20%以上
その理由は?

6. **宣伝方法**
テレビCMからデジタルメディアに!!
Twitter
Tik Tok
YouTube
費用が少ない
若年層へのアプローチ

7. **私たちが提案する
これからのみしまや**

8. **○学生が来たい!
と思うきっかけ作り**
例)デジタルメディアで広告

9. **しかし実現するには問題点も・・・**
クーポンをためるためのアプリ作り
-お金がかかる
デジタルメディアで宣伝することで
宣伝費用を削減できる
-宣伝する際に余った費用を
アプリ作りの費用にまわす!!

10. **○スマホを活用してクーポンをためる**
今までの切っ掛けという作業をなくして
効率UP!!
『また来たい!』
リピート客の増加にもつながる!

11. **これが私たちの提案です**
ありがとうございました!!

発表後、招いた事業者のアンケートでは、「高校生ならではのアイデアをもらうことができた」や「自分たちもそう考えていたが、やはりそうなのだ」と確信を持たせたなど、生徒の考えや取組が社会に影響を与えられる可能性を見いだすことができた。

一方で、生徒自身も社会で実際に働く方々に提案をするという貴重な経験ができ、自分たちの提案が大人に影響を及ぼしている姿を目の当たりにすることができた。また、自分たちの考えに大人が本気で実現可能性を含めて回答することに対しても、「自分が社会の一員である」という認識ができたという感想があった。

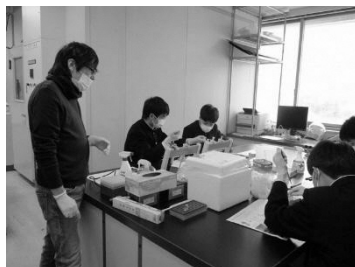
生徒と社会（地域）を繋げる取組を行うことで、生徒の社会的自立に大きく寄与することとなった。このような取組によって、生徒が地域の発展を考え、貢献することができ、またその地域で生きていくという「地域持続性」におおきなインパクトを与えるのではないだろうか。

(ウ)「ライフデザイン探究Ⅰ」

大学で学ぶ意義やこれからの人生設計のあり方を考える機会となった。

島根大学総合理工学部及び生物資源科学部の研究室を訪問

2/13 総合理工学部（7研究室）、生物資源科学部（10研究室、本庄総合農場を含む）理工学、農学系の学部でどのような研究が行われているのか、研究室を訪問し、研究の一端に触れる体験をすることができた。また大学生との交流を深めることにもつながった。



(エ)「総合的な探究の時間」に関する生徒アンケート

総合的な探究の時間の取組を通して、生徒がどのような変化をしたのかを調査するために、9/6と3/17に次のような自己評価アンケートを行った。

松江東高校では、地域や周囲の魅力や課題について諦めずに向き合っており取り組むことができる人材の育成を目指します。今現在のあなたのことやあなたが考えることを聞かせてください。

〔9/6実施の結果の集計（174名）〕

	そう思う ← ⇒ 思わない	自由記述（理由や思い）	9/6実施 総合的な探究の時間 に対するアンケート					平均値	各数値の個数				
			そう思う	←	5	4	3		2	1	⇒	思わない	
自身について	私には、チーム活動に貢献できる長所がある。	5 4 3 2 1		3.65	24	79	58	12	1				
	私は、チーム内で意見が折り合わない時も、諦めずに調整することができる。	5 4 3 2 1		3.59	24	75	57	16	2				
	私は、考え方や価値観の違いを超えて協働することができる。	5 4 3 2 1		3.82	33	91	39	8	3				
地域への関心	私は、地域（島根や松江市）のことが好きだ。	5 4 3 2 1		3.89	48	73	42	8	3				
	私は、地域（島根や松江市）の魅力や課題について説明することができる。	5 4 3 2 1		3.25	14	56	75	18	11				
	私は、将来、地域（島根や松江市）に何らかの形で貢献したい。	5 4 3 2 1		3.43	29	55	59	23	8				
課題解決能力	私は、様々な課題や問題について、その本質を見抜く力がある。	5 4 3 2 1		3.11	10	46	77	36	5				
	私は、様々な課題や問題について、その解決策を考える力がある。	5 4 3 2 1		3.33	13	64	69	24	4				
	私は、エビデンス（根拠や実態）に基づいて企画を立案することができる。	5 4 3 2 1		3.17	13	37	93	28	3				
	私は、実践結果があまり良くなかった時でも、計画を修正し、再度挑戦することができる。	5 4 3 2 1		3.42	20	66	59	23	5				
チーム実践力	私は、計画を実践する際に、周囲をうまく巻き込むことができる。	5 4 3 2 1		3.43	25	56	66	22	5				
	私は、相手の意見を引き出すために、適切な質問をすることができる。	5 4 3 2 1		3.43	21	58	73	18	4				
	私は、他者からのアドバイスをうまく活用することができる。	5 4 3 2 1		3.71	23	88	54	8	1				
	私は、困った時や悩んだ時に、周囲に助けを求めることができる。	5 4 3 2 1		4.03	57	74	33	8	1				
	私は、高校生にも地域課題と向き合い、解決する力があると思う。	5 4 3 2 1		3.87	44	73	49	6	2				
月 日 R 番 名前													

○全体の平均値が高かったものは
「周囲に助けを求めることができる」
「地域のことが好きだ」
「考え方や価値観の違いを超えて協働できる」
「高校生にも地域課題を解決する力がある」

であった。

特に、「周囲に助けを求めることができる」や「考え方や価値観の違いを超えて協働できる」の項目については、肯定的評価（5や4を選択）が70%以上であった。

●全体の平均値が低かったものは
「様々な課題や問題の本質を見抜くことができる」
「エビデンス（根拠）に基づいて企画を立案できる」
「地域の魅力や課題について説明することができる」

であった。

特に、「様々な課題や問題の本質を見抜くことができる」や「エビデンス（根拠）に基づいて企画を立案できる」の項目については、否定的評価（2や1を選択）がそれぞれ24%、18%程度と他と比べても多かった。

“3”を選択したものが全体の35%を占めており、どちらともとれない回答が多くなった。

[9/6 実施の結果の分析]

9/6の時点では、「東高のCMをつくる」の活動しか実施していない状態だった。この活動における大きな目的は、「チームとしての協働性」であった。その点においては、「周囲に助けを求めることができる」の項目が高い評価となったことは良い結果といえる。また、大項目ごとに見ても、「自身について」と「チーム実践力」が高い評価となっている。これも今回の取組が生徒同士の“協働力”の成長に貢献できたのではないだろうか。

一方で、「課題の本質を見抜く」や「根拠に基づく」といった“課題解決能力”のスキルの部分はまだまだ伸びてはいないと考えられる。特に、「課題の本質を見抜く」ことについては、東高の魅力を探る際、表面的な魅力を挙げ、教員や外部の指導者から何度か指摘をされた経験によって自己評価が下がったと考えられる。

また、“3”を選択する生徒が多かったが、質問項目の表現や生徒の実体験がわかりにくかったと考えられる。

上記のような傾向が、年度末のアンケートでどのような変化をするのかをしっかりと分析し、今後の取組に繋げたい。

イ 科目「総合的な学習の時間（2年生）」における探究学習「MATSUE 探究」

地域の未来を考えることができる「地域共創人」の育成を目指し、地元である松江市の魅力に目を向ける「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには？」という探究活動を軸に活動を行った。

(ア)「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには？」

- ・松江の身近な魅力を探す。
- ・テーマのキャッチコピーをつくる。



- ・テーマに応じた校外調査活動

7/5, 12 班ごとに市内各所を巡る校外調査活動

売り込む商品・サービス等を研究するため、松江市内の各店舗、観光施設などテーマに関係する 35 カ所を訪問



- ・東京研修旅行フィールドワーク
- ・ポスター作成およびポスター発表

(イ)島根大学の講義「イノベーション創生基礎セミナー I」

大学生と合同で受講（6 クラス合同 2 回、3 クラスずつ 4 回×2）

「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには？」の活動で必要となるスキルを学んだ。

- ・「問題」と「課題」の違いは？
- ・大学生を交えたグループでブレインストーミング
- ・自治体関係者を招き、「地方版総合戦略」から学ぶ
- ・情報の編集
- ・デザイン思考 など



講義の初回と最終回にルーブリック評価表を用いた自己評価を行い、講義受講前後における生徒自身の成長を確認した。

ルーブリック評価の観点

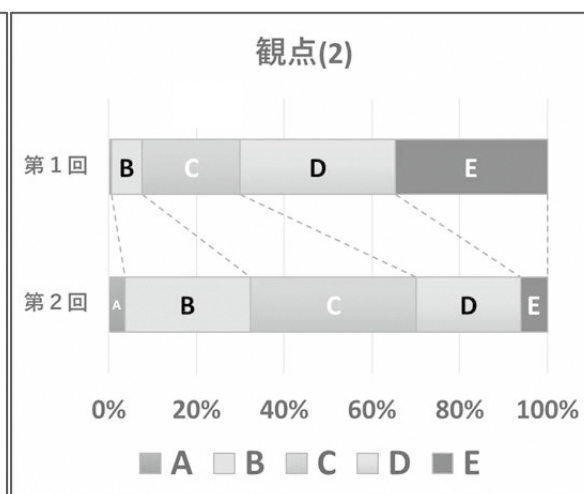
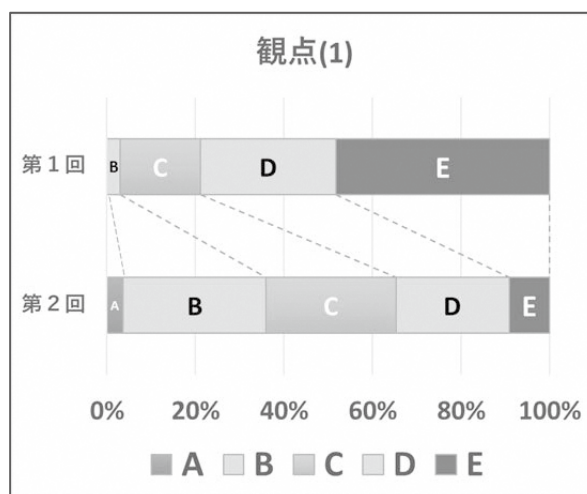
- (1) 問題解決に必要な基礎知識・スキルを得る
- (2) 地域の現状について分析し、得られたデータをもとに自らの発想・チームのアイデアなど新しい価値を付加して社会に還元することができる。
- (3) 学んだことを自身の生き方やキャリアデザインに行かすことができる
それぞれの観点を A～E（A が高評価）の 5 段階で評価

観点 (科目の達成目標)

段階

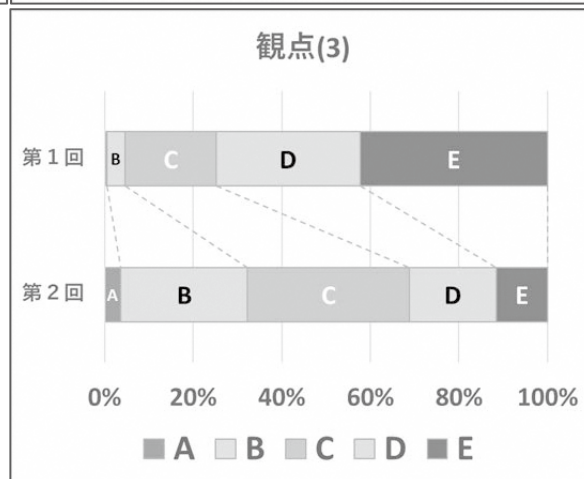
	A	B	C	D	E
1	問題解決を行うのに必要な基礎知識やスキルを効果的に活用し、「創造的再適解」を他者と共有しながら自信がある。	問題解決に必要な知識やスキルを他者に実践させることができる。	問題解決の基礎知識やスキルが理解できている。	「問題」が何を意味しているのかを説明できる。	「問題」を説明できない。
2	地域の現状についてデータを分析し、得られた結果を自分自身で解釈し、気づきや他者との協働による「価値」を還元することができる。	地域の現状についてデータを分析し、得られた結果を自分自身で解釈し、気づきや他者との協働による「価値」を還元することができる。	地域の現状についてデータを分析し、得られた結果を自分自身で解釈し、気づきや他者との協働による「価値」を還元することができる。	地域の現状についてデータを分析し、得られた結果を自分自身で解釈し、気づきや他者との協働による「価値」を還元することができる。	地域の現状について興味関心がない。
3	自分自身が目指す領域の専門家として活躍し、社会に貢献することができる。	自分自身が目指す領域の専門家として活躍し、社会に貢献することができる。	自分自身が目指す領域の専門家として活躍し、社会に貢献することができる。	自分自身が目指す領域の専門家として活躍し、社会に貢献することができる。	自分自身の強みや得意分野がわからない。

<第1回 (講義初回) 評価と第2回 (講義最終回) 評価の変遷>



どの観点においてもD・Eと評価した生徒が40%程度減少し、B・Cと評価した生徒が40%程度増加した。

講義初回時は課題解決に必要な知識や技術が足りない、あるいは理解できないと感じている生徒が多かったが、講義を受け、探究活動を実践するなかで、少しずつ課題解決に必要な基礎知識・スキルを得ることができるようになった生徒が多くいたようである。



(ウ) 島根大学において高大連携ポスターセッション

高校生、大学生が合同で各々の課題研究のテーマについてポスター発表を実施した。大学生から意見をもらったり、大学生の発表を見たりして、より深い探究、より良いプレゼンテーションにつなげる機会となった。



(エ) 東京研修旅行フィールドワーク

東京都内で課題研究テーマに関連する企業や商店等に訪問したり、街頭インタビューを実施したりするなどして、松江市内のサービス、商品、観光地などの魅力を再発見するとともに、それらをどうPRし、売り込んでいけば良いか考察した。
訪問企業・店舗数 計 700 カ所、 街頭インタビュー 計 29 地点



＜東京研修旅行フィールドワーク自己評価＞

<p>目的を達成するための訪問先を設定できた</p> <p>④あまりできなかった 3% ⑤できなかった 1% ③まあまあできた 17% ①とてもよくできた 51% ②よくできた 28%</p>	<p>テーマの目的・課題を達成できた</p> <p>④あまりできなかった 4% ⑤できなかった 0% ③まあまあできた 25% ①とてもよくできた 36% ②よくできた 35%</p>	<p>有益な情報を収集できた</p> <p>④あまりできなかった 5% ⑤できなかった 2% ③まあまあできた 21% ①とてもよくできた 40% ②よくできた 32%</p>
<p>コメント○</p> <p>事前に調べて、テーマに関する情報を十分手に入れていた。訪問先を厳選できた。想像以上たくさんの話を聞いた。</p>	<p>コメント○</p> <p>意見を出し合え、順調に進んだ。積極的にインタビューできた。自分たちの仮説にアドバイスをくれたり、一緒に考えてもらえた。</p>	<p>コメント○</p> <p>話を進めたり、質問したり自ら動くことができた。訪問先で積極的に話すことができた。</p>
<p>コメント▲</p> <p>目的とは若干違う系統だった。訪問先を決めるのがギリギリになってしまった。インタビューに向いた場所ではなかった。</p>	<p>コメント▲</p> <p>大人数にインタビューすることができなかった。テーマが少し抽象的だった。質問内容をまとめておけば良かった。</p>	<p>コメント▲</p> <p>自分から訪問先の方に話しかけることが少なかった。</p>
<p>得た情報を整理・記録できた</p> <p>④あまりできなかった 8% ⑤できなかった 3% ③まあまあできた 20% ①とてもよくできた 43% ②よくできた 26%</p>	<p>自主的・主体的に活動した</p> <p>④あまりできなかった 10% ⑤できなかった 2% ③まあまあできた 20% ①とてもよくできた 36% ②よくできた 32%</p>	<p>班で建設的な意見交換ができた</p> <p>④あまりできなかった 10% ⑤できなかった 2% ③まあまあできた 20% ①とてもよくできた 36% ②よくできた 32%</p>
<p>コメント○</p> <p>聞く人と記録する人を分けたのできちんと記録できた。</p>	<p>コメント○</p> <p>班全員で話し合って準備し役割を決めてできた。計画、インタビューの内容・仕方等を自分でできた。基本的に1人で動いた。</p>	<p>コメント○</p> <p>訪問先など女子だけで決定した部分があった。夕食後のミーティングでできた。</p>
<p>コメント▲</p> <p>途中から書くことを忘れてしまっていた。メモするだけできちんと整理できていない。</p>	<p>コメント▲</p> <p>先生に言われるより前に行動できなかった。当日はできたが、準備段階ではできていなかった。</p>	<p>コメント▲</p> <p>聞いても返事がないことがあったので、相手の意見も聞きたかった。班になじめなかった。ほぼ話さなかった。</p>
<p>「優れたチーム」として機能した</p> <p>④あまりできなかった 6% ⑤できなかった 3% ③まあまあできた 18% ①とてもよくできた 39% ②よくできた 34%</p>	<p>計画実行力が高まった</p> <p>④あまりできなかった 4% ⑤できなかった 2% ③まあまあできた 13% ①とてもよくできた 45% ②よくできた 36%</p>	<p>協力し合う力が高まった</p> <p>④あまりできなかった 4% ⑤できなかった 4% ③まあまあできた 8% ①とてもよくできた 56% ②よくできた 28%</p>
<p>コメント○</p> <p>皆で協力して行動できた。アポ取りから当日の訪問まで上手くできた。何か問題があっても相談して判断することができた。</p>	<p>コメント○</p> <p>やらなければならないことを効率的にできた。体験することが重要だと分かった。実際にやってみると意外とできることが分かった。</p>	<p>コメント○</p> <p>特に班別自主研修では協力しなければできなかった。行動に責任をもって助け合いながらできた。</p>
<p>コメント▲</p> <p>連絡不足で計画性を欠いた。集合時間に間に合わなかった。全て任せっきりで時間もルーズだった。女子と男子で考えが一致するところが少なかった。皆口には出さないがすごく気を配っていた。</p>	<p>コメント▲</p> <p>自分から進んで行動できなかった。自分はまだまだ足りないと思い知らされた。自分には行動力がまるで無いことがよく分かった。</p>	<p>コメント▲</p> <p>周りの人に頼り過ぎた。班員と協力しようと思えなかった。よりダメになった気がする。集団行動というものがよくわからなくなった。</p>

(オ)「しまね大交流会」ポスターセッション

11/16 くにびきメッセ多目的ホール

- ・全 48 班がポスターセッションを実施
他校生の発表を見たり、外部の方からの意見をもらったりして、学年発表会(校内選考会)に向けて、実践の場となった。



(カ)「MATSUE 探究」成果発表会

12/17 くにびきメッセ国際会議場

- ・校内発表会で高い評価を得た 8 班が成果発表
班ごとに発表後、質疑応答を行い、講師の先生からの助言をいただいた。各班ともに発表内容がしっかり考えられており、自分たちが担当する「松江の〇〇」をいかに売り込むかについて提案できた。また、質疑応答も活発に行われ、発表の内容に関する質の高い質問も多く出た。講師の先生より、1つ1つのグループに対して丁寧に助言をいただき、より良いものにするための貴重なアドバイスを全体で共有することができた。



- ・講演会

講師 島根大学地域未来協創本部 高須 佳奈 先生

演題 「地域協働教育は何を可能にするのか」

(講演主旨)

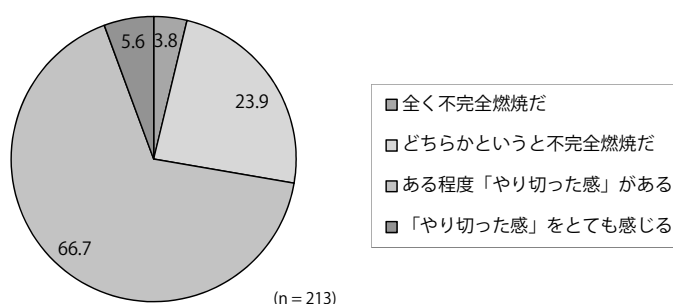
地域協働教育は社会を前進させていくことを可能にする。変化が激しい今後の社会を生き抜くためには、「Why?」を自分で繰り返し考えることが必要だ。また、「Why?」を繰り返し「創る・考え抜く」という過程から社会を生き抜く力が身につく。このような過程を経験する機会が地域協働教育の中にある。この地域協働教育を実践する際、周りの大人が生徒にどう働きかけるのかが非常に重要であり、大人が自分の「経験」からものごとを決めつけてしまわないようにすることが地域協働学習において必要不可欠である。



2 年生「MATSUE 探究」アンケート集計結果

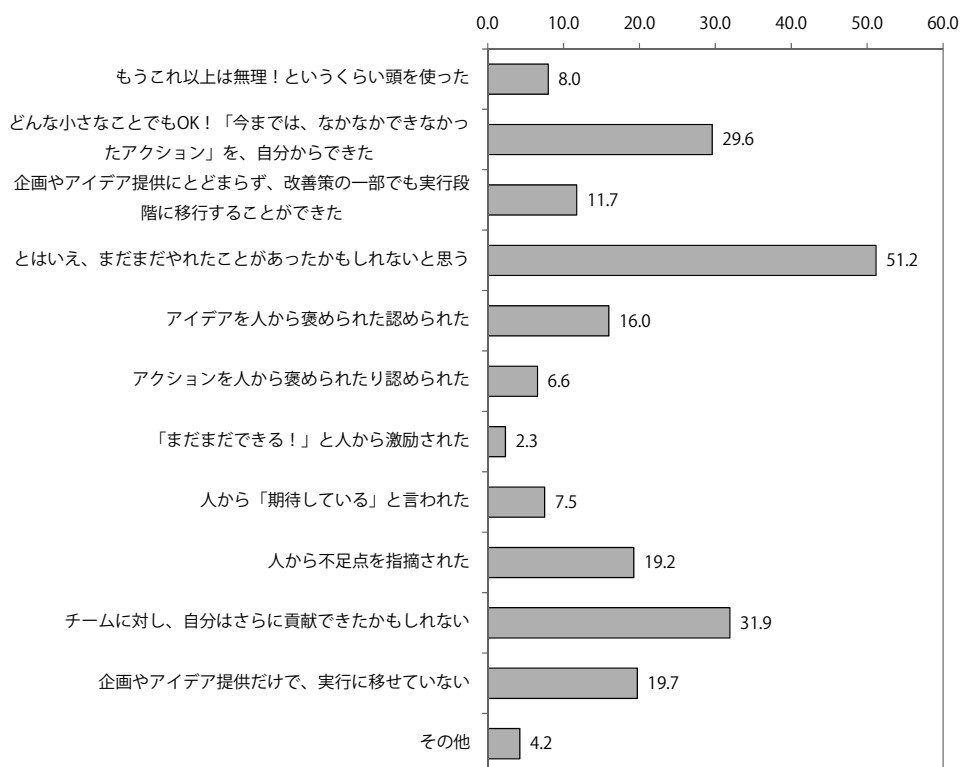
アンケート実施日	令和元年 12 月 17 日の成果発表会まで
アンケート対象者	松江東高校 2 年生 226 名
回答者数/回答率	213 名/94.2%
実施方法	Microsoft Forms

問1. MATSUE 探究に関して、あなた自身の達成度（「やり切った感」）はどのくらいですか？
当てはまる選択肢一つ選んでください。



72.3%は「やり切った感」を感じている。

問2. 問1の答えを選んだ理由は何ですか？当てはまる理由を「全て」選んでください。
もし選択肢以外に理由があったら、テキスト入力して教えてください。

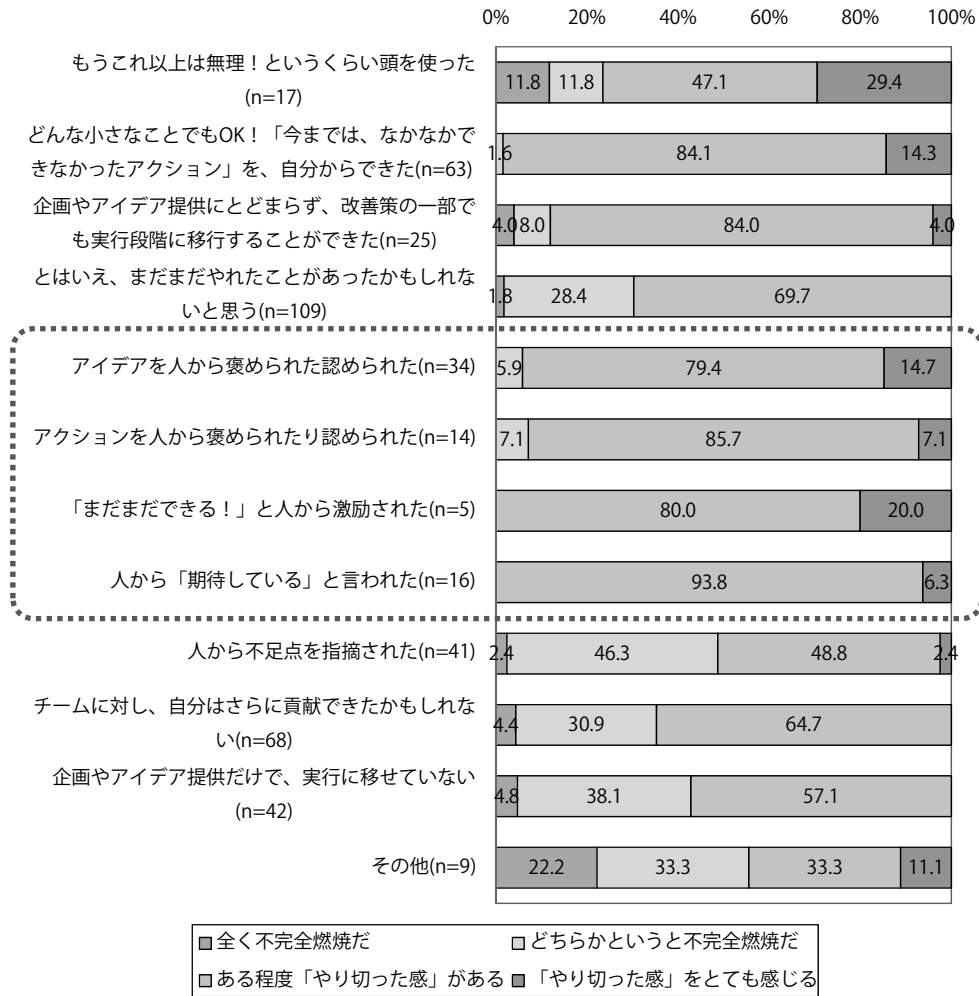


「まだまだやれたことがあったかもしれないと思う」が 51.2%で最も多く、次いで「チームに対し、自分はさらに貢献できたかもしれない」が 31.9%となった。

■ 「その他」自由回答

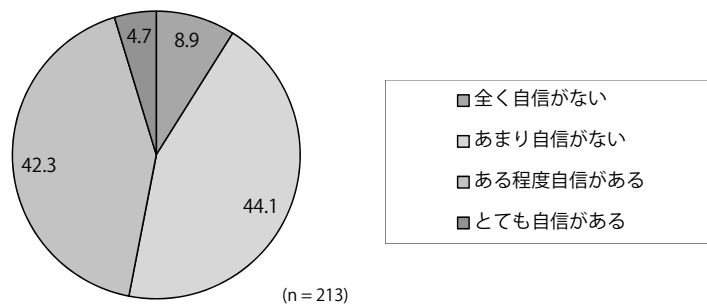
企画が与えられた題材だったから、やる気が起きなかったから
プランを実際に考えたほうがよかったのではないかと思ったから
自分が何をしているか分からなかった
チームに対し自分は貢献出来なかった
事前の準備がしっかりできた

■ 「やりきった感」との相関



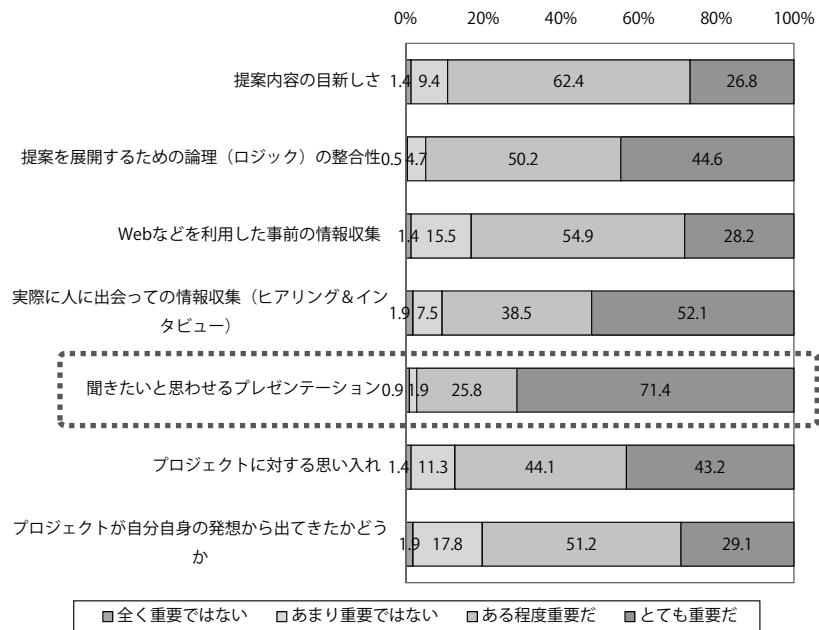
他者から褒められたり、激励・期待されたりした経験が「やり切った感」に繋がっている。

問3. 最終選考に残ったかどうかは問いません。チームの発表内容に対するあなたの「個人的な自信度」はどのくらいでしたか？当てはまる選択肢を一つ選んでください。



成果に対する自信はほぼ半数ずつとなり、「自信がない」がやや多い結果となった。

問4. 発表内容の自信度は、何によって左右されると思いますか？
それぞれの要素について重要度を判断してください。

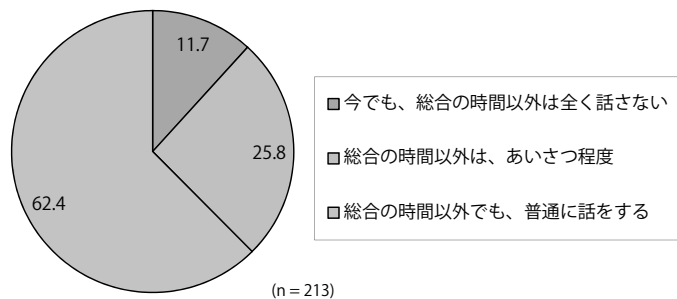


発表の自信度に対する重要度は「聞きたいと思わせるプレゼンテーション」が最も高く、97.2%となっている。

問5. 問4の回答に、追加で提案したい要素があれば、教えてください。

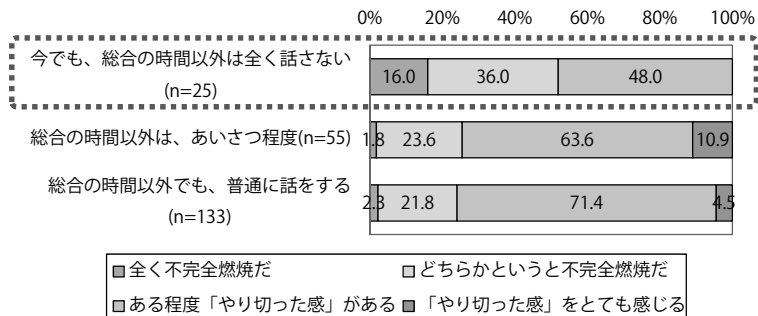
- 他の班にはないような発想（「インスタ映え」がキーワードの班が多かった）
- 自分がしっかり関わったかどうか
- メンバーと協力できたかどうか
- 変な場所を紹介させようとするのをやめてほしい

問6. 自分とチームメンバーの仲の良さは？



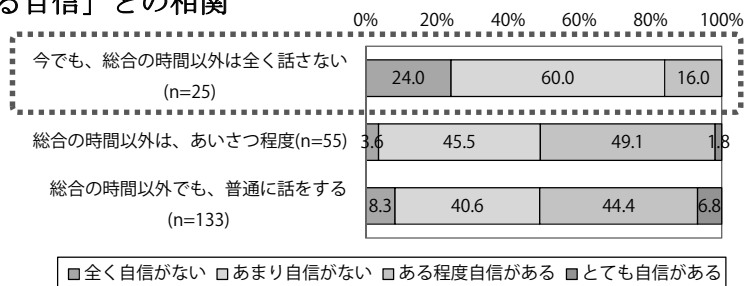
「総学の時間以外でも、普通に話をする」が最も多く62.4%となっている。

■ 「やりきった感」との相関



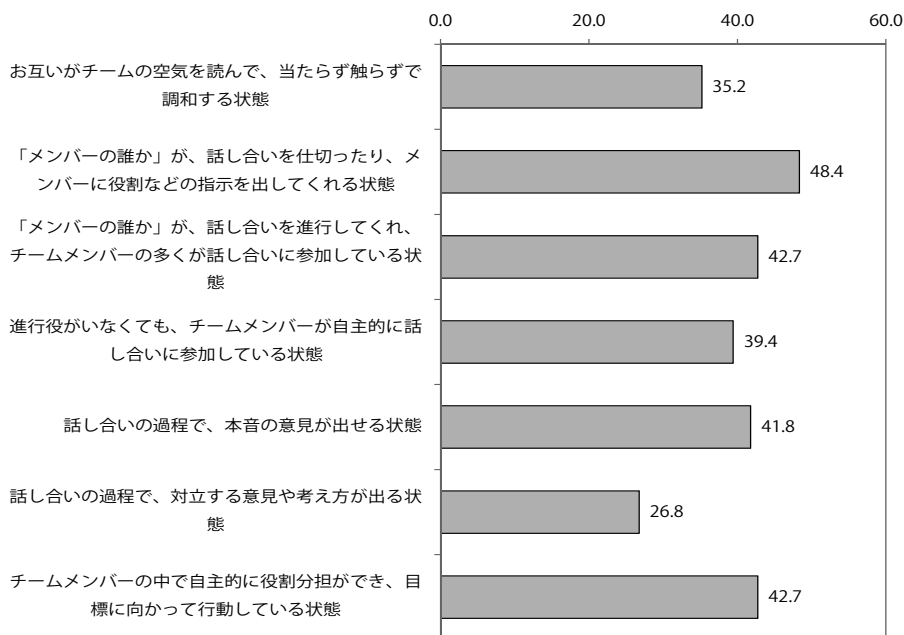
「総学の時間以外は、あいさつ程度」と「総学の時間以外でも普通に話をする」と回答した生徒に大きな差は見られなかったが、「今でも、総学の時間以外は全く話さない」と回答した生徒のうち、「やりきった感をとても感じる」と回答した生徒はいなかった。

■ 「成果に対する自信」との相関



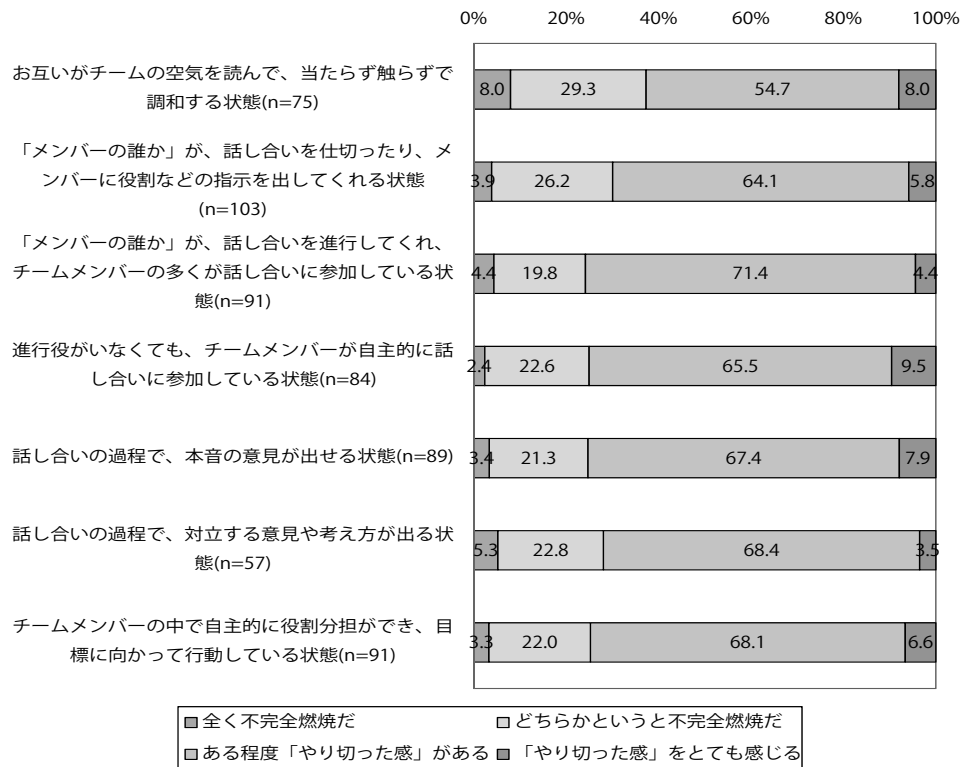
「やり切った感」との相関と同様の傾向となった。

問7. 自分のチームにおいて、次の項目で「経験した状態全て」を選んでください。



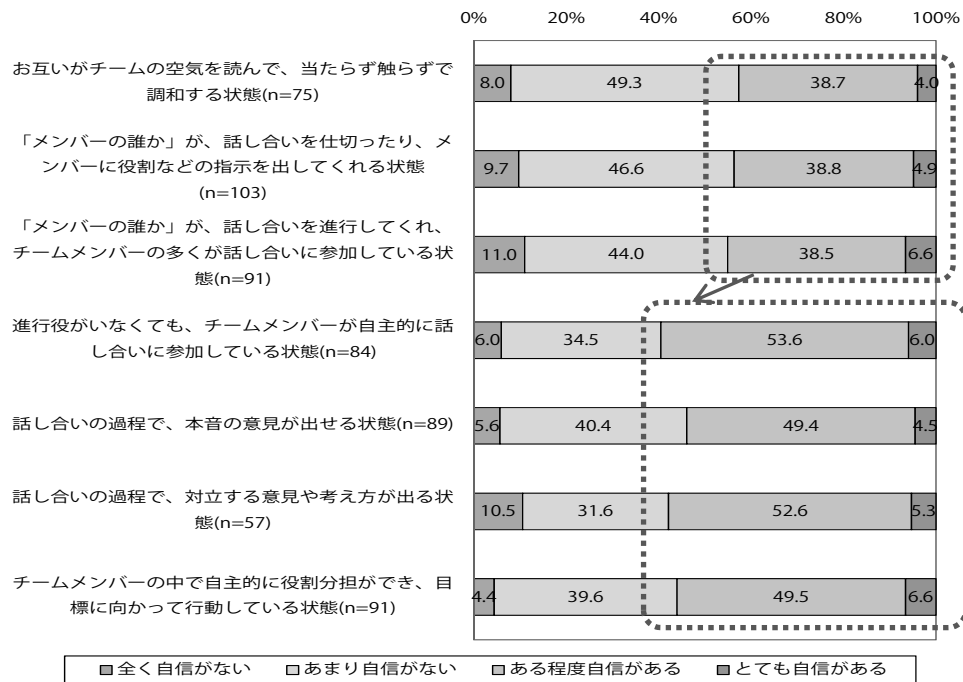
「メンバーの誰か」が、話し合いを仕切ったり、メンバーに役割などの指示を出してくれる状態」が最も多く、48.4%となった。

■ 「やり切った感」との相関



チームの状態に関わらず、「やり切った感」は約7割とおおむね同様の結果となった。

■ 「成果に対する自信」との相関



メンバー全員の主体性の有無によって「成果に対する自信」は約4割から約6割へ増加している。

(キ) ライフデザイン探究Ⅱ

これまで経験を踏まえ、「地域共創人」としてどのように生きていくか、志望理由を作成することをおしてライフデザインを考える。また、小論文作成をおして社会問題をどのように捉え、解決するためのアプローチ、方法をどのように提案していくかを考える。

1/31 志望理由書のための講演会

講師 学研教育みらい 玉田 真由美 氏

2/ 3 興味関心から大学の研究分野を考察する

2/10 志望理由書模試

3/ 9 小論文書き方講座

3/12 小論文模試

1年間の活動をおして、「地域共創人」の育成を図ってきた。アンケート結果にあるように「やりきった感」のある生徒が7割を超えたことは、この活動が有意義なものであったと評価できる。ただ、それが生徒の力の伸び・成長と関連しているとは断定できない。生徒の力の伸び・成長を、生徒自身が実感するとともに、教員が客観的に評価できるような方法も必要であると感じた。

ウ 総合的な学習（探究）の時間 教員アンケート

（1年部）

①「東高のCMを作ろう」について

○良かった点

良かったと思う理由があれば教えてください

・協働作業	⇒チームで協力しないと完成しない。そのために自分が貢献できることは何かを考えてくれた。
・主体性・協働性を養うことができた。	⇒早期に東高の魅力を確認できたことは、満足度を高めることにつながったと思う（アンケート結果昨年比）。
・生徒が大人との壁打ちをする機会があった点。	⇒1年生で自分の考えを大人に聞いてもらって意見を交わすという機会はなかなか無かったと思うので良かった。
・チームで取り組むこと。	⇒クラス内の人間関係構築や協働の素地を育てられた。
・視覚に訴えること。	⇒視聴者に伝わりやすくする方法を考える機会になった。
・生徒のモチベーションが割と高かった。活動への意欲はこの活動がマックス。	⇒やはり最終形としてCMという形に残るものは、やる気が出る。CM発表というゴールのイメージが持ちやすいのが理由でしょう。このイメージを持つことが大切だと思います。本来の目的をいくら言っても、生徒は作品の質にこだわります。⇒放課後残るなど積極的に動いていた。
・東高の魅力を考えることができた。	
・最も身近なことを題材として扱った点	⇒次項目の回答でマイナス評価しているが、それでもアウトプットの手段としては良い方法だったかも知れない。

▲改善すべき点

改善が必要な理由・具体的な改善案があれば教えてください

・全体的なスケジュール感が曖昧な生徒も多くいたように思われる。 ・入学したばかりの生徒に東高の魅力は思いつきにくい。	
・東高紹介	⇒入学したばかりの生徒たちに魅力を探させるのは、ハードルが高かったかと。東雲祭も未経験、、、
・1学期はまだ「東高のPRポイント」が見つけにくい	⇒2学期だと少しはインプットが増えているだろうが、なら1学期には何をしたら良いかと思いつかない。「東高で好きな（インスタ映えする）景色」の写真コンテストとか、シンプルなものなら手を出しやすいか？ただ1学期丸ごとかける内容ではない。来年は1年生が1学期に島大の講義を受講するようなので、その方が良いと思う。
・動画	⇒動画のソフトを簡単にしても、動画を使えるようにすればよかった。時間が少し足りなかったかも
・目的の意識付け。	⇒CMを作ることに精一杯になってしまっている。ふりかえりだけでなく、どのような力を身につけたいかという目標作り
・時期 ・PCの利用の仕方	⇒東高をもっと知ってからでないとアイデアが出にくい。 ⇒伝えたい内容よりも技巧に走り、中身が貧弱だった。
・作業時間が少ないかも。	⇒授業時間4時間で完成を目指すには、無理があるのでは？（できるだけ、課外をなくした方がよい）

②「地域の魅力や課題を知り、ビジネスプランを考案しよう」について

○良かった点

良かったと思う理由があれば教えてください

・身近でありながら、あまり知らない地元のことを知るよい機会になった。	⇒松江にも様々な業種の企業があることを知れたことは、生徒たちのアンテナを広げる一助になったと思う。
・地域の一員であるという認識を少しでも味わうことができた点	⇒自分の住む地域についてふれることで、進路選択などに少しでも関わってきたのではと考える。
・事業所さんの協力的な姿勢 ・難しい課題へのチャレンジ	⇒発表会で貴重なフィードバックをいただいた班もあった。 ⇒地域課題の解決の難しさを知り、答えのない問いを考えた。
・地元を考えるきっかけになった。	
・校外との接点	⇒対大人との接点。社会人になるためのステップを味わえた。高校生なりの視点で課題に切り込む努力をしていた。
・1学期の「校内」から「身近な地域」に広げた点	

▲改善すべき点	改善が必要な理由・具体的な改善案があれば教えてください
・発表方法	⇒生徒が頑張ってつくりあげたデータが消失するということがあったので。
・全体的な進め方（事業所ありきではなく）	⇒課題解決のモデルを示すことや、共通して身につけさせたいスキルを示してから実際の課題解決へ向かう方がよい。
・考えるためには、生徒に地域の歴史・課題や政治・経済などの知識をもっと持たせておく。地域の魅力や課題を学ぶ時間をもっと必要。一方、今回の3学期の活動ならば必要なかったかな。 ・プレゼンの方法をしっかり指導した方がよい。効果的パワーが資料の作成方法や、ペーパーを見ずに発表する姿勢など。これが次年度の発表の質の向上につながるのではないか。 ・企業によっては提案を考えようもないところもあった。	⇒他者との協働等が目的であるとはいえ、考え話し合うための材料は身につけていないとダメ。材料のない状態で、もっぱらネット検索を頼りにプランを考える手法は、プレゼンという行為は小手先でまかなえるという誤解をもたせてしまうかもしれない。意見を聞いたり発したりする能力は必要だが、同時に意見の質を高めるためには自分の中に知識を積み上げることも必要という気づきを徹底させることも大切なのではないか。（壁打ちによってある程度はできますが・・・） ⇒1年次の活動が、2年次の活動につながるよう2年間を通した活動プランを構築する必要があります。今年の活動は、残念ながら学期ごとによつと切れてしまった感がある。東京研修を経た最後の発表が、2年間の活動のゴールになるような組み方になればいいと思う。このゴールの姿を教員・生徒が共有できるようにすれば、モチベーション維持ができる。ゴールのイベントを確定し、そこから逆算して全体過程が設計できればいいのですが・・・。
・会社の温度差	⇒高校生にアドバイスを求める気が本当にあるのかどうか、よく分からない会社さんもあったような。こちらからの投げかけの問題？「何が課題なのか」生徒が分かりづらい会社も。
・課題が大きすぎるのでは？	⇒「ビジネスプランの考案」は、1年生にはハードルが高すぎるような気がしました。
・生徒に真剣味が足りなかった。ただ生徒の責任ではない→隣へ	⇒教員に真剣さが足りない。やらされている意識で指導できる内容ではない。その意味で南口クラスの副担になり学びが多く、よかった。
・課題設定	⇒課題設定の前に課題が深堀出来ていない班が多かった。もう少し深く考えさせたかった。

③「ライフデザイン探究」（島大生との交流等）について

○良かった点	良かったと思う理由があれば教えてください
・大学とはというものにふれることができた点。	⇒大学生のお話というのは生徒にとって新鮮。大学、大学生とは何か調べる興味がわいたと思う。（島大訪問のつながりも）
・学生によっては、生徒の刺激になった。	
・ナマの大学生にふれる	⇒教育実習生でない学生さんの話が聞けた。自分が大事にしていることも一生懸命伝えてくれた。生徒もよく聞いていた。
・参加していません	⇒近い将来の姿として大学生に話してもらおうのはいいことと思う（参加していないので表面的な意見）
・講師	⇒意外とみなさんきちんとお話になった。

▲改善すべき点	改善が必要な理由・具体的な改善案があれば教えてください
・生徒が知りたいことと大学生が話すことのリンクがいまいちな点	⇒生徒が大学生に聞いてみたいことリストなどを事前に作成して大学生サイドにわたしておく等。
・時期 ・計画性	⇒島大見学も含め文理選択を考える2学期までがよい。 ⇒全体の中での位置づけや今後への方向づけが見えなかった。
・高校と大学の連携が不十分。	⇒文理選択が終わっている生徒に対し、文理選択の参考になる話をするよう指導された学生がやってきては、お互いに不幸。
・トーク力	⇒個人個人次第であるが、プレゼンするのだから、、、、という、ある程度の練習をもう少し期待。（練習していたと思いますが。）
・生徒	⇒少し受け身すぎる生徒が多かった。

④来年度の総合的な探究について

来年度の1年生の取り組みについて、アイデアやご意見があれば、お願いします。

<p>・生徒たちが、課題解決学習の意義や方法について理解した上で、スキルアップができるとよい。やらされ感をなくし、こんな力を付けていくんだということをしかりと認識して課題に取り組むことができるとよいですね。</p>
<p>・タブレットの使用法の例や使用人数の制限、発表方法などをより明確化するとよりスムーズに進行できるのではないかとと思われる。</p>
<p>・1年生が島大と一緒に講義を受けるのであれば、一連の計画を生徒も教員も十分に理解し、2学期以降のどのような活動にどのように生かすのかという見通しが必要。</p>
<p>・やはり「チームでの協働作業」を一から手ほどきしてあげたら。</p>
<p>・すこし年上の先輩（大学生）の学んでいることや、学び方を知るということは、とても有意義なことだと感じています。（島大との連携・交流）</p>
<p>・全部が全部やり始めたなら困るけれど、音楽が好きな生徒はいると思うので、学園通り商店街みたいなのでCMソングを作らせるなどの指導はできるかも（音楽部の部活で取り組ませてみて面白い？）</p>

⑤来年度の2年生の取組について、アイデアやご意見があれば、お願いします。

<p>・この1年、担任を中心によく頑張ってくれて生徒たちを動かし、それに応える生徒も出てきているように感じます。2年生では、総探の時間だけでなく、学校生活のいろいろな場面でその力が発揮できるようになってくれることを期待しています。</p>
<p>・生徒から“東京研修と総学を強引につなげたよね”という声が聞かれた。なかなか難しいかもしれないがつながりをより感じることができる内容にするべき。</p>
<p>・地域課題解決に関して、1年次との差別化（よりシステムティックにグループが機能すること）を、東京研修旅行に（本年度以上に）関連づけて具体的な指示を出したい。島大の先生の協力は？</p>
<p>・ステップアップを考えると、「発表の質の向上」でしょう。せっかく前に出ても、一言しか言わない生徒、画面としゃべりがうまくシンクロしていない生徒、画面のレイアウトがイマイチな班、、、</p>
<p>・東京研修を課題研究と絡めることはいいのか？中学生の時に説明した（高校説明会やオープンスクール）内容と齟齬はないか？今のところ全員で東京に行くのは近隣校にない特徴なので、そこに魅力を感じて東高に来る生徒もいると思う。その意味で東京研修の内容が総合探究の内容によって変わると「約束が違う」みたいにとらえる生徒・保護者もいるのではないかな。</p> <p>・近隣校に連続して勤務して感じる他校との違いは、誤解を恐れずに言えば、東高生徒は、学力をリードする層は薄いですが、学校活動全般で妙なこだわりがなく、なにごとにも一生懸命立ち向かう姿勢を感じる。こういう東高の生徒の特性を生かすのに、探究学習を3つめの柱に置いた東高の今の姿勢は間違っていないと思う。</p> <p>・以前1年学年会で、模試で点を取る学的な学力と探究学習で身につく学力は両立しないのでは？という意見があったのをとても新鮮に感じた。全国には探究学習を深めることと学力向上を両立した例があるとされていて、そういった学校と同列に考えて良いのかはわからない。しかし、もともと東高が持っているのびやかさを生かすことのできる部分がどこかといえばこの総合探究ではないかと思う。特有ののびやかさをしっかり伝えていくと、結局は人気が集まり、結果的に生徒の質も向上するのかもしれないと思う。</p>
<p>・1年生も同様ですが、担任だけでなく副担任がどうかかわっていくか。副担を交えた打ち合わせが必要だと思いますので、年度当初に設定をお願いします。時間内は無理かと思えます。</p>

(2年部)

①島根大学の講義「イノベーション創成基礎セミナー」について

○良かった点 良かったと思う理由があれば教えてください

・大学で講義を受けたということ。	⇒進学への動機づけになる。大学で求められることが分かる。貴重な経験である。
・大学生のプレゼン発表をみる事が出来た。	⇒自分たちとの差を知ることができ、意欲が上がる。
・講義の内容	⇒話の聞き方やアイデアの出し方等、社会に出てからも役に立つ話が多かった。(我々でもなるほどと思う内容だったため、今の生徒にとってはピンとこない部分も多くあったが…)

▲改善すべき点 改善が必要な理由・具体的な改善案があれば教えてください

・指導する教員の時間割を空ける。 ・受講していく中で何が出来るようになったのか見えにくい。	⇒達成感を持ちづらい。講義を受けることが、「何のため」なのか、「なぜ」やるのか、また自分たちの活動に「どう」繋がっているのかを理解出来ない生徒が多かった。ただ行くだけ、退屈になってしまっていた。
・東京研修とのつながりが分からない。 ・2週間に1回行くのがきつい。 ・意識の低い生徒への対応 ・なぜ、この講義を受けるのか?の価値づけ。 ・講義と活動の関連づけ	⇒何を、何のために行くのか理解してくれれば良いのですが、、、。 ⇒生徒の学びにどう繋がるのかをしっかりと示すと良い。

②東京研修旅行(特に2日目のフィールドワーク)について

○良かった点 良かったと思う理由があれば教えてください

・本モノの企業の人とコンタクトをすること。	⇒社会人として、求められることを少し学べたのではないかと。社会人と関わる機会が少ない生徒にとって貴重な機会になった。
・事前に主体的に課題を模索できた点	⇒受け身にならず主体的に考えることにつながった点
・自分事として捉え活動の意味を見いだした班もあった。	⇒与えられた課題を自分事として考えるのは難しかったと思うが、関連のある場所で良い問をしたことで、内容のある結果を出す事が出来た班もいた。

▲改善すべき点 改善が必要な理由・具体的な改善案があれば教えてください

・何のために東京の企業の所へ行くのか意味づけと理解	⇒自分たちが売り込むことを勘違いしているグループも多かった。生徒、教員ともに何のために行くのか目的を整理しておくべきだった。「自分たちが売り込むのではない」という基本の部分を理解しないまま、近くにある場所ですらなんとなくインタビューをしてあとは自由時間になってしまう班が多かった。
・生徒によって取り組みに差が生じる点。 ・予定を立てる、計画性。	⇒早めに生徒に示し、見直しを持てるようにしたほうがよい。
・総探と結びつける必要があるのでしょうか。	⇒自分たちのプランについての助言ならば松江でもできると思いますが。一般の人に聞いても、サンプル数が少ないと意味がないと思うから。
・グループとは言え、高校生が路上インタビューをすること	⇒されるほうが迷惑である。

③:「MATSUE探究」の全体の活動(①・②以外)について

○良かった点 良かったと思う理由があれば教えてください

・プレゼンを経験できたこと。 ・大勢の前で発表する機会が与えられたグループや質問をした生徒はそれなりの達成感を得ていると思う。	⇒人前で、自分の考えを述べたり説明したりする経験は大きかった。意外と伝わらないということを知ることができたのでは?
・身近なところに目を向け、問題意識が持てた点。	⇒地域にどのような場所があり、その良い点・問題点を考えることで、地元について深く考える機会になった。
・あらかじめ探求の内容が決まっていたこと。	⇒テーマ設定に悩まず、スキルを集中的に学ぶことができる。

▲改善すべき点	改善が必要な理由・具体的な改善案があれば教えてください
<ul style="list-style-type: none"> 全体発表の前に専門家が助言をする時間を設けるべきである。 	⇒「今言われも、、、」と思った。
<ul style="list-style-type: none"> しまね大交流会での発表者（班） 	⇒代表者（班）だけにしても良かったかもしれません。他の学校は自分たちが活動していたことを発表しており、説得力があった。
<ul style="list-style-type: none"> 指導する教員が見通しを持ちにくい。 スケジュールの提示。 生徒自身が深く振り返りを行う機会を早く与えるべきだった。 探究の進め方を、「課題の発見」、「方法の選び方」、「探究の進め方」、「研究のまとめ方」、「発表の仕方」、「発表の聞き方」など、各プロセスに分けてノウハウを学ぶ機会が必要。 	⇒今年度は自転車操業で大変だった。来年度はスケジュールを早く提示すべきである。
<ul style="list-style-type: none"> 指導する教員が見通しを持ちにくい。 スケジュールの提示。 生徒自身が深く振り返りを行う機会を早く与えるべきだった。 探究の進め方を、「課題の発見」、「方法の選び方」、「探究の進め方」、「研究のまとめ方」、「発表の仕方」、「発表の聞き方」など、各プロセスに分けてノウハウを学ぶ機会が必要。 	⇒今年度は自転車操業で大変だった。来年度はスケジュールを早く提示すべきである。

④：来年度の総合的な探究について

来年度の1・2年生の取り組みについて、アイデアやご意見があれば、お願いします。

<ul style="list-style-type: none"> 今年度の島根大学の活動の参加については、「マーケティングのために、面白いキャッチコピーを考えることが正解だ！」というように生徒が捉え、活動しているように感じました。したがって、深く現状を把握して、的確な分析をして、効果的な結論を導くという「深い」学びは正直なかったように感じます。生徒の姿があまりみえていない中で、大学の講義だけが進んだ感じがありました。
<ul style="list-style-type: none"> 1年次に「探求活動について身につける」、2年次に「島根大学の協力のもと実践をする」というように上手く回ると面白いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 教員側が勉強する必要性をすごく感じた活動だった。
<ul style="list-style-type: none"> 着地点が分からない取り組みを主導してゆくのは大変だと思います。年ごとにコロコロ変えるとその都度担当者が困るのではないかと思います。担当者の引き継ぎを上手くできるようにすると担当の負担もへるのでは？
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで「島根のアピールポイントや問題点」「観光客を増やすには」「これが島根にあればいいのに」というようなことを決めさせ、調べさせることで、より興味と責任をもって課題に取り組めるのではと感じた。（テーマが限定されてしまう、班によってクオリティに差が出るなど問題もあるが…）
<ul style="list-style-type: none"> 成果を求めすぎなのではないでしょうか。高校生が、ちょっと調べたくらいで出る結論なんて当事者は知っていると思います。結論が出なくても、当事者の方と考えるプロセスが大切だと思います。教員が「発表」のための形式を意識しすぎていく気がします。簡単に、探究が終わりますかね。
<ul style="list-style-type: none"> 毎年根本的に変えるのではなく、少しずつ良くしていったら欲しい。

(2) 文理融合型の教育を目指す「地域共創コース」のカリキュラム研究

ア 学校設定科目「データサイエンス」の研究開発

統計分析の手法やデータサイエンスに求められる考え方、手法、表現の仕方及び現在行われている取組について研究した。

研修会・セミナー参加報告

参加者	教諭 手銭 隆志
用務	令和元年度統計グラフ指導者講習会
用務地	東京都新宿区戸山サンライズ（全国身体障害者総合福祉センター）
主催団体	公益財団法人 統計情報研究開発センター
日時	令和元年 6 月 19 日（水）～6 月 20 日（木）
内容	6 月 19 日（水） ・ 21 世紀型スキルと学習指導要領における統計的問題解決能力育成 ・ 統計グラフの基礎知識 6 月 20 日（木） ・ 生活を主題にした統計グラフの作り方 ・ パソコンによる統計グラフの作り方 ・ 統計グラフの種類と作り方
所感	来年度から開講する学校設定科目「データサイエンス」の学習内容を検討するために、本講習会に参加した。参考になることが多く、学習内容のイメージができた。

参加者	教諭 古藤 昭弘
用務	統計／データサイエンス指導法研究セミナー
用務地	代ゼミタワー（東京都渋谷区代々木 2-25-7）
主催団体	代々木ゼミナール教育総合研究所
日時	令和元年 7 月 14 日（日） 13:00～17:00
内容	「統計」指導上における学習指導要領の改訂ポイント 講演 試行調査に見る「統計」問題 講演 今、高校生に伝えたい「データサイエンスが拓く未来」 パネルディスカッション 学校現場における「統計」学習の指導法
所感	来年度から開講する学校設定科目「データサイエンス」の学習内容を検討するために、本セミナーに参加した。実践例や使用教材の紹介があり、指導内容を検討する際の参考になった。

イ 学校設定科目「EAST プログラミング基礎」の研究開発

情報教育研究会に参加し、生徒にプログラミング的思考を身に付け、問題発見力や問題解決力の育成につながる情報教育をいかに実現させていくべきかを研究した。

研修会参加報告

参加者	実習助手 恩田 大輔
用務	全国高等学校情報教育研究会全国大会（和歌山大会）
用務地	国立大学法人 和歌山大学
主催団体	全国高等学校情報教育研究会
日時	令和元年 8 月 10 日（土）～11 日（日）
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション 「プログラミング的思考を取り入れたら授業はどう変わったか」、 「高校生は Python でプログラムが組めるようになるのか」 ・教育実践、研究成果等の発表 「きのくに ICT 教育～和歌山県の高校・プログラミング教育～」、 「情報活用能力を鍛えるプロジェクト型授業 ～「情報 I」を見据えたプログラム開発～」
所感	令和 3 年度より実施する学校設定科目「EAST プログラミング基礎」の学習内容を検討するために本研究大会に参加した。さまざまな実践を見聞きし、学習内容・目的に応じた適切な言語選択と環境を導入する際の参考となった。

(3) 単位制普通高校移行や新学習指導要領を見据えた学校魅力化研究

県外の先進校を視察し、教育課程の運用面や教務規定、特色的な学習内容について研究した。

先進校視察報告

参加者	教諭 教務部長 青山 靖夫 教諭 魅力化推進部長 手銭 隆志
用務	岡山県・山口県先進校訪問
訪問先 日時	岡山県津山高校 令和元年 12 月 23 日（月）13：00～14：30 岡山県立岡山城東高校 令和元年 12 月 24 日（火）10：00～11：30 山口県立徳山高校 令和元年 12 月 24 日（火）16：00～17：00 山口県立光高校 令和元年 12 月 25 日（水）10：00～11：00

訪問内容	進級・卒業に関わる規定について 時間割編成について 特色的な授業について その他
------	---

(4) 教育を核とした多文化協働・地域共創研究

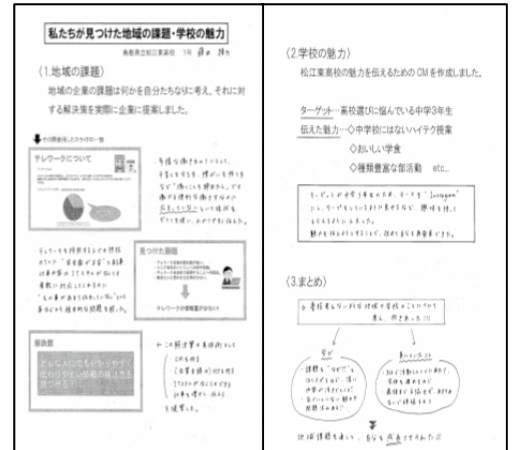
埼玉県教育委員会主催「学校地域 WIN-WIN プロジェクト」フォーラム

1/15（水）引率教員 早川教諭、南口教諭、1年生10名、計12名参加

埼玉県の高中生や他県の大人の方々と「対話」による交流を行い、1年間取り組んだ「総合的な探究の時間」の活動の中で生まれた疑問や自分自身の課題について、参加した他校の生徒や、大人と語り合った。

○参加した生徒の感想

- ・大人のたちは様々な経験を積んできていて、その経験があればあるだけ、自分の未来や可能性を広げていくのだと知ることが出来ました。
- ・このフォーラムに参加して安心感を覚えました。なぜかというと、学校の先生をはじめ地域で私たちと関わってくださっている大人の方々の本音や気持ちをたくさん聞かせていただいたことで「こんな風に考えてくださっていたんだ。」と、今まで少し遠く感じていたのが近くに感じるようになったからです。
- ・これまでの活動でも疑問に思うことがいくつかあったけれど、それが深堀り出来ていると思っていなかったから、大人の方のお話でやっと、自分は深堀り出来ていたんだと気づくことができました。



(5) 類型毎の趣旨に応じた取組

JRC 部による川津幼稚園での防災教育

JRC 部の1,2年生が7月に川津幼稚園で、預かり保育の幼稚園児たちを対象に地震についてパペットを使った防災教育を実施した。去年実施した東高の生徒を対象とした防災意識に関するアンケートでは、半数以上が「家族で災害が起きた時どうするか話したことはない」「家に緊急事態用の非常食や懐中電灯などを準備していない」と回答した。高校生でも防災意識が低いことに気づき、このような結果になったのは、小さい頃に防災について学ぶ機会が少なかったからなのでは



ないかと考え、普段から訪問している川津幼稚園で記憶に残るようなパペットを使った防災教育をすることにした。

実施までの主な工程は、「防災教育を実施することの承諾を得る、幼稚園での防災避難訓練を視察、概要を作成し幼稚園の先生と協議、台本作成、パペットづくり、小物づくり、防災教育の実施」という流れで行い、すべて手作りにこだわって実施した。

この防災教室を終えて、幼稚園児は意外に静かに落ち着いて話を聞いてくれること、防災について教えることの大切さ、幼稚園児にとってわかりやすくすることと自分たちが伝えたいことをしっかり伝えることの両立が大変なことなどいろいろなことに気づけた。

参加した JRC 部員は、「準備期間が短く十分な状態でできなかったため、もっとアップグレードさせた状態でもう一度実施したい。」「今回は対象が預かり保育で残っている子たちだけだったので、次回は長期休みなどを利用して午前中や昼の間に実施し、より多くの幼稚園児たちに防災について伝えたい。」と口を揃えて言っていた。



第3章 普及活動

1 島根県教育委員会による研修会

(1) 高校魅力化コンソーシアム構築事業第1回研修会

令和元年 7月22日(月) 出雲市合同庁舎

都市部の先導モデル校である本校は、これまでの取組状況や現状の課題などを発表

校長 野々村 卓「本校の魅力化・特色化について」




<p align="center">高校魅力化コンソーシアム 先導モデル創出事業（都市型）</p> <p align="center">2019. 7. 22</p> <p align="center">島根県立松江東高等学校</p>	<p align="center">魅力化・特色化の背景</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県立学校魅力化ビジョン(2019. 2) 2. 松江市内の普通高校 普通高校県立3校、市立1校、私立4校 県立普通高校3校には、通学区あり 通学区を超えての入学 5%枠→20%枠(2018~)→撤廃(2021) 3. 本校の入学定員減(2019) 6クラス→5クラス 	<p align="center">松江東高校の魅力化・特色化</p> <p>4つの事業のかけ合わせで、魅力化・特色化を図っていきます。</p> <table border="1"> <tr> <td>文部科学省 地域との協働による高等 学校教育改革推進事業 (地域魅力型)</td> <td>島根県教委 島根大学と高大接続ハイ ロットモデル校</td> </tr> <tr> <td>島根県教委 魅力化コンソーシアム先 導モデル校(都市型)</td> <td>島根県教委 教育課程実践モデル事業 H29-30</td> </tr> </table>	文部科学省 地域との協働による高等 学校教育改革推進事業 (地域魅力型)	島根県教委 島根大学と高大接続ハイ ロットモデル校	島根県教委 魅力化コンソーシアム先 導モデル校(都市型)	島根県教委 教育課程実践モデル事業 H29-30
文部科学省 地域との協働による高等 学校教育改革推進事業 (地域魅力型)	島根県教委 島根大学と高大接続ハイ ロットモデル校					
島根県教委 魅力化コンソーシアム先 導モデル校(都市型)	島根県教委 教育課程実践モデル事業 H29-30					

<p>新たな取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 主体的・探究的な学びを促す地域課題解決型学習（地域共創人育成project） ✓ 教科での主体的・対話的で深い学びを活用した授業（ICTの活用） ✓ プログラミング・データサイエンスなどのAI時代に対応するカリキュラム 	<p align="center">生徒につけたい力</p> <ol style="list-style-type: none"> ①主体的学習者としての力 ②探究的学習力 ③社会的自立力(キャリア形成力) ④地域共創力(価値想像力) ⑤多文化協働力 	<p align="center">未来の地域を支える人々</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="3">高校卒業</td> <td>県内</td> <td>県内・地元に残る ・新卒や文化の継承発展・起業</td> <td>地元の価値の深掘り ↓ 新たな価値の創造</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">県外</td> <td>県内・地元に戻る ・地元の社会を支える ・新たな価値を創出するリーダーへ</td> <td>ネットワークの形成、地域の良さの再発見</td> </tr> <tr> <td>県外へ進学・就職 ・就職先で一歩外で成長→故郷を支える ・都会で県外の良さを再認識→リターン ・国内・国際的な舞台で活躍</td> <td>都市と故郷を結ぶノウハウ・ビジネスの創出(関係人口)</td> </tr> </table>	高校卒業	県内	県内・地元に残る ・新卒や文化の継承発展・起業	地元の価値の深掘り ↓ 新たな価値の創造	県外	県内・地元に戻る ・地元の社会を支える ・新たな価値を創出するリーダーへ	ネットワークの形成、地域の良さの再発見	県外へ進学・就職 ・就職先で一歩外で成長→故郷を支える ・都会で県外の良さを再認識→リターン ・国内・国際的な舞台で活躍	都市と故郷を結ぶノウハウ・ビジネスの創出(関係人口)
高校卒業	県内	県内・地元に残る ・新卒や文化の継承発展・起業		地元の価値の深掘り ↓ 新たな価値の創造							
	県外	県内・地元に戻る ・地元の社会を支える ・新たな価値を創出するリーダーへ		ネットワークの形成、地域の良さの再発見							
		県外へ進学・就職 ・就職先で一歩外で成長→故郷を支える ・都会で県外の良さを再認識→リターン ・国内・国際的な舞台で活躍	都市と故郷を結ぶノウハウ・ビジネスの創出(関係人口)								

<p>未来の地域を支える先輩（関係人口）</p> <p>18期卒業生の伊藤翔洋さんと長村川野士さんが、3月29日の山陰中央新報に後輩へのメッセージ広告を出しました</p>	<p align="center">生徒に持ってもらいたい気持ち</p> <p align="center">しまねマインド (まつえマインド)の育成</p>	<p align="center">東高校が目指すもの</p> <p align="center">松江東高校は 地域共創人 を育成します</p>
--	---	---

<p>地域共創人とは？</p> <p align="center">地域共創人 = 地域社会の未来に向けて挑戦する人 (他者と協働で新たな価値を創造)</p>	<p>地域共創人育成Project</p> <p>本年度より、地域共創人育成Projectが始まりました。(総合的な探究の時間を中心に)</p> <table border="1"> <tr> <td>1年生</td> <td>地域に関心を持つ。地域の価値を知る。</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>地域とのつながりを探究する。地域とともに挑戦する。</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>地域の中から新しい価値を創造する。</td> </tr> </table>	1年生	地域に関心を持つ。地域の価値を知る。	2年生	地域とのつながりを探究する。地域とともに挑戦する。	3年生	地域の中から新しい価値を創造する。	<p>今年度の学習内容（1年生）</p> <ul style="list-style-type: none"> 東高CM制作 CMとしてPRするべき東高校の魅力を考える 地域課題解決学習 松江市や学園通り商店街の課題を知り、その解決策（ビジネスプラン）を発表する ダイガク・ジャーニー 島根大学で働く人にインタビューしながら大学について理解を深める 進路選択 自分の進路を考え、文理およびコースを選択
1年生	地域に関心を持つ。地域の価値を知る。							
2年生	地域とのつながりを探究する。地域とともに挑戦する。							
3年生	地域の中から新しい価値を創造する。							

<p>今年度の学習内容 (2年生)</p> <p>島根大学のイノベーション創生基礎セミナー受講 大学生と一緒に講義を受講。問題解決に必要な基礎知識・スキルを実践的に学ぶ。</p> <p>地元企業との連携 「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには？」というテーマでビジネスプランを考える。</p> <p>東京研修旅行 ビジネスプランに実効性があるかを検証する。</p> <p>成果発表会</p>		<p>松江東高魅力化コンソーシアム ・コーディネーターについて</p>
---	---	---

<p>松江東高校魅力化コンソーシアム</p> 	<p>都市型コンソーシアムについて</p> <p>①成立の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇魅力化の必要性...定員減、通学区の撤廃 県教委の方針 魅力化校16校の存在 〇自治体のイニシアチブなし ↓ 高校が主体的に人探し・校長(管理職)の仕事 ・「松江東高校のために」と思ってくれる人 ・Win-Winの関係になる人 	<p>都市型コンソーシアムについて (2)運営(予定)</p> <p>設立...今年度10月予定 準備会 6回 役員会...年3回 ワーキンググループ...具体的な内容ごとに 必要な回数実施予定</p> <p>③問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇離島・中山間地との違い 学校が中心...自治体のイニシアティブなし 資金不足 県の魅力化事業の対象外 自治体からの補助金なし → 文部科学省の事業申請
--	---	--

<p>都市型コンソーシアムについて ③問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇各主体の意識の違い ビジョンの共有の難しさ...「地域共創人の育成」 →ワークショップの実施 〇属人的な関係から組織としての繋がりへ →関わる主体からの信頼...Win-Winの関係 〇コンソーシアムで扱う範囲、意思決定 学校の魅力化のどの範囲まで関わるのか 「意思決定」の意味 	<p>都市型コンソーシアムについて ③問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇教員の意識改革 前提:「勉強」と「部活動」だけで 時間外勤務7.2時間(2018年度平均) →「魅力化推進部」の設置...各分掌との連携 研修の実施 	<p>地域課題解決学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇「地域」設定の難しさ →「地域」=「企業」(今後は拡大の必要あり) 〇総合的な探究の時間内で実施 (教科の学習活動、部活動への影響を与えない) 〇地域課題解決型学習が生徒たちの「学びのタネ」につながるか? (生徒の主体的な学びにどう繋げるのか?)
---	--	--

<p>コーディネーターについて</p> <p>〇「社会に開かれた教育課程(地域課題解決型学習)」の実現のためには不可欠な存在</p> <p>役割...プログラム開発、地域との連携、授業の実施 コンソーシアムの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域出身者(Uターン)、他県からのターン ・島根県では、原則自治体が雇用 ・地域起し協力隊...給料の低さ、任期の短さ(3年) ・養成、育成、獲得の難しさ...どこが担うのか? 	<p>コーディネーターについて</p> <p>本校...自治体が採用しない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムの運営...コンソーシアムマネージャー ・プログラム開発等...「プログラム等開発専門家」「地域協働学習実施支援員」 <p>→「社会に開かれた教育課程」を実践するには 高校にコーディネーターを配置することは不可欠</p>
---	---

(2) 高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業等成果報告会

令和2年 2月7日(金) くにびきメッセ

ア 成果報告及びパネルディスカッション

都市部の先導モデル校として、今年度の実践報告やそれにより見えてきた課題について報告及びパネリストとして参加

魅力化推進部長 手銭 隆志

「都市型・松江東高校の取組」



都市型・松江東高校の取組

- 1 本校の組織・推進体制
- 2 大学・企業・市役所と連携した探究学習

島根県立松江東高等学校
魅力化推進部長 手塚 隆志

1. 本校の組織・推進体制

(1) 魅力化推進部の設置

【メンバー】
教員6名+学校書1名+コンソーシアムマネージャー1名

①主な業務

- ・文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」関連
- ・総合的な学習（探究）の時間の企画・運営
- ・広報PR・HP関係
- ・図書関連

②うまく機能していること

- ・全員が同室に在籍しており、常に相談し合いながら業務を行える。
- ・毎週部会を実施（時間割内に設定）

1. 本校の組織・推進体制

(2) 魅力化校内連絡会(地域との協働による高等学校教育改革推進事業対策会議)

【メンバー】
校長、教頭、事務長、主幹教諭（税務部長）、魅力化推進部長、教務部長、進路指導部長、生徒部長、コンソーシアムマネージャー

①うまく機能していること

- ・文科省事業の選考管理
- ・総合的な学習（探究）の時間プログラム内容、教職員研修会、及び各種関係イベントなど文科省事業に関する事項の協議
- ・単位制移行に向けた準備
- ・広報PRなど魅力化に関すること全般

②今後の課題

- ・情報共有だけでなく、踏み込んだ議論ができる場にする。

1. 本校の組織・推進体制

(3) 総合的な探究（学習）の時間に関する打ち合わせ会（拡大学年會）の設置

- ・1、2年学年会において、総合的な探究(学習)の時間に関する拡大学年會を設定(11月～)
- ・必要に応じて放課後30分程度

【メンバー】
学年主任、担任、副担任、学年付き

設置理由

- ・学年会（主任、担任のみ）では短時間しか協議できなかった。
- ・総務を運営していく中で担任以外の教員には、内容や進捗などを共有・協議をする場がなかった。
- ・生徒に対応する教員の方針や視座にズレが生じ、生徒の活動をうまくリードできなかった。

1. 本校の組織・推進体制

(4) 島根大学と県教委との高大連携に関する協定によるパイロットモデル校

①うまく機能していること

- ・「大学教育センター」が窓口となり、学部や各部門の調整を行い、必要な人材を派遣
- ・高校教員が行う授業に対して、事前打ち合わせ、視察、授業の振り返りを実施

②今後の課題

- ・大学から高校へ来る依頼に対する校内窓口の一本化



1. 本校の組織・推進体制

(5) 高校魅力化コンソーシアム教育プログラム開発ワーキンググループ

【メンバー】
魅力化推進部+島根大学教員+松江市産業経済部産業連携専門員、島根県中小企業家同友会+松江商工会議所+東雲会+高の磯会

うまく機能していること

- ・総合的な探究(学習)の時間のプログラム構築
- ・大学教員や行政、民間企業等さまざまな見地から意見を出し、合い教育プログラムを構築
- ・探究課題の提供

学年	探究テーマ	実施期間	実施内容	担当教員
1年	行政・企業の課題を聞き、解決策を考える探究学習を実施	11月～12月	行政・企業の課題を聞き、解決策を考える探究学習を実施	手塚 隆志
2年	「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには?」	11月～12月	「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには?」	手塚 隆志

2. 大学・企業・市役所と連携した探究学習

(1)1年生

行政・企業の課題を聞き、解決策を考える探究学習を実施

- 松江市11部局、地元企業8社が事業説明及び課題提供
- 課題の深掘りとその解決方法について検討
- 「ビジネスプラン」を発表



2. 大学・企業・市役所と連携した探究学習

(2)2年生

○島根大学COC人材育成コース(地域貢献人材育成入試選抜)の学生と共同で講義を受講

○「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには?」

- ・テーマに関連する松江市内の各店舗、施設など35カ所を訪問

○高校生と大学生とのガスターセッション

- ・発表内容や仕方について大学生から助言
- ・大学生の発表を見る。



2. 大学・企業・市役所と連携した探究学習

○東京研修旅行フィールドワーク

- ・売り込む商品・サービス等のようにPRすれば良いか、東京の企業訪問や街頭インタビューを実施

○成果発表会

- ・学年発表会で選出された代表の8班がメッセで発表



2. 大学・企業・市役所と連携した探究学習

感想

生徒はリアルな課題に取り組むワクワク感を体感

- ・「自分たちが解決策を考えることで地域や企業に貢献できる実感を得た。」
- ・「リアルな課題は単純ではなく、課題解決のためには問題の根本を何度も深掘りすることが大事。」
- ・「課題解決には正確でないため、深掘りすればするほど内容が良くなっていく。深まってくるのが自分だとするとすごく嬉しかったし、楽しかった。」
- ・自分の役割をするだけでなく、相談し合い、意見を取り入れながら創っていくことの大切さを学んだ。」



2. 大学・企業・市役所と連携した探究学習

- ・「地元の名産について調べるところから始まり、きちんとした知識を身に付けたと思っていたも、実際に東京の企業の方と話をしたときに、まだまだ不十分で深く考えられていないことに気づかされた。」
- ・「班の皆でアイデアを出し合い、筋の通った研究発表ができた。これからは違う視点から物事を捉え、ユーモアある思考も身に付けた。」
- ・「ターゲットが感かされるような工夫のヒントを企業訪問をおとて得ることができた。また、現代人の生活の仕方を考慮したテーマの発信方法を学べた。」

より現実的な解決方法を企業から学ぶことができた。



イ 分科会

都市型、離島・中山間地域型、複数校型それぞれのブースに分かれた分科会を実施

校長 野々村 卓

「都市型コンソーシアムの設立過程について」

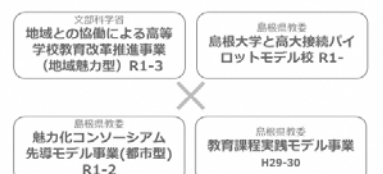


高校魅力化コンソーシアムの設立過程について(都市型)

2020. 2. 7
島根県立松江東高等学校

松江東高校の魅力化・特色化

4つの事業のかけ合わせで、魅力化・特色化を図っていきます。



松江東高校魅力化コンソーシアム



コンソーシアムの設立過程

- ① 学校の魅力化背景・動機
- ② 学校の魅力化の方向性の決定
- ③ 魅力化に必要な協働相手への依頼
 - ②魅力化の方向性の検討と並行して
- ④ 学校関係団体との折衝
 - ②魅力化の方向性の検討と並行して
- ⑤ コンソーシアムの設立

①学校の魅力化の背景・動機

- (1) 県教委の方針（年度当初）
 - ・定員減…5学級へ（H30.9）
 - ・「県立学校魅力化ビジョン」（H31.3）
 - 市内普通科通学区の撤廃
 - 特色化・魅力化をやるしかない！
- (2) 離島中山間地の魅力化校との違い
 - ・自治体のイニシアティブなし
 - 学校中心でやるしかない！

②学校の特色化・魅力化の方向性

H30.4 教育目標(変更点)

○地域社会の今と将来に関わる力

H30.11 県立高校魅力化ビジョン

島根大学や地域との連携を強化して地域課題解決型学習による実践的な学びを実施するとともに、多様な選択教科を開設できる単位制を導入し、Society5.0で生き抜く力を養成する教育を展開する。

H31.4 育てたい生徒像(変更点)

○自分らしいライフデザインの実現をめざす生徒

○持続可能な社会を創造する地域共創人

③協働相手への依頼

- ◎誰が見つめるのか？
 - 高校(校長)が見つめる
- ◎どうやって相手を見つめるのか？
 - 学校関係者(同窓会・PTA)、自分の知り合い等
- ◎何を伝えるのか？
 - 高校をどのように魅力化するのか。
 - 相手にどのような役割を担ってもらえるのか。

③協働相手への依頼

東高の場合

A 島根大学との連携

B 地域との連携…松江市、中小企業家同友会、松江商工会議所

A: 島根大学との連携 (H30.8～)

- (1) スタート前
 - ・教育課程実践モデル事業H29-30指導委員2名
- (2) 島根大学との連携開始 (H30.8～)
 - ①8/1 島根大学(地域未来協創本部)より連携要請
 - しまね大交流会参加要請
- (3) コンソーシアム準備会参加 (H30.12～H31.3)
 - 泉先生、高須先生、中村先生

A: 島根大学との連携 (H30.8～)

(4) 文部科学省事業への申請 (H31.1-3)

県教委と島根大学との協定(H31.2)

- ①事業申請へのアドバイス(H31.1)
- ②文科事業での協力
 - カリキュラム等開発専門家…高須先生、熊丸先生
 - 地域協働学習支援員…中村先生、千代西尾先生

B: 地域との連携

- (1) 地域とは？
 - 10.5 Willさんいん金築理恵氏との協議
 - 「地域の課題」=「企業の課題」
- (2) 文部科学省事業への申請条件
 - 自治体の参加が不可欠 (10.24)
- (3) 松江市への依頼
 - 11.9 能海副市長(高の額会理事)→矢野正紀氏紹介
 - 11.15 矢野正紀氏に依頼 (経済産業部産業連携専門監)
 - 松江市の思いを知る
 - 松江商工会議所を紹介 松江市教委を紹介
 - 4.11 松浦正敬松江市長 松江市の参加了承

B: 地域との連携

- (4) 11.21 松江商工会議所への依頼→了承
- (5) 11.26 中小企業家同友会の参加決定
 - 野津積氏、金築理恵氏の参加
- 12.18 第1回コンソーシアム設立準備会

④学校関係団体との折衝

- ①PTA
- ②東雲会 (同窓会)
- ③高の額会 (後援会)
- ④学校評議員

・4つの組織の合同役員会議で2度説明 (7.10 9.20)

・PTA・東雲会・高の額会


10月 コンソーシアム参加要請 → 了承

※東雲会会長がコンソーシアムの会長

⑤コンソーシアムの設立

- ・持続可能なコンソーシアムへ
- ↓
- ◎組織Vs組織へ ← 個人Vs個人
 - ・様々な手続きが必要
 - 規約・資金・取り組みの充実の確保
 - ・WIN-WINの関係へ
- ◎事務局の体制整備…コーディネーターの確保？

※規約・組織図等は本校HPをご覧ください



⑤コンソーシアムの設立

気がついたこと

1. 自分の学校をどう魅力化し、その中でどのような役割を果たしてもらいたいかを相手に明確に伝える
2. 相手と話し合うことで自分の知見を広げる
3. 魅力化に必要な人を紹介してもらう
4. 組織Vs.組織になると、様々な手続きが必要

(参考) 松江東高校の魅力化の経緯

2018.12	平成30年度	第1回設立準備会
2019.01	平成30年度	第2回設立準備会
2019.02	島根大学と県教委との高大連携協定の締結	
2019.03	平成30年度	第3回設立準備会
2019.04	文科省「地域との協働による高等学教育改革推進事業(地域魅力型)」採択	
		島根県「魅力化コンソーシアム先導モデル校(都市型)」選定
	令和元年度	第1回設立準備会
2019.07	令和元年度	第2回設立準備会
2019.09	令和元年度	第3回設立準備会
2019.12	令和元年度	コンソーシアム役員会

2 総合的な学習（探究）の時間「MATSUE 探究 I、II」の公開

(1) 1年生総合的な探究の時間「MATSUE 探究 I」の公開

- 6/18 日本マイクロソフトによる「AI りんな」の体験授業
- 8/30 1年生「東高のCMをつくろう」を文化祭で全校生徒や保護者に上映、最優秀作品は学校のHPに掲載
- 11/26 1年生「地域の魅力と課題を知ろう」ビジネスプラン発表会
松江市、学園通り商店街、中小企業家同友会等が来校

(2) 2年生総合的な学習の時間「MATSUE 探究 II」の公開

- 10/17 島根大学「教育・入試懇談会」
代表班が「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには？」の成果発表
- 11/16 島根大学・島根県教育委員会主催「しまね大交流会」
全48班がポスターセッションを実施
- 12/6 学年発表会
関係企業等、県外高校からの視察、運営指導委員に公開
- 12/17 「MATSUE 探究」成果発表会
学年代表の8班が校外会場にて発表。教育関係者、関係企業等、保護者に公開

文部科学省指定「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
(地域魅力化型)



松江東高校

地域共創人育成 Project

「MATSUE 探究」成果発表会

とき 令和元年12月17日(火) 13:00~16:00

ところ くびきメッセ 国際会議場



SCHEDULE

1 成果発表 13:15~
松江東高校2年生による成果発表

2 講演会 14:15~
高須佳奈 氏
(島根大学地域未来共創本部講師)
演題「地域協働教育は、何を可能にするのか(仮)」

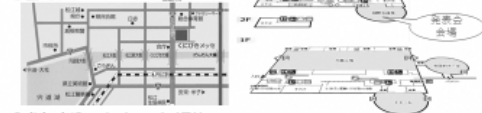


本校では文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の採択を受け、「持続可能な社会を創産する『地域共創人』の輩出」の研究開発を計画しております。
島根大学や地域の企業との連携強化に取り組みながら、地域の未来を共に創っていく『地域共創人』を育成するとともに、理かなしまね(まつえ)マインドを持たせることで、松江地域の人材の定着・選抜につなげることを目的としております。

次第
(1)開会
(2)校長挨拶
(3)指導助言者紹介
(4)成果発表会(8班) → 生徒5分 質疑応答5分
(5)講演会
(6)校長挨拶
(7)閉会

2年生は、島根大学で学生と一緒に「イノベーション創生基礎論1」という講義を受け、「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには？」という課題に挑戦してきました。
市内各所を巡る校外調査活動に加え、東京研修旅行で関連する企業等に訪問したり、街頭インタビューを実施するなどして、松江市内のサービス、商品、観光地など魅力を再発見するとともに、それらを東京の人々にどうPRし、売り込んでいけば良いか、といったことを考えしてきました。今回はその成果を代表の8班が発表させていただきます。
【指導・助言者】
島根大学地域未来共創本部 講師 高須 佳奈 氏
島根大学大学院 教授 千代西尾 地司 氏
島根大学教職大学院 准教授 精丸 真太郎 氏
島根大学教職大学院 准教授 中村 伸樹 氏

●会場アクセス



●参加申込 (〆切12/9(月))

申込方法①
本紙下部をご記入の上、本紙のみをFAXしてお申し込みください。
申込方法②
所属・職名・氏名をご記入の上、以下のアドレスにメールにてお申し込みください。
matsuehigashi-hs@edu.pref.shimane.jp

お問い合わせ
島根県松江東高等学校 魅力化推進部
〒690-0823
島根県松江市西川津町510番地
TEL 0852-27-3700
FAX 0852-27-3703
HP:https://www.matsuehigashi.ed.jp/

参加申込

FAX 0852-27-3703

(不足する場合は本紙をコピーしてお使いください)

所属	職名	氏名

3 その他広報活動

(1) 島根大学「教育・入試懇談会」

10/17 パネルディスカッションパネラーとして、野々村校長が出席
 先導モデル校である本校の取組状況や現状の課題を発表

(2) 教職員研修会の公開

2/21, 22 教職員研修会「プロジェクト伴走者のためのスキルアップセミナー」
 県内高校、大学等教育関係者、関係企業等に公開



プロジェクト伴走者のためのスキルアップセミナー
 地域も学校も、Win×Winを目指し高いプロジェクト学習のために

2020 ◆会場：松江東高校視聴覚室 ◆参加費：無料 ◆申込：要
 ◆対象：生徒や学生のプロジェクト学習の指導や支援など「伴走者」の方

2/21 (金) 13:30-16:30 **A ロジック・ランチ & CLR**
 形式の分析・解説や課題の解決策を支援する
 ◆研修の学習上にも役立つ実践的なスキル
 ◆参加費無料（当日の研修費のみ）
 ◆お申し込みは、お申し込みフォームからお願いします。

2/22 (土) 13:30-16:30 **B ATT (Ambitious Target Tree)**
 目標達成や課題解決などプロセス設計を支援する
 ◆目標達成の秘訣「アタリ目」からゴールまでの
 達成までのプロセス設計が、
 ◆参加費無料（当日の研修費のみ）

講師：平方文哉 (松江東高校プロジェクト学習推進員)
 TOCE Learning Connection Facilitator

講師：平方文哉 山田慶太郎
 TOCE Learning Connection Facilitator
 竹内偏二
 TOCE Learning Connection Facilitator

◆同日とも松江東高校の研修室を併用するに併せて高断りします。
 ◆申込は下記申込用紙に記入いただき FAX にてお送りいただくか、
 右下の QR コードからお申し込みください。
 ◆同日とワークショップで連続して学びます。また、内容は手厚く
 研修費の必要です。当日まで研修費の発生をしますので「予定」といってご了承ください。
 ◆毎日 50 名まで（先着順）です。定員が満ちますので、お早めにお申し込みください。

主催：松江東立松江東高等学校
 共催：松江東高校活性化コンソーシアム、松江東教育委員会



プロジェクト伴走者のためのスキルアップセミナー
 ◆会場：松江東高校視聴覚室
 ◆対象：生徒や学生のプロジェクト学習の指導や支援など「伴走者」の方

2/21 (金) 13:30-16:30 **A ロジック・ランチ & CLR**
 形式の分析・解説や課題の解決策を支援する
 ◆研修の学習上にも役立つ実践的なスキル
 ◆参加費無料（当日の研修費のみ）
 ◆お申し込みは、お申し込みフォームからお願いします。

2/22 (土) 13:30-16:30 **B ATT (Ambitious Target Tree)**
 目標達成や課題解決などプロセス設計を支援する
 ◆目標達成の秘訣「アタリ目」からゴールまでの
 達成までのプロセス設計が、
 ◆参加費無料（当日の研修費のみ）

講師：平方文哉 (松江東高校プロジェクト学習推進員)
 TOCE Learning Connection Facilitator

講師：平方文哉 山田慶太郎
 TOCE Learning Connection Facilitator
 竹内偏二
 TOCE Learning Connection Facilitator

◆同日とも松江東高校の研修室を併用するに併せて高断りします。
 ◆申込は下記申込用紙に記入いただき FAX にてお送りいただくか、
 右下の QR コードからお申し込みください。
 ◆同日とワークショップで連続して学びます。また、内容は手厚く
 研修費の必要です。当日まで研修費の発生をしますので「予定」といってご了承ください。
 ◆毎日 50 名まで（先着順）です。定員が満ちますので、お早めにお申し込みください。

セミナー申込用紙 FAX: 0852-27-3703
 (切り取らず A4 サイズのままお送りください)

▶お名前： _____ ▶連絡欄
 ▶ご所属： _____
 ▶参加希望日 (複数日でも、いずれかでも希望日でも可)：
 A: 2/21 (金) 13:30 ~ B: 2/22 (土) 13:30 ~
 ▶メールアドレス (学務連絡がある場合に使用します)： _____

※この用紙の複製は、
 許可なく行わないでください。
 ※FAX 0852-27-3703
 0852-27-3703

【問合せ】：松江東立松江東高校 TEL: 0852-27-3700 (担当：井上武大)

(3) その他

ホームページにおいて魅力化事業の成果を普及
 パンフレット及び成果報告書の印刷・配布

第4章 研究開発の効果と評価及び事業終了後を見据えた取組

1 目標の進捗状況、成果、評価

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)	
a	(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 3年次に、「自分の住んでいる地域や島根県で起こっている問題や出来事に関心がある」と答える生徒の割合。					単位：%
	本事業対象生徒：		80	90	90	
	本事業対象生徒以外：	58.4	77.9			
目標設定の考え方：「学校生活に関するアンケート」の結果では、2018年度3年生は58.4%である。90%以上を目指す。						
b	(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 3年次に、「自分の住んでいる地域や島根県をよくするために何をすべきか考えることができる」と答える生徒の割合。					単位：%
	本事業対象生徒：		55	70	70	
	本事業対象生徒以外：	35.7	69.2			
目標設定の考え方：「学校生活に関するアンケート」の結果では、2018年度3年生は35.7%である。70%以上を目指す。						
c	(その他本構想における取組の達成目標) 3年次に、「将来、島根県で働きたいと思う」と答える生徒の割合。					単位：%
	本事業対象生徒：		60	70	70	
	本事業対象生徒以外：	50.5	69.7			
目標設定の考え方：「学校生活に関するアンケート」の結果では、2018年度3年生は50.5%である。70%以上を目指す。						
d	(その他本構想における取組の達成目標) 3年次に、松江東高等学校を高大連携のパイロットモデル校に指定している島根大学での学びに魅力を感じている生徒の割合。					単位：%
	本事業対象生徒：		60.0	70.0	70.0	
	本事業対象生徒以外：	-	50.0			
目標設定の考え方：70%以上を目指す。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 県内外の教育機関等に公開する授業研究等の回数					単位：回
		0	5→7	6	7	7
目標設定の考え方：毎年10回以上を目指す。						
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 県内外の教育機関等に取組みを紹介するための研究発表会の回数					単位：回
		0	1→3	1	2	2
目標設定の考え方：毎週1回以上の更新を目指す。						
c	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 県内外の教育機関等に取組みを紹介するために学校のホームページを更新する回数					単位：回
		0	25→40	30	35	35
目標設定の考え方：毎週1回以上の更新を目指す。						

- ・HPの更新回数は、担当部署の変更や探究学習の取組を小まめにアップすることで大幅に増加しただけでなく、HPそのものをスマートフォンでも見やすい形やこれまでのカテゴリを再編、新たなページの作成等設計から改善した。

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）							
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位：回
	「研究開発ワーキンググループ」のミーティング等の活動回数（カリキュラムの検討や成果報告）		0	10→32	10	10	
目標設定の考え方：毎年10回以上を目指す。							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数（人）	678	670	629	609	583
本事業対象生徒数			409	609	583
本事業対象外生徒数			220	0	0

- ・教育プログラム開発ワーキンググループの回数は、小規模なものも含めて32回と当初目標から大幅に増加した。これにより生徒の状況に応じてその都度実施内容を検討し、効果的な学習を進めることができた。

2 教職員の資質向上

(1) 授業改善のための公開授業・研修

ア 公開授業については、全教科で年2回実施した。

授業参観者には以下の7つの視点を提示し、それらの視点を踏まえて授業の感想・アドバイス等を授業参観記録に記入して提出することとしている。

【7つの視点】①安心感のもてる授業

- ②口頭での説明（指示の出し方）の工夫
- ③板書の工夫
- ④集団を意識した取組
- ⑤自己肯定感を持たせる取組
- ⑥言語活動の充実
- ⑦考えさせる取組

イ 年2回、6月と11月に公開授業週間（一週間）を設定し、中学校や保護者に公開している。外部からの6名の参観があった。

ウ 教科の研修としては、芸術科（音楽）において、他校から講師を招き授業を行った。音楽を通しての異文化交流をテーマに実施していただいた。

授業者	島根県立出雲工業高等学校 木村浩太 先生
日時	令和元年10月25日(火) 3,4校時
対象	普通科11R 音楽選択者16名
テーマ	異文化の融合 ～フォルクローレから日本の音楽へ～
指導の流れ	1時間目 異文化との融合①～混血文化の音楽～ 2時間目 異文化との融合②～日本は混血文化か?～
生徒に身につけさせたい資質・能力	我が国や郷土の伝統音楽の理解を土台として、他国の音楽文化の価値やよさを深くとらえる力(「身につけさせたい五つの力」より、「自他尊重の力」、島根県高等学校音楽教育研究会) ・グローバル化する社会の中で、子供たちには、芸術を学ぶことを通じて感性等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。このため、音楽に関する伝統や文化を尊重し、実感的な理解を深めていくことが重要である。(中教審答申281229より)
指導観	今回の授業をとおして、文化のあり方や音楽の捉え方、そして音楽そのものの特徴について生徒にしっかりと考えたり、感じたりしてほしい。そして(普段あまり考えないことを)考えることで新たな気づき(知っていたことの再認識、なんとなく思っていたことの明確化)や発見(知らなかったことを知る)をしてほしい。そのために、興味を持って考えたいような設定や発問、スライドを用意したい。最終的に新たな価値観の創造につながればいい。

授業後の生徒の感想

15年間生で生きて 海外の楽器をいろいろ演奏している
 ところどころはあり、こればかりはものごとだが、その曲の楽器には
 異文化の融合が感じられる。日常的に新しい場所へ行くのは
 文化の直に感じることが多い。新しい場所へ行くのは。
 最後に日本映画。日本の歌を演奏して何か近づいた感じがする。
 エルトンの演奏と、ルーマニアの曲を聴いたことがあった。
 知識背景は知らずとも、感動することが多い。

今日の授業を通じて、今まで知らなかった、興味があったりした
 ところたくさん知ることができました。今まで自分は日本の音楽以外
 ほとんど学んだことがなかったのに、それが、外国の初めて見る
 楽器とか音楽で、自分の文化を知ることができて本当に経験
 ができたと思います。今日の授業を通して、また他の国の
 音楽のことも色々調べ、色々な国の文化に触れていけたら
 いいと思います。たくさんのお話を聞いてとても楽しい
 授業でした、ありがとうございました。

活動③ それぞれの楽器の音の特徴や、楽器の歴史的背景をメモしておこう

音の特徴	・すきとおったかんじ ・スースーしてる ・尺ハの音 ・高い	・リコーダーと少し似ている ・キーボードは低い	・ギターみたいだけど (ギターの音が高い)
背景	先住民の楽器	先住民の楽器	・スペインの人が持ちこんだ複数の楽器 ・もともと銅はペロゾの甲羅が使われている
	・太鼓の音 ・カササギのゴゴロしたかんじの音		
スペインに先住民がもたらした楽器	スペインの楽器		



活動④ (p130を参考に)

自分の意見 ・チャランゴやギターの音色、 ・中ぼんの違いリズム	グループの友だちの意見 → 7月のイメージ (情報が足りないとき)
陽気なところ 切替をすばやくすることで緩急がつく	

活動⑤

<ul style="list-style-type: none"> 日本の歌だけでチャランゴやギターの伴奏があってスペインの曲いきがでている。 サンポニーヤのメロディー → 落ちつくかんじ

(2) 魅力化に関する教職員研修会

校外の各種研修会に参加、県外の先進校調査及び指導者としての見識・技術の向上を図るため教職員研修会を実施

ア 第1回教職員研修会

令和元年 10月1日 (火)

講師 島根大学教職大学院 熊丸 真太郎 准教授

内容 1 高校教育を取り巻く現状の把握

2 本校の課題の共有

3 本校で育てたい生徒像の明確化

- ・6~7人ずつのグループで東高の課題や育てたい生徒像について意見交換
- ・多くの先生が集まって東高の魅力化について一緒に考える貴重な時間となった。



イ 第2回教職員研修会

「プロジェクト伴走者のためのスキルアップセミナー」

令和2年2月21日（金）

企画・コーディネート 島根大学地域未来協創本部 高須佳奈氏

講師 京都大学大学院経済学研究科 平方文哉氏

内容「TOC f E (Theory of constraints for Education) (教育のための制約理論) ブランチ」

公開研修としたため、校外からも高校教育関係者だけでなく、民間企業の方も含め19名の参加があった。約40名の参加者は各グループ3～4名に分かれ、ワークショップ形式で「TOC f E」を体験した。

この思考ツールにより、自身や生徒の思考が整理され、認識や理解の仕方が視覚的に捉えられた。さらに、段階を追って思考を深めていくことができ、教科指導はもちろん、探究的な学習を進めていく上でも、非常に役立つことが分かった。

令和2年2月22日（土）

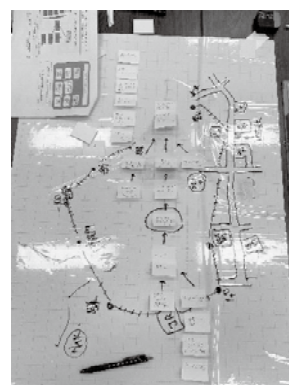
講師 京都大学大学院経済学研究科 平方文哉氏

シャープ株式会社 山田慶太郎氏

株式会社伊原組 竹内信二氏

前日体験した「TOC f E (Theory of constraints for Education) (教育のための制約理論) ブランチ」の次の段階「ATT (Ambitious Target Tree)」を学んだ。

「ATT」とは「できないことをできるに変える」論理的思考を身に付けるための理論であった。この日も校外から15名の参加があった。



(3) 魅力化に関する教員アンケート

1 調査概要

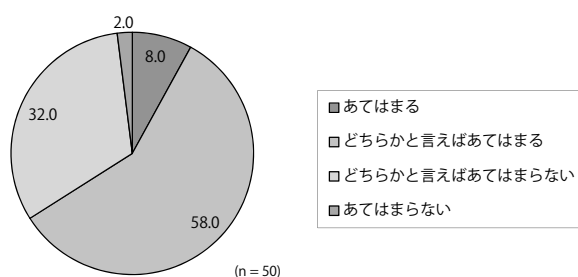
調査期間	第1回 令和元年6月27日(木)～7月5日(金) 第2回 令和2年1月17日(金)～1月24日(金)
調査方法	Google FormによるWEB回答
調査対象	第1回 松江東高校に勤務する教員および常勤講師：49名 第2回 松江東高校に勤務する教職員：53名
回答数/回答率	第1回 45名/91.8% 第2回 50名/94.3%

2. 調査結果

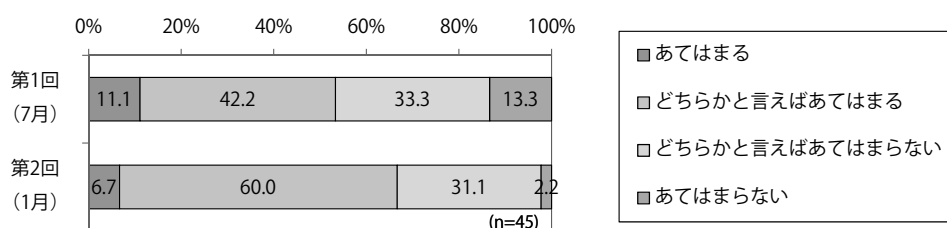
(1) 高校魅力化への理解度

問1. 平成31年2月に島根県が示した「県立高校魅力化ビジョン」の内容を理解している。

・「県立高校魅力化ビジョン」の内容の理解度は約65%で、前回より増加した。

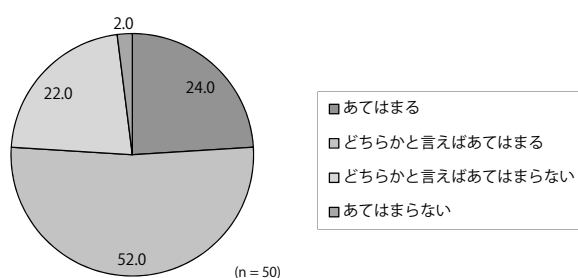


■前回との比較 (事務部の回答を除く)

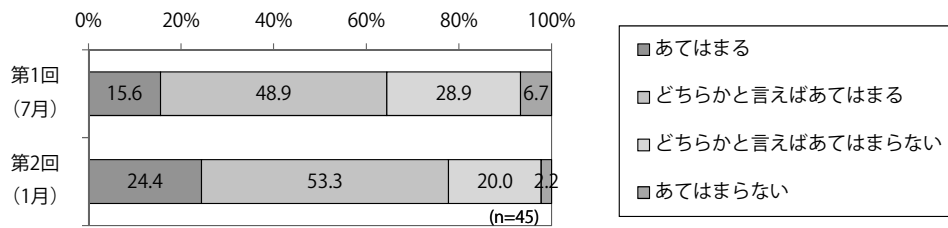


問2. 松江東高校の魅力化・特色化のビジョンを理解している。

・松江東高校の魅力化・特色化のビジョンは約75%が一定程度理解しており、前回より増加した。

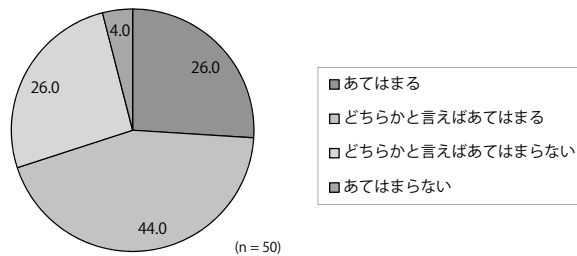


■前回との比較（事務部の回答を除く）

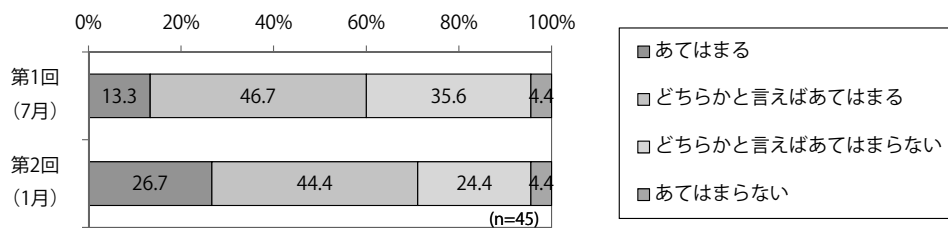


問3. 松江東高校が育成する生徒像として掲げる「地域共創人」の意味を理解している。

- ・「地域共創人」の意味は70%が一定程度理解しており、前回より増加した。

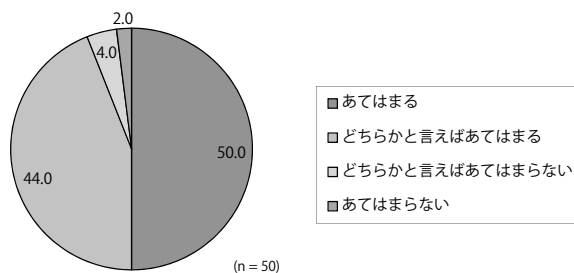


■前回との比較（事務部の回答を除く）

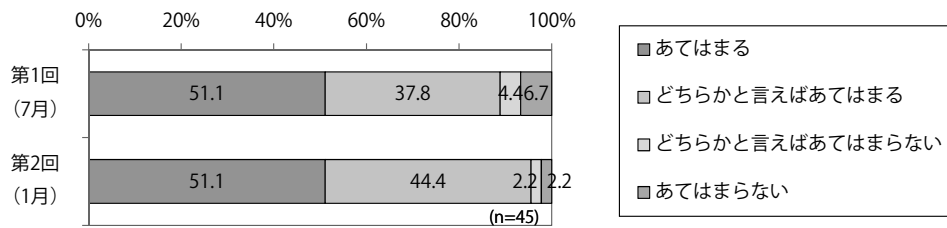


問4. 県内高校の魅力化・特色化の取組みは教科指導も含まれると思う。

- ・約95%が高校魅力化・特色化の取組みは教科指導も含まれると思うと回答しており、前回より増加した。



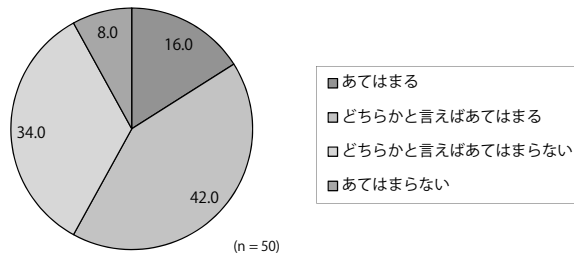
■前回との比較（事務部の回答を除く）



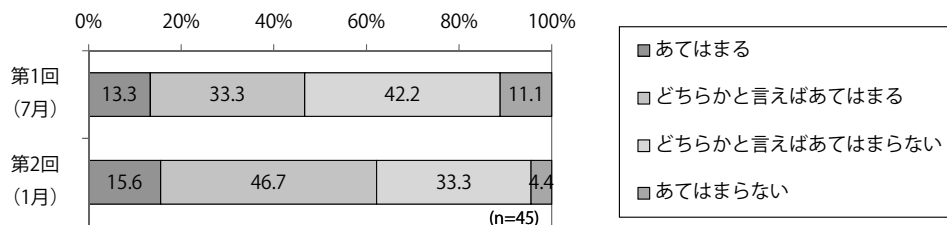
(2) 高校魅力化への取組み状況

問5. 松江東高校の魅力化・特色化のビジョンを意識し、主体的に行動している。

・松江東高校の魅力化・特色化のビジョンを意識し、主体的に行動している教職員の割合は約60%となっており、前回より増加した。

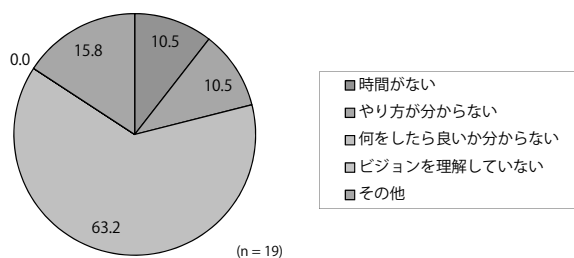


■前回との比較（事務部の回答を除く）

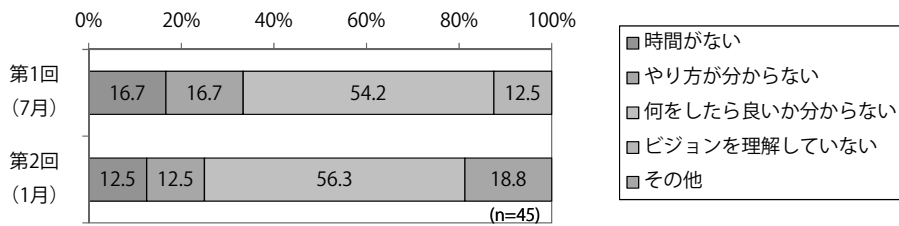


問6. 問5で「どちらかと言えばあてはまらない」または「あてはまらない」と回答した方にお聞きします。行動していない理由は何ですか。

・主体的に行動できていない教員のうち、行動しない理由として「何をしたら良いか分からない」が最も多く、63.2%となっている。



■前回との比較（事務部の回答を除く）

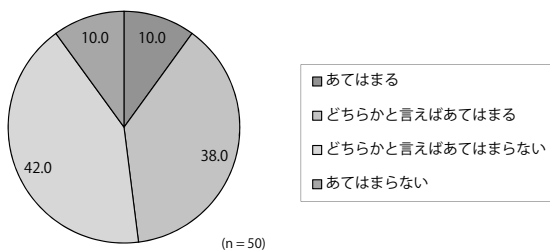


■その他の回答

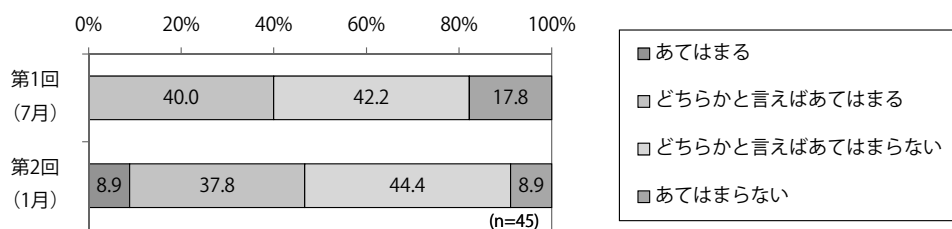
東高校の魅力化・特色化のビジョンを理解していない
必要を感じない
違うやり方の方が良いと考えているから

問7. 松江東高校として学校が一体となって魅力化・特色化に取り組んでいると思う。

<ul style="list-style-type: none"> ・松江東高校として学校が一体となって取り組んでいるか否かは約半数ずつとなった。 ・前回、「あてはまる」は0%だったが、今回は10%となっており、一体感は着実に向上している。

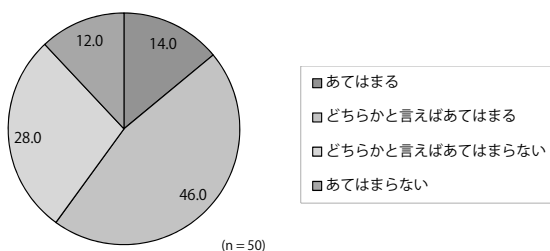


■前回との比較（事務部の回答を除く）

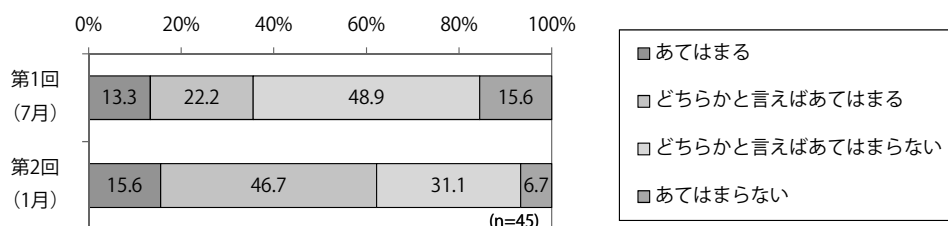


問8. 松江東高校の魅力化・特色化の取り組みの中で、自分が果たすべき役割を理解している。

<ul style="list-style-type: none"> ・松江東高校の魅力化・特色化の取り組みの中で、自分が果たすべき役割を理解している教員は60%となっており、前回より増加している。
--

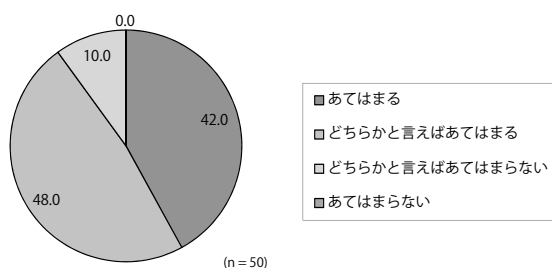


■前回との比較（事務部の回答を除く）

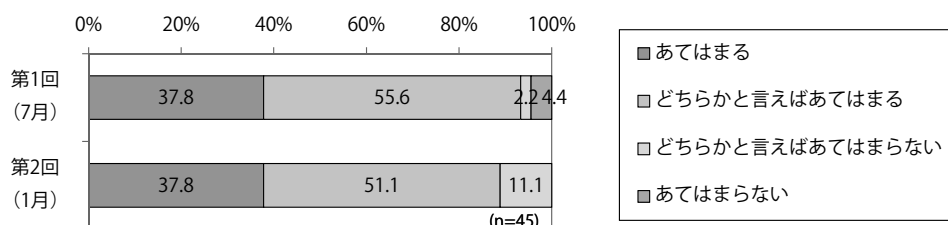


問 9. 松江東高校の魅力化・特色化は今後も進めるべきだと思う。

・松江東高校の魅力化・特色化を今後も進めるべきだと回答した教職員の割合は約 90%を占め、前回とほぼ同様の結果となったが、前回「あてはまらない」が 4.4%だったのに対し、今回は 0%となった。

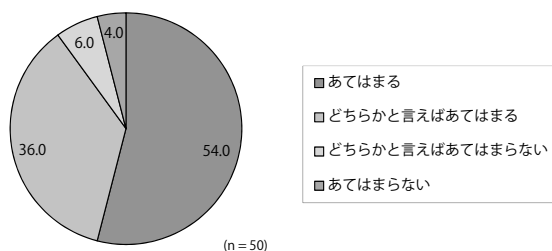


■前回との比較（事務部の回答を除く）

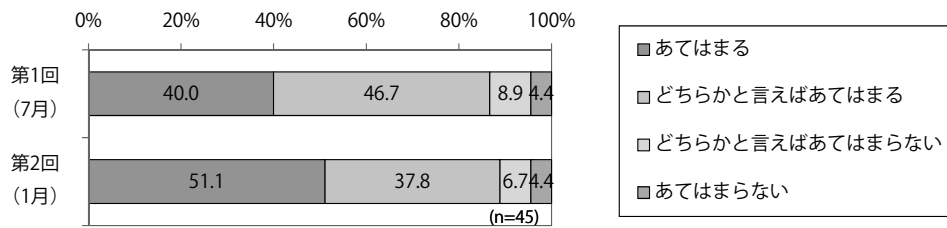


問 10. 地域の課題解決につながる能力を生徒が身に付けることは大切だと思う。

・生徒が地域課題解決の能力を身に付けることについて、約 90%が大切だと思うと回答しており、前回とほぼ同様の結果となった。

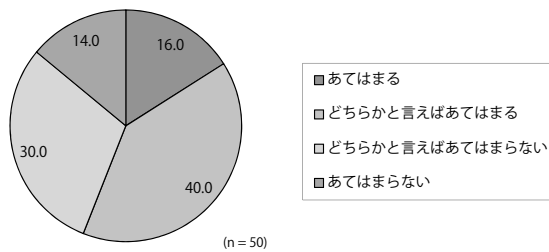


■前回との比較（事務部の回答を除く）

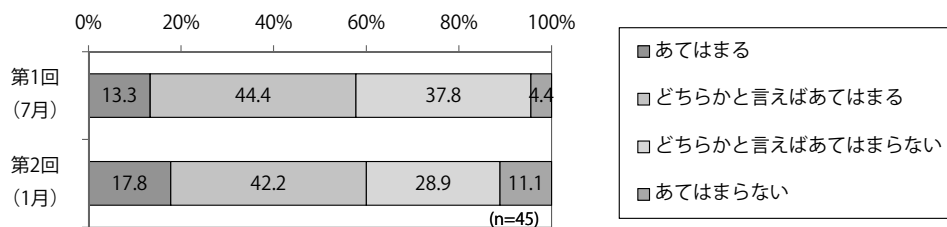


問 11. 生徒の探究的な学びを促す機会を提供できるような手法を日々考え続けている。

・56%の教職員が、生徒の探究的な学びを促す機会を提供できるような手法を日々考え続けていると回答し、前回とほぼ同様の結果となった。

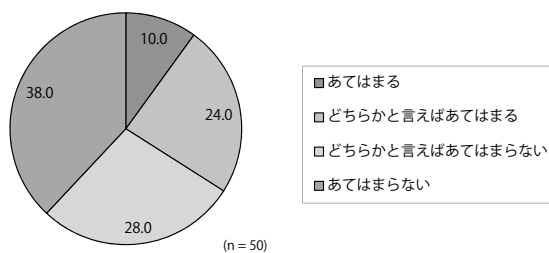


■前回との比較（事務部の回答を除く）

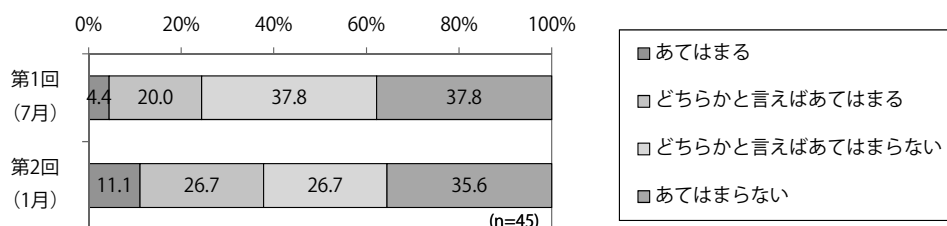


問 12. 高校の周辺地域や自分が居住する地域のイベント等に積極的に参加している。

・高校の周辺地域や自分が居住する地域のイベント等に積極的に参加していると回答した教職員は34%に留まった。



■前回との比較（事務部の回答を除く）



問 13. 本校のより良い魅力化・特色化の取り組みに向けて、ご意見があれば教えてください。

全体像を示す

松江商工会議所にもっと協力してもらおう。

「魅力化」とは誰にとっての魅力化を目指しているのかよく理解していない。

3 持続可能な学校魅力化研究及び今後の課題

(1) 令和3年度以降の持続可能なコンソーシアムの構築について

ア コンソーシアム関係団体のメリットの創出

Win-Win の関係構築に向けた仕組みの試行（HP バナー広告、新人社員研修等）

イ 教職員の異動があっても持続できる校内体制の構築について

コーディネーター雇用の可能性について検証

財源及び人材確保

ウ コンソーシアムマネージャーの役割について

マネージャーの勤務体制、業務内容の整理

(2) 本事業終了後の財源確保

学校関係組織の再編成の可能性検討

PTA、卒業生会、後援会の合併、法人化等

(3) 指導上の課題

・地域との協働による探究的な学びを進めていく上で、今年度生徒は他者から与えられたテーマによって課題解決型学習を実践したが、学習者である生徒自身が「自分事」として主体的に取り組み、その後の学ぶ意欲の向上と発展につながるテーマ設定をできる仕組みをつくる必要がある。

・教職員の意識の中に、地域と協働した探究的な学びの必要性が十分に認識されているとは言い難い状況にあると思われる。事業を進めていく中で徐々に浸透させていく必要がある。

【関係資料】

- ・ コンソーシアム規約
- ・ 教育課程表
- ・ 課題研究テーマ一覧
- ・ 高校魅力化評価システム診断結果チェックシート

松江東高等学校魅力化コンソーシアム 規約

(名称)

第1条 本コンソーシアムの名称は「松江東高等学校魅力化コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）」とする。

(目的)

第2条 コンソーシアムは、松江東高等学校が目標とする未来の地域を担う人材である「地域共創人」の育成と生徒により良い学びを提供するための環境づくりを目指して、企業、自治体、高等教育機関等の地域の多様な関係者と生徒、保護者、教職員、同窓会等の松江東高等学校関係者などが、協働体制を構築することにより、主体的・創造的な対話を行いながら、松江東高等学校の学校教育をより良いものにしていくことを目的とする。

(協働事業)

第3条 コンソーシアムは前条の目的を達成するため、次の協働事業を行う。

- 一 生徒や教職員にとって魅力的な学校づくりに関すること
- 二 社会に開かれた教育プログラムの研究・開発に関すること
- 三 松江東高等学校を応援するサポーターの獲得に関すること
- 四 松江東高等学校の魅力の対外的な情報発信に関すること
- 五 コンソーシアムの持続化のための仕組みづくりに関すること

(組織)

第4条 コンソーシアムは松江東高等学校と別表1に掲げる地域との協働活動に関わる団体等（以下「構成団体等」という。）により組織する。

2 コンソーシアムには、協働事業の方針を審議する役員会と、具体的な協働活動を行うワーキンググループを置く。

3 コンソーシアムには連絡調整を行う事務局を置く。

(役員会)

第5条 役員会の役員は構成団体等が原則1名を推挙し、校長が委嘱する。

2 役員任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員会に次の役職をおく。

- 一 会長 1名
- 二 副会長 1名

4 会長及び副会長は役員互選によりこれを定める。

(会長、副会長の職務)

第6条 会長は、会務を総理し、コンソーシアム及び役員会を代表する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故等があるときは、その職務を代理する。

3 会長は事務局員より事務局長を選任する。

(役員会の運営)

第7条 役員会は、会長が校長と協議の上、招集する。ただし、緊急を要する場合においては、この限りでない。

- 2 役員会は原則年3回開催する。
- 3 役員会の議長は会長をもって充てる。
- 4 役員会は、役員半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 5 役員は自己の利害に係る議事に参与することができない。
- 6 役員会の議事は、出席役員過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

(役員会の承認等)

第8条 会長は、第3条に掲げる協働事業について、役員会の承認を得るものとする。

2 役員会は、各ワーキンググループでの活動や決定事項について共有・振り返り・熟議することで、地域共創人の育成に向けたよりよい取組の推進のための連絡・調整・支援を行う。

(ワーキンググループ)

第9条 ワーキンググループはコンソーシアムの協働活動の場とする。

- 2 各ワーキンググループにおいて、グループリーダーを置く。
- 3 各ワーキンググループの事業方針は役員会において決定し、校長と協議のうえ実施する。
- 4 ワーキンググループを新たに立ち上げる場合は、役員会で決定する。

(事務局)

第10条 松江東高等学校に事務局を置き、コンソーシアムに関する事務を処理する。

(規約の変更等)

第11条 この規約は、役員会の議事を経なければ変更することはできない。

2 この規約に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に関し必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。

別表1 (第4条関係)

団体名等	
島根県立松江東高等学校	松江市
松江東高等学校PTA	松江市教育委員会
松江東高等学校東雲会	松江商工会議所
松江東高等学校嵩の嶺会	島根県中小企業家同友会
国立大学法人島根大学	島根県教育委員会

付則 この規約は、令和元年12月4日より施行する。

島根県立松江東高等学校教育課程表（平成31(令和元)年度入学生）

課程	学 科	類型の名称
全 日 制	普 通 科	

教科	科 目	標準 単位数	学 年 別 単 位 数					備 考		
			1 年	2 年 文系	2 年 理系	3 年 文系	3 年 理系		単位数計	
国語	国語総合	4	5					5		
	現代文B	4		2	2	3	2	4~5		
	古典B	4		3	3	3	2	5~6		
	現代文A	2				72		0~2		
地理歴史	世界史A	2						0~2	※1	
	世界史B	4						0~7		
	日本史A	2		2	2			0~2		
	日本史B	4		3	2	4	4	0~7		
	地理A	2						0~2		
	地理B	4						0~7		
	世界史探究	学校設定科目						73		0~3
日本史探究	学校設定科目						73	0~3		
公民	現代社会	2	2					2		
	公民探究A	学校設定科目						73	0~3	
	公民探究B	学校設定科目						73	0~3	
数学	数学Ⅰ	3	3					3	1年次の数学Ⅱ1単位は数学Ⅰの履修終了後に履修する 2年次理系の数学Ⅲ1単位は数学Ⅱの履修終了後に履修する	
	数学Ⅱ	4	1	3	3			4		
	数学Ⅲ	5			1		5	0~6		
	数学A	2	2					2		
	数学B	2		3	2			2~3		
	数学探究A	学校設定科目					3	0~3		
	数学探究B	学校設定科目					43	0~3		
数学探究C	学校設定科目						2	0~2		
理科	物理基礎	2	2					2	※2	
	物理	4						0~6		
	化学基礎	2		2	2			2		
	化学	4		2	2		4	4		0~6
	生物基礎	2	2					2		
	生物	4						0~6		
	化学探究	学校設定科目					72	0~2		
生物探究	学校設定科目					2	0~2			
保健体育	体育	7~8	3	2	2		2	7		
	保健	2	1	1	1			2		
芸術	音楽Ⅰ	2						0~2	各科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては、Ⅰの履修終了後にⅡを履修し、Ⅱの履修終了後にⅢを履修する。	
	美術Ⅰ	2	2					0~2		
	書道Ⅰ	2						0~2		
	書道Ⅱ	2		72				0~2		
外国語	書道Ⅲ	2					72	0~2		
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3					3		
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4	3			3~4		
	コミュニケーション英語Ⅲ	4				4	4	4		
	英語表現Ⅰ	2	3					3		
	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	2	4		
EAST国際交流基礎	学校設定科目			72				0~2		
EAST国際交流	学校設定科目					43		0~3		
家庭情報	家庭基礎	2	2					2		
社会と情報	2		2	2				2		
共通教科・科目単位数計			31	29~31	31	26~31	31	86~93		
家庭	子どもの発達と保育	2~6				72		0~2		
	服飾手芸	2~4		72				0~2		
	アート・テクノロジー	2~6		72				0~2		
音楽	音楽理論	2~15				72		0~2		
	演奏研究	2~6		72				0~2		
	ソルフェージュ	2~6				73		0~3		
美術	素描	2~18				72		0~2		
	構成	2~6		72				0~2		
	ビジュアルデザイン	2~18				73		0~3		
EAST地域探究	EAST地域探究	学校設定科目				72		0~2		
	データサイエンス	学校設定科目		72				0~2		
	EASTプログラミング基礎	学校設定科目				72		0~2		
専門教科・科目単位数計			0	0~2	0	0~5	0	0~7		
総合的な探究の時間			3~6	1	1	1	1	3		
ホームルーム活動週当たり時数			1	1	1	1	1	3		
単位数及び週当たり時数の合計			33	33	33	33	33	99		
学校設定科目単位数計			0	0	0	5~13	2	2~13		

※1 「世界史A」または「世界史B」を必ず選択すること
 「世界史A」を履修するものは「日本史B」または「地理B」を履修し、「世界史B」を履修するものは「日本史A」または「地理A」を履修する。
 「世界史B」「日本史B」「地理B」については、2~3年次の継続履修とする
 3年次のアの地歴科目の選択については、「日本史B」または「地理B」を履修するものは「世界史探究」を履修し、「世界史B」を履修するものは「日本史探究」を履修する。

※2 2年理系は、「化学基礎」の履修後に「化学」を履修する
 理系の「生物」「物理」については、2~3年次の継続履修とする

※3 2年文系は、アの中から1つ選択すること

※4 3年文系は、アの中から1つ、イの中から1つ、ウの中から1つ選択すること

高根県立松江東高等学校教育課程表（平成30年度入学生）

課程	学 科	類型の名称
全 日 制	普 通 科	

教科	科 目	標準 単位数	学 年 別 単 位 数					備 考		
			1 年	2 年	3 年	単位数計				
				文系	理系	文系	理系			
国語	国語総合	4	5					5		
	現代文B	4		2	2	3	2	4~5		
	古典B	4		3	3	3	2	5~6		
	現代文A	2				2		0~2		
地理歴史	世界史A	2						0~2	※1	
	世界史B	4						0~8		
	日本史A	2		2	2			0~2		
	日本史B	4		3	2	5	4	0~8		
	地理A	2						0~2		
	地理B	4						0~8		
	世界史探究 <small>学校設定科目</small>						73	0~3		
日本史探究 <small>学校設定科目</small>						73	0~3			
公民	現代社会	2	2					2		
	公民探究A <small>学校設定科目</small>						73	0~3		
	公民探究B <small>学校設定科目</small>						73	0~3		
数学	数学Ⅰ	3	3					3	1年次の数学Ⅱ1単位は数学Ⅰの履修終了後に履修する 2年次理系の数学Ⅲ1単位は数学Ⅱの履修終了後に履修する	
	数学Ⅱ	4	1	3	3			4		
	数学Ⅲ	5			1		5	0~6		
	数学A	2	2					2		
	数学B	2		3	2			2		
	数学探究A <small>学校設定科目</small>						3	0~3		
	数学探究B <small>学校設定科目</small>						12	0~2		
数学探究C <small>学校設定科目</small>							2	0~2		
理科	物理基礎	2	2					2	※2	
	物理	4						0~6		
	化学基礎	2		2	2			2		
	化学	4		2	2		4	4		0~6
	生物基礎	2	2					2		
	生物	4						0~6		
	化学探究 <small>学校設定科目</small>						72	0~2		
生物探究 <small>学校設定科目</small>						2	0~2			
保健体育	体育	7~8	3	2	2		2	7		
	保健	2	1	1	1			2		
芸術	音楽Ⅰ	2						0~2	各科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては、Ⅰの履修終了後にⅡを履修し、Ⅱの履修終了後にⅢを履修する。 ※3	
	美術Ⅰ	2	2					0~2		
	書道Ⅰ	2						0~2		
	書道Ⅱ	2		72			72	0~2		
	書道Ⅲ	2					72	0~2		
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3					3		
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4	3			3~4		
	コミュニケーション英語Ⅲ	4					4	4	4	
	英語表現Ⅰ	2	3					3		
	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	2	4		
	英語会話	2					12		0~2	
家庭	家庭基礎	2	2					2		
情報	社会と情報	2		2	2			2		
共通教科・科目単位数計			31	29~31	31	26~31	31	86~93		
家庭	子どもの発達と保育	2~6					72	0~2		
	服飾手芸	2~4		72				0~2		
	フット・テニス・イン	2~6		72				0~2		
音楽	音楽理論	2~15					72	0~2		
	演奏研究	2~6		72				0~2		
	ソルフェージュ	2~6					73	0~3		
美術	素描	2~18					72	0~2		
	構成	2~6		72				0~2		
	ビジュアルデザイン	2~18					73	0~3		
専門教科・科目単位数計			0	0~2	0	0~5	0	0~7		
総合的な学習の時間			3~6	1	1	1	1	3		
ホームルーム活動週当たり時数			1	1	1	1	1	3		
単位数及び週当たり時数の合計			33	33	33	33	33	99		
学校設定科目単位数計			0	0	0	5~12	2	2~12		

- ※1 「世界史A」または「世界史B」を必ず選択すること
「世界史B」「日本史B」「地理B」については、2~3年次の継続履修とする
3年次のアの地理科目の選択については、「日本史B」または「地理B」を履修するものは「世界史探究」を履修し、「世界史B」を履修するものは「日本史探究」を履修する。
- ※2 2年理系は、「化学基礎」の履修後に「化学」を履修する
理系の「生物」「物理」については、2~3年次の継続履修とする
- ※3 3年文系の書道Ⅱ・Ⅲの選択履修については、2年次に書道Ⅱを履修した者は書道Ⅲを履修し、2年次に書道Ⅱを履修していない者は、書道Ⅱを履修する。
- ※4 2年文系は、アの中から1つ選択すること
- ※5 3年文系は、アの中から1つ、イの中から1つ、ウの中から1つ選択すること

1年生総合的な探究の時間「MATSUE探究」			
テーマ「ビジネスプラン発表会」			
対象企業・松江市部局等一覧			
1 1 R		1 4 R	
1班	みしまやA	1班	みしまやC
2班	みしまやA	2班	みしまやC
3班	豊洋	3班	みしまやC
4班	Willさんいん	4班	みしまやC
5班	松江市政策部	5班	なかがわ法律事務所
6班	松江市健康部	6班	アサヒ工業
7班	めがねの三城	7班	松江市環境保全部
8班	めがねの三城	8班	松江市観光振興部
1 2 R		1 5 R	
1班	みしまやB	1班	みしまやA
2班	豊洋	2班	みしまやA
3班	AUショップ	3班	みしまやC
4班	AUショップ	4班	Willさんいん
5班	松江市政策部	5班	松江市政策部
6班	めがねの三城	6班	松江市福祉部
7班	松江市防災安全部	7班	伸興サンライズ
8班	松江市歴史まちづくり部	8班	松江市教育委員会
1 3 R			
1班	みしまやB		
2班	みしまやB		
3班	みしまやB		
4班	みしまやB		
5班	みしまやB		
6班	AUショップ		
7班	松江市政策部		
8班	松江市子育て部		

2年生総合的な学習の時間「MATSUE探究」

テーマ「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには」キャッチコピー一覧

2 1 R		2 4 R	
班	タイトル	班	タイトル
1 班	このおかしいとおかし	2 8 班	幻の漬け物
2 班	玉造ブランド 勾玉の誕生	2 9 班	伝統食、出雲そば！～日本一のそばへ～
3 班	ご縁の国島根 縁が見つかる八重垣神社	3 0 班	"隠された美" ～神々しか知らない茶処・松江～
4 班	世界初！インスタポート！！	3 1 班	さあ、おいでよ！スーツを脱いで
5 班	美肌温泉で若返りませんか？！	3 2 班	～僕（牡蠣）を横に添えて～
6 班	仁多米の知名度を上げる！！	3 3 班	八雲塗り体験
7 班	島根のおいしさをそのまま 味わってみませんか？	3 4 班	Show your power ～松江を一つに～
8 班	両参りで運氣UP！！～美保と出雲の縁結び～	3 5 班	暮らしにとけこむ優しい器
9 班	大根島で体も心もさわやかで元気に！	3 6 班	あご、拾いましょうか？
2 2 R		2 5 R	
1 0 班	一度は行ってみたい水の都の絶景ツアー	3 7 班	# 来待石
1 1 班	花薫るはちみつ	3 8 班	百葉繚乱～種々の和菓子が咲き乱れ～
1 2 班	知られざる日本の面影	3 9 班	人口2%をもっと健康に
1 3 班	Wing wall in フォーゲルパーク	4 0 班	The style of the champion
1 4 班	繋ごう！ホーランエンヤ	4 1 班	お前ら和紙みたことあんの？
1 5 班	神社声援で神社エール	4 2 班	Do you know menou？
1 6 班	進め！松江をめぐる堀川遊覧船	2 6 R	
1 7 班	闇夜…小泉八雲が再話した 「怪談」ゆかりの地を訪ねて	4 3 班	どじょまんの上京物語 ～みんなでどじょらない？～
1 8 班	Oitea	4 4 班	～出雲国造の神祖 降臨の地～
2 3 R		4 5 班	どうしたら買ってくれますか？和菓子……
1 9 班	不味くないよ、不味公	4 6 班	心も身体もキレイになる 島根の玉造温泉へようこそ！
2 0 班	煌めけおだし！しじみラーメン！	4 7 班	有機茶を飲んで健康に！
2 1 班	You can tell by eating Izumo Soba	4 8 班	小泉八雲ゴーストツアー
2 2 班	地元島根で愛される玉造温泉を皆さまに		
2 3 班	これであなたも「お姫様！？」 ～温泉の潤いをその肌に～		
2 4 班	安心の最高峰～世界が認めた干し柿～		
2 5 班	湯の町が生んだ焼き物		
2 6 班	インスタ映えな和菓子		
2 7 班	ブラックパールを手に入れた！HP 443 up		

★総括表

「高校魅力化評価システム_v2.0」

診断結果チャートシート

高校名 鳥根県立松江東高等学校

類型 鳥根県 (R1対象校)

年度 2019年度
(5数員 27)

N数 全校 582 ss 1年生 176 ss 2年生 211 ss 3年生 195 ss 大人 34 ss

【チャートシートの基本的な読み取り方】 このチャートシートでは、以下の5側面、4領域、3軸から、今後のカリキュラム設計等に活かすことを意図しています。

○ 5つの側面を：各校の（地域を含めた）学習環境や生徒の意識等を「1. 学習活動の機会」「2. 地域の学習環境」「3. 生徒の自己能力認識」「4. 生徒の行動実績」「5. 満足度」の5つの側面に分類し、各側面に5つの側面から把握していただきます。

○ 4つの領域から：5つの側面について、各側面での集計に加え、各側面を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの領域に区分し、各領域ごとの結果（構成する設問の結果の単純平均）も示しています。

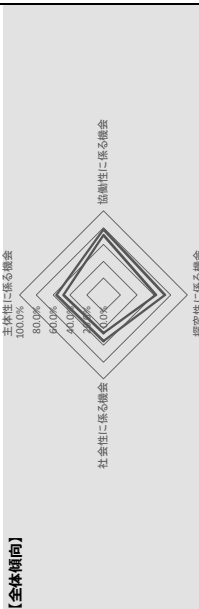
○ 3つの軸で：上記のデータを「時間軸（過年度からの伸び）」、「学年軸（各学年による違い）」、「地域軸（他地域との比較）」の3つの軸で整理しており、これらの結果から各校・各地域の特徴（強み・弱み、伸びている点やその要因等）を読み取り、今後のカリキュラム設計等に活かしていただくことを意図しています。

○ なお、それぞれの結果は基本的に、【割合(%)】（各項目で「4. あてはまる」の割合）、「平均(%)」（比較対象間の割合の差）、「割合の差(pt)」（比較対象間の割合の差）、「平均(pt)」（比較対象間の割合の差）を用いて整理しています。

1 生徒の学習活動の機会

○ 授業、総合的な探究、学校設定科目等における学習活動の機会の頻度

○ なお、高校1年生は中学校時代の学習活動の機会を回答

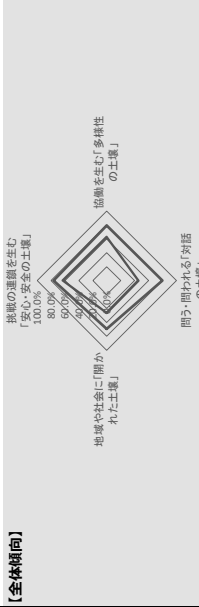


分類	特徴	割合	設問
昨年年度に比べて	上昇	-	-
	低下	-	-
1年生	高い	94.3%	グループで協力しながら学習や調べものを行う
	低い	36.9%	学校外のいる人から話を聞きに行く
2・3年生	高い	90.4%	グループで協力しながら学習や調べものを行う
	低い	39.2%	学校外のいる人から話を聞きに行く
他地域に比べて	高い	16.1pt	自分の考えを文章や図表にまとめる
	低い	3.6pt	活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う

2 地域の学習環境

○ 学校や地域社会の学習環境として雰囲気、存在、機会の高さを把握

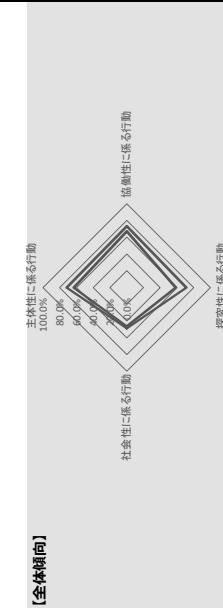
○ 生徒による認識の高さ、地域の大人たちの自己認識の差（スレ）の大きい項目を表記



分類	差	割合	設問
最大差	生徒高	46.8pt	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある
	大人高	8.4pt	人と通うことが尊重される雰囲気がある
生徒	高い	87.3%	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある
	低い	62.0%	地域に、尊敬している大人がいる
大人	高い	76.5%	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある
	低い	38.2%	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある
他地域に比べて	高い	10.8pt	自分の暮らしや地域、外からの視点で考える機会がある
	低い	-3.2pt	地域から大切にされている雰囲気を感じる

4 生徒の行動実績

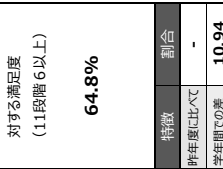
○ ここ最近（1ヶ月以内）の行動経験の頻度



分類	特徴	割合	設問
昨年年度に比べて	上昇	-	-
	低下	-	-
1年生	高い	84.1%	授業で分からないことを、自分から質問したり、分ける人に聞いた
	低い	35.8%	地域社会などでボランティア活動に参加した
2・3年生	高い	78.6%	授業で分からないことを、自分から質問したり、分ける人に聞いた
	低い	38.9%	地域社会などでボランティア活動に参加した
他地域に比べて	高い	14.4pt	授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした
	低い	0.7pt	先生、保護者以外の地域の大人と、なげない会話を交わした

5 満足度

○ 今の生活全般に対する満足度（11段階6以上）



特徴	割合
昨年年度に比べて	-
学年間での差	10.94
他地域に比べて	2.82

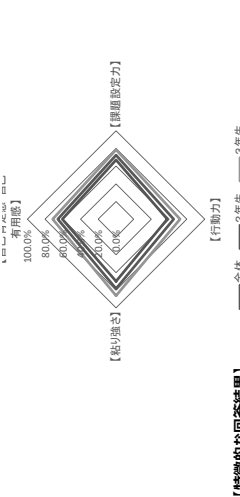
○ 本校へ入って良かったと思う

特徴	割合
昨年年度に比べて	-
学年間での差	7.40
他地域に比べて	-0.86

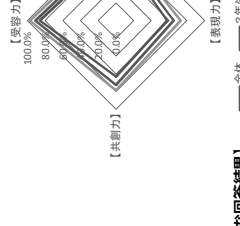
3 生徒の自己能力認識

○ 学びの結果としての生徒の自己認識を表示。レーダーチャートでは全体傾向を、特徴的な回答結果には、「学年による差」、「昨年による差」、「他地域との差」において特徴的な傾向がみられた回答を表示。

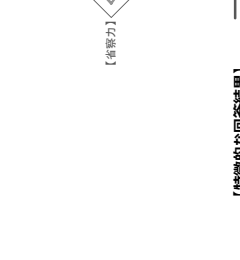
主体性 自ら課題を設定し、意志をもって（粘り強く）挑戦・行動する姿勢



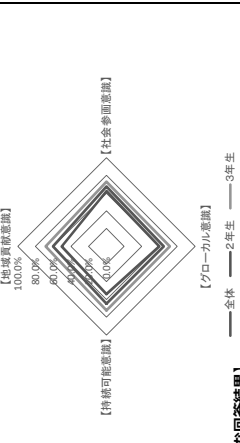
協働性 多様な人と協働し、新たな価値の創造に向かう姿勢



探究性 未来（よびよい人生と社会）づくりに向け、さらに学び・成長しようとする姿勢



社会性 地域や社会の課題を自分事としてとらえ、積極的に貢献しようとする姿勢



分類	特徴	差(pt)	設問
昨年年度に比べて	増加	-	-
	減少	-	-
学年に比べて	差が大	21.03	忍耐強く物事に取組むことができる
	差が小	8.46	私は、自分自身に満足している
他地域に比べて	高い	9.88	私は、自分自身に満足している
	低い	3.73	忍耐強く物事に取組むことができる

分類	特徴	ポイント	設問
昨年年度に比べて	増加	-	-
	減少	-	-
学年に比べて	差が大	16.02	自分の考えをしっかりと相手に伝えることができる
	差が小	11.14	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる
他地域に比べて	高い	7.32	友達の前で自分の意見を発表することができる
	低い	0.67	相手の意見を丁寧に聞くことができる

分類	特徴	ポイント	設問
昨年年度に比べて	増加	-	-
	減少	-	-
学年に比べて	差が大	21.25	複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ
	差が小	8.56	地域を対象としたPBLに熱心に取り組んでいる
他地域に比べて	高い	11.30	地域を対象としたPBLに熱心に取り組んでいる
	低い	-0.40	学習を通じて、自分がしたいことが増えている

分類	特徴	ポイント	設問
昨年年度に比べて	増加	-	-
	減少	-	-
学年に比べて	差が大	23.30	将来、自分の住んでいる地域で働きたいと思う
	差が小	3.00	将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい
他地域に比べて	高い	10.67	私が関わることで、社会状況が変えられると思う
	低い	0.96	自分の将来について明るい希望を持っている

1. 生徒の学習活動の機会

	全校				1年生 (2019入学生)				2年生 (2018入学生)				3年生 (2017入学生)			
	全体 割合 (%)	昨年 差 (pt)	学年間 差 (pt)	他地域との 差 (pt)	全体 平均	18入学生 割合 (%)	17入学生 差 (pt)	学年 平均値	学年 割合 (%)	1年次 差 (pt)	学年 平均値	学年 割合 (%)	1年次 差 (pt)	学年 平均値	学年 割合 (%)	
主体性に係る機会	55.9%	-	5.26	8.08	2.59	52.6%	-	2.58	57.8%	-	2.61	53.8%	-	2.56	2.56	
自主的に調べものや取材を行う	72.7%	-	8.12	12.28	2.86	68.2%	-	2.84	76.3%	-	2.90	68.7%	-	2.82	2.82	
学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	39.2%	-	2.40	3.88	2.32	36.9%	-	2.32	39.3%	-	2.33	39.0%	-	2.31	2.31	
協働性に係る機会	78.0%	-	5.37	6.89	3.07	80.9%	-	3.18	78.0%	-	3.06	77.9%	-	3.08	3.08	
グループで協力しながら学習や調べものを行う	90.4%	-	6.63	11.05	3.30	94.3%	-	3.47	92.9%	-	3.36	87.7%	-	3.24	3.24	
活動、学習内容について生徒同士で話し合う	89.7%	-	2.76	6.02	3.35	91.5%	-	3.43	90.5%	-	3.32	88.7%	-	3.38	3.38	
活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	53.9%	-	6.72	3.60	2.56	56.8%	-	2.65	50.7%	-	2.49	57.4%	-	2.63	2.63	
探究性に係る機会	73.2%	-	9.94	10.66	2.93	79.1%	-	3.06	75.4%	-	2.95	70.9%	-	2.91	2.91	
自分の考えを文章や図表にまとめる	71.4%	-	3.09	16.13	2.87	73.9%	-	2.93	72.0%	-	2.87	70.8%	-	2.88	2.88	
話し合った内容をまとめる	76.8%	-	9.11	7.73	3.01	83.0%	-	3.15	79.6%	-	3.06	73.8%	-	2.96	2.96	
活動、学習のまとめを発表する	73.4%	-	14.93	8.62	2.96	77.8%	-	3.05	80.6%	-	3.09	65.6%	-	2.83	2.83	
生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	71.2%	-	12.62	10.15	2.88	81.8%	-	3.10	69.2%	-	2.81	73.3%	-	2.95	2.95	
社会性に係る機会	55.0%	-	11.25	9.58	2.57	51.7%	-	2.56	57.2%	-	2.58	52.6%	-	2.57	2.57	
地域の魅力や資源について考える	58.4%	-	13.65	10.13	2.64	56.3%	-	2.66	64.9%	-	2.72	51.3%	-	2.55	2.55	
地域の課題の解決方法について考える	57.4%	-	12.27	6.49	2.62	48.9%	-	2.50	61.1%	-	2.64	53.3%	-	2.59	2.59	
日本や世界の課題の解決方法について考える	49.3%	-	7.84	12.12	2.46	50.0%	-	2.51	45.5%	-	2.36	53.3%	-	2.56	2.56	

2. 地域の学習環境

	生徒の認識 (A)				大人の認識 (B)				大人の自己評価 (C)				生徒と大人の認識の差 (A-B)			
	全体 割合 (%)	昨年 差 (pt)	他地域との差		全体 割合 (%)	昨年 差 (pt)	うち教員		全体 割合 (%)	昨年 差 (pt)	全体		今年度 差 (pt)	昨年度 差 (pt)	差の变化 変化量 (pt)	
			平均	最大			割合 (%)	平均値			割合 (%)	平均値				
挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」	76.5%	3.48	3.02	3.02	61.5%	-	2.65	78.2%	75.6%	-	2.95	16.5pt	-	-	-	-
失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	80.2%	3.33	3.06	3.06	59.3%	-	2.47	73.5%	70.4%	-	2.85	24.4pt	-	-	-	-
挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	87.3%	-1.37	3.28	3.28	77.8%	-	2.88	97.1%	100.0%	-	3.32	10.8pt	-	-	-	-
目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	80.1%	4.00	3.07	3.07	61.8%	-	2.59	88.2%	85.2%	-	3.09	18.3pt	-	-	-	-
地域に、尊敬している、憧れている大人がいる	62.0%	8.24	2.75	2.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	63.4%	6.18	2.76	2.76	44.4%	-	2.50	47.1%	37.0%	-	2.44	13.4pt	-	-	-	-
自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	86.3%	0.48	3.22	3.22	66.7%	-	2.82	85.3%	85.2%	-	3.06	15.7pt	-	-	-	-
協働を生む「多様性の土壌」	79.0%	3.67	3.07	3.07	61.1%	-	2.71	86.8%	88.9%	-	3.09	16.5pt	-	-	-	-
人と違うことが尊重される雰囲気がある	79.0%	3.49	3.06	3.06	70.4%	-	2.82	94.1%	100.0%	-	3.24	8.4pt	-	-	-	-
ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	80.9%	1.47	3.11	3.11	70.6%	-	2.85	91.2%	100.0%	-	3.12	10.3pt	-	-	-	-
自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	82.6%	3.34	3.17	3.17	55.9%	-	2.59	82.4%	81.5%	-	2.97	26.8pt	-	-	-	-
立場や役割を超えて協働する機会がある	73.5%	6.41	2.96	2.96	52.9%	-	2.59	79.4%	74.1%	-	3.03	20.6pt	-	-	-	-
問う・問われる「対話の土壌」	79.9%	2.70	3.12	3.12	45.6%	-	2.47	56.6%	57.4%	-	2.59	34.4pt	-	-	-	-
本音を兼ねねなく発言できる雰囲気がある	85.1%	2.63	3.24	3.24	38.2%	-	2.29	50.0%	44.4%	-	2.59	46.8pt	-	-	-	-
将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	78.0%	2.15	3.11	3.11	44.1%	-	2.44	38.2%	29.6%	-	2.24	33.9pt	-	-	-	-
周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けしてくれる	84.0%	1.18	3.17	3.17	58.8%	-	2.74	76.5%	88.9%	-	2.85	25.2pt	-	-	-	-
お互いに問いかけあう機会がある	72.7%	4.85	2.96	2.96	41.2%	-	2.41	61.8%	66.7%	-	2.68	31.5pt	-	-	-	-
地域や社会に「開かれた土壌」	69.3%	3.82	2.85	2.85	46.3%	-	2.46	59.6%	58.3%	-	2.66	23.0pt	-	-	-	-
地域から大切にされている雰囲気を感じる	76.6%	-3.21	3.00	3.00	52.9%	-	2.56	73.5%	70.4%	-	2.91	23.7pt	-	-	-	-
興味を持ったことに对してすぐに希望をしてくれる大人がいる	71.6%	3.00	2.91	2.91	47.1%	-	2.47	55.9%	63.0%	-	2.56	24.6pt	-	-	-	-
地域の人や課題などに関わり触れる機会がある	66.8%	4.72	2.81	2.81	44.1%	-	2.38	55.9%	51.9%	-	2.59	22.7pt	-	-	-	-
自分の置らず地域を、外からの視点で考える機会がある	62.2%	10.78	2.70	2.70	41.2%	-	2.41	52.9%	48.1%	-	2.59	21.0pt	-	-	-	-

3. 生徒の自己能力認識

	全校										1 年生 (2019入学生)					2 年生 (2018入学生)					3 年生 (2017入学生)								
	全体			学年間の差			他地域との差			18入学生比		17入学生比		学年		割合 (%)		割合 (%)		学年		割合 (%)		割合 (%)		学年		割合 (%)	
	割合 (%)	差 (pt)	平均	最大差 (pt)	差 (pt)	平均	差 (pt)	平均	平均	差 (pt)	差 (pt)	学年	割合 (%)	差 (pt)	差 (pt)	学年	割合 (%)	差 (pt)	差 (pt)	学年	割合 (%)	差 (pt)	差 (pt)	学年	割合 (%)	差 (pt)	差 (pt)	学年	割合 (%)
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	70.3%	-	2.90	13.19	6.13	2.94	70.5%	2.94	2.94	-	-	2.94	63.9%	2.94	2.94	2.94	77.1%	2.94	2.94	2.94	78.5%	2.77	2.77	2.77	78.5%	2.77	2.77	2.77	77.1%
主観性 【自己肯定感・自己有効感】 自分によくいるところがあると思う	70.3%	-	2.90	13.19	6.13	2.94	70.5%	2.94	2.94	-	-	2.94	63.9%	2.94	2.94	2.94	77.1%	2.94	2.94	2.94	78.5%	2.77	2.77	2.77	78.5%	2.77	2.77	2.77	77.1%
私は、自分自身に満足している	73.7%	-	2.97	12.78	4.94	2.97	72.2%	2.97	2.97	-	-	2.97	68.2%	2.97	2.97	2.97	81.0%	2.81	2.81	2.81	81.0%	2.49	2.49	2.49	61.5%	2.49	2.49	2.49	2.68
【課題設定力】 現状分析し、自らの課題を明らかにすることができる	72.3%	-	2.94	11.64	7.11	2.94	72.2%	2.94	2.94	-	-	2.94	72.2%	2.94	2.94	2.94	66.8%	2.97	2.97	2.97	66.8%	2.97	2.97	2.97	78.5%	2.77	2.77	2.77	3.08
【行動力】 目標を設定し、確実に行動することができる	65.0%	-	2.82	14.25	4.86	2.82	65.3%	2.82	2.82	-	-	2.82	65.3%	2.82	2.82	2.82	58.1%	2.85	2.85	2.85	58.1%	2.67	2.67	2.67	72.3%	2.67	2.67	2.67	2.95
自分で計画を立てて活動することができる	64.1%	-	2.82	19.86	5.41	2.82	64.2%	2.82	2.82	-	-	2.82	64.2%	2.82	2.82	2.82	54.5%	2.86	2.86	2.86	54.5%	2.61	2.61	2.61	74.4%	2.61	2.61	2.61	3.00
【粘り強さ】 うまくいく分がわからないことにも意欲的に取り組む	78.4%	-	3.05	16.25	5.15	3.05	79.8%	3.05	3.05	-	-	3.05	79.8%	3.11	3.11	3.11	77.3%	3.16	3.16	3.16	77.3%	2.99	2.99	2.99	86.2%	2.99	2.99	2.99	3.17
忍耐強く物事に取り組むことができる	73.9%	-	3.00	21.03	3.73	3.00	76.7%	3.00	3.00	-	-	3.00	76.7%	3.06	3.06	3.06	62.6%	3.06	3.06	3.06	62.6%	2.79	2.79	2.79	83.6%	2.79	2.79	2.79	3.15
協調性 【寛容力】 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	91.1%	-	3.38	11.14	1.53	3.38	90.9%	3.38	3.38	-	-	3.38	90.9%	3.42	3.42	3.42	85.8%	3.42	3.42	3.42	85.8%	3.24	3.24	3.24	96.9%	3.24	3.24	3.24	3.49
相手の意見を丁寧に聞くことができる	86.3%	-	3.33	11.23	0.67	3.33	86.9%	3.33	3.33	-	-	3.33	86.9%	3.33	3.33	3.33	80.6%	3.33	3.33	3.33	80.6%	3.21	3.21	3.21	91.8%	3.21	3.21	3.21	3.45
【表現力】 自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる	72.0%	-	2.97	16.02	6.92	2.97	72.0%	2.97	2.97	-	-	2.97	72.0%	3.08	3.08	3.08	67.8%	3.08	3.08	3.08	67.8%	2.77	2.77	2.77	80.0%	2.77	2.77	2.77	2.96
友達の前で自分の意見を発表することができる	58.4%	-	2.73	14.50	7.32	2.73	58.0%	2.73	2.73	-	-	2.73	58.0%	2.84	2.84	2.84	51.7%	2.84	2.84	2.84	51.7%	2.55	2.55	2.55	66.2%	2.55	2.55	2.55	2.82
【共働力】 共同作業で、自分の力が発揮できる	72.5%	-	2.95	15.43	5.96	2.95	77.3%	2.95	2.95	-	-	2.95	77.3%	3.11	3.11	3.11	63.0%	3.11	3.11	3.11	63.0%	2.74	2.74	2.74	78.5%	2.74	2.74	2.74	3.05
探究性 【学びの意欲】 家や家で、誰かに言われなくても自分から勉強する	67.6%	-	2.86	15.86	7.69	2.86	66.8%	2.86	2.86	-	-	2.86	66.8%	2.87	2.87	2.87	60.8%	2.87	2.87	2.87	60.8%	2.71	2.71	2.71	75.6%	2.71	2.71	2.71	3.01
地域を対象としたPBLに積極的に取り組んでいる	76.5%	-	3.07	16.37	9.13	3.07	77.3%	3.07	3.07	-	-	3.07	77.3%	3.09	3.09	3.09	68.2%	3.09	3.09	3.09	68.2%	2.87	2.87	2.87	84.6%	2.87	2.87	2.87	3.27
学習を通して、自分がしたいことが増えている	61.9%	-	2.73	8.56	11.30	2.73	65.9%	2.73	2.73	-	-	2.73	65.9%	2.84	2.84	2.84	57.3%	2.84	2.84	2.84	57.3%	2.64	2.64	2.64	63.1%	2.64	2.64	2.64	2.74
【情報活用能力】 情報や、勉強したこと関連で理解できる	72.8%	-	2.95	14.56	7.92	2.95	67.6%	2.95	2.95	-	-	2.95	67.6%	3.12	3.12	3.12	68.2%	3.12	3.12	3.12	68.2%	2.86	2.86	2.86	80.0%	2.86	2.86	2.86	3.09
勉強したものを実際に応用している	68.4%	-	2.87	14.53	10.18	2.87	61.4%	2.87	2.87	-	-	2.87	61.4%	2.78	2.78	2.78	67.3%	2.78	2.78	2.78	67.3%	2.91	2.91	2.91	86.2%	2.91	2.91	2.91	3.16
【批判的思考力】 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	51.0%	-	2.56	21.25	10.41	2.56	52.3%	2.56	2.56	-	-	2.56	52.3%	2.58	2.58	2.58	40.3%	2.58	2.58	2.58	40.3%	2.36	2.36	2.36	61.5%	2.36	2.36	2.36	2.74
【省察力】 自分を客観的に理解することができる	75.3%	-	2.99	15.38	5.75	2.99	73.3%	2.99	2.99	-	-	2.99	73.3%	2.99	2.99	2.99	68.7%	2.99	2.99	2.99	68.7%	2.83	2.83	2.83	84.1%	2.83	2.83	2.83	3.15
社会性 【地域貢献意識】 国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい	64.3%	-	2.84	15.01	4.62	2.84	65.9%	2.84	2.84	-	-	2.84	65.9%	2.87	2.87	2.87	56.6%	2.87	2.87	2.87	56.6%	2.66	2.66	2.66	71.3%	2.66	2.66	2.66	2.99
地域をよりよくなるため、地域の課題に関わりたい	60.1%	-	2.74	17.82	4.58	2.74	62.5%	2.74	2.74	-	-	2.74	62.5%	2.80	2.80	2.80	50.6%	2.80	2.80	2.80	50.6%	2.55	2.55	2.55	68.4%	2.55	2.55	2.55	2.89
将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	62.7%	-	2.78	17.10	4.15	2.78	68.2%	2.78	2.78	-	-	2.78	68.2%	2.85	2.85	2.85	52.1%	2.85	2.85	2.85	52.1%	2.61	2.61	2.61	69.2%	2.61	2.61	2.61	2.91
【社会参画意識】 私に関わることで、社会状況が変えられると思う	67.4%	-	2.94	18.78	1.05	2.93	71.0%	2.93	2.93	-	-	2.93	71.0%	2.96	2.96	2.96	60.2%	2.96	2.96	2.96	60.2%	2.71	2.71	2.71	79.0%	2.71	2.71	2.71	3.13
地域や社会での課題やできごとに関心がある	52.2%	-	2.59	13.55	10.67	2.59	50.6%	2.59	2.59	-	-	2.59	50.6%	2.59	2.59	2.59	46.4%	2.59	2.59	2.59	46.4%	2.43	2.43	2.43	60.0%	2.43	2.43	2.43	2.75
18歳選挙権を取得したら、選挙に行きたい	78.9%	-	3.27	14.44	3.21	3.27	72.2%	3.27	3.27	-	-	3.27	72.2%	3.25	3.25	3.25	77.3%	3.25	3.25	3.25	77.3%	3.18	3.18	3.18	80.5%	3.18	3.18	3.18	3.09
【ローカル意識】 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	64.9%	-	2.83	13.53	5.60	2.83	63.8%	2.83	2.83	-	-	2.83	63.8%	2.81	2.81	2.81	59.6%	2.81	2.81	2.81	59.6%	2.68	2.68	2.68	71.6%	2.68	2.68	2.68	3.00
将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	69.2%	-	2.96	14.29	7.75	2.86	69.3%	2.86	2.86	-	-	2.86	69.3%	2.90	2.90	2.90	61.6%	2.90	2.90	2.90	61.6%	2.65	2.65	2.65	75.9%	2.65	2.65	2.65	3.05
将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	56.7%	-	2.65	23.30	4.82	2.65	54.5%	2.65	2.65	-	-	2.65	54.5%	2.61	2.61	2.61	46.4%	2.61	2.61	2.61	46.4%	2.39	2.39	2.39	69.7%	2.39	2.39	2.39	2.97
【持続可能意識】 地域文化や暮らし、自らの手で未来に伝えたい	64.9%	-	2.84	18.28	3.21	2.84	69.9%	2.84	2.84	-	-	2.84	69.9%	2.95	2.95	2.95	54.0%	2.95	2.95	2.95	54.0%	2.61	2.61	2.61	72.3%	2.61	2.61	2.61	2.99
自分の将来について明るい希望を持っている	59.1%	-	2.71	20.73	5.46	2.71	65.3%	2.71	2.71	-	-	2.71	65.3%	2.84	2.84	2.84	46.4%	2.84	2.84	2.84	46.4%	2.45	2.45	2.45	67.2%	2.45	2.45	2.45	2.86
自分の将来について明るい希望を持っている	70.8%	-	2.97	15.82	0.96	2.97	74.4%	2.97	2.97	-	-	2.97	74.4%	3.06	3.06	3.06	61.6%	3.06	3.06	3.06	61.6%	2.76	2.76	2.76	77.4%	2.76	2.76	2.76	3.12

4. 生徒の行動実績

	全校		1年生 (2019入学生)		2年生 (2018入学生)		3年生 (2017入学生)	
	割合(%)	平均	割合(%)	平均	割合(%)	平均	割合(%)	平均
主体性に係る行動	71.7%	2.93	75.3%	3.05	69.9%	2.86	73.6%	3.01
授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	78.6%	3.10	84.1%	3.25	77.3%	3.07	80.0%	3.14
授業で興味・関心を持つに内容について、自主的に調べ物を行った	64.8%	2.76	66.5%	2.85	62.6%	2.66	67.2%	2.88
協働性に係る行動	73.2%	2.96	81.0%	3.15	70.6%	2.86	75.9%	3.06
自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	72.4%	2.93	78.4%	3.12	69.7%	2.84	75.4%	3.03
友人などから、意見やアドバイスを求められた	73.9%	2.98	83.5%	3.19	71.6%	2.88	76.4%	3.09
探究性に係る行動	71.2%	2.89	71.6%	2.95	69.9%	2.82	72.6%	2.97
授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	74.6%	2.96	73.3%	3.01	74.4%	2.90	74.9%	3.02
公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えた力調べたりした	67.7%	2.83	69.9%	2.89	65.4%	2.75	70.3%	2.91
社会性に係る行動	48.7%	2.40	48.9%	2.41	44.1%	2.26	53.7%	2.56
いま住んでいる地域の行事に参加した	43.6%	2.26	43.2%	2.24	37.0%	2.08	50.8%	2.46
地域社会などでボランティア活動に参加した	38.9%	2.19	35.8%	2.09	30.8%	1.96	47.7%	2.43
先生、保護者以外の地域の大人と、おにげない会話を交わした	63.5%	2.76	67.6%	2.90	64.5%	2.73	62.6%	2.79

5. 満足度

	全校		1年生 (2019入学生)		2年生 (2018入学生)		3年生 (2017入学生)	
	割合(%)	平均	割合(%)	平均	割合(%)	平均	割合(%)	平均
今の生活全般に対する満足度	64.8%	6.22	67.6%	6.41	58.3%	5.76	69.2%	6.55
この学校に入ってよかったと思う	82.1%	3.18	84.1%	3.29	77.7%	3.04	85.1%	3.22



島根県立松江東高等学校

〒690-0823 島根県松江市西川津町510番地

TEL.0852-27-3700 FAX.0852-27-3703

URL <https://www.matsuehigashi.ed.jp/>

松江東高校

検索

